

緑と水の森林ファンド公募事業報告集

Vol. 14



産学協同で取り組む「こどものけんちくがっこう」
NPO 法人こどものけんちくがっこう（鹿児島県）

はじめに

昭和 63 年に 3 月に「緑と水の森林基金」が創設されてから、36 年余の歳月が経過しました。平成 23 年 7 月には、機構の組織が社団法人から公益社団法人に変更となったことに伴い「緑と水の森林基金」は「緑の水の森林ファンド」に名称を変更し、ファンドの運用収入を活用して森林資源の整備や水源かん養等の課題を中心に、「国民参加の森林づくり運動」推進のため幅広い事業を展開してまいりました。

2015 年（平成 27 年）9 月の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成や、人生 100 年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林空間利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け、今なお森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中で、当事業は、「国民参加の森林づくり」の一層の推進のための普及啓発、森林ボランティア活動への支援、森林環境教育を通じた次世代の育成などの課題を重点に、実施主体により中央事業、都道府県事業、公募事業の 3 つに区分し実施してまいりました。

本報告書は、このうち公募事業（令和 4 年度）（令和 2・3 年度・事業期間延長分）の成果を報告集として取りまとめたもので、事業内容は多種多様な課題にわたっております。ご高覧いただき皆様の活動の一助としてご活用いただければ幸いです。

終わりに、本冊子のとりまとめに当たりまして、ご協力いただきました皆様方に心から御礼申し上げます。

令和 6 年 3 月

公益社団法人国土緑化推進機構

緑と水の森林基金・ファンド 刊行物一覧

「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成2年版	(1992.4)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成3・4年版	(1994.8)
「緑と水の森林基金」事業事例集	21世紀へ引き継ぐ森林づくり	平成5・6年版	(1996.3)

緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL 1	緑と水のサイエンス	(1996.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL 2	緑と水のサイエンス	(2001.7)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL 3	緑と水のサイエンス	(2004.6)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL 4	緑と水のサイエンス	(2007.8)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL 5	緑と水のサイエンス	(2009.5)
緑と水の森林基金	公募事業	調査研究成果選集	VOL 6	緑と水のサイエンス	(2010.4)

緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL 1	(2011. 3)
緑と水の森林基金	緑と水の森林基金公募事業報告集	VOL 2	(2012. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL 3	(2012. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL 4	(2013. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL 5	(2015. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL 6	(2016. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL 7	(2017. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL 8	(2018. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL 9	(2019. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL 10	(2020. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL 11	(2021. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL 12	(2022. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL 13	(2023. 6)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド公募事業報告集	VOL 14	(2024. 3)

緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL 1	(2013. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL 2	(2013. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL 3	(2014. 12)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL 4	(2016. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL 5	(2017. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL 6	(2018. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL 7	(2019. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL 8	(2020. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL 9	(2021. 2)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL 10	(2022. 3)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL 11	(2023. 6)
緑と水の森林ファンド	緑と水の森林ファンド都道府県事業報告集	VOL 12	(2024. 3)

目次

普及啓発

添別ブナ林を活用した森林環境教育活動（森のようちえん）／黒松内ぶなの森自然学校運営協議会	8
眺望山自然休養林を活用した健康増進活動／沖館地域緑の募金推進協力会	9
青少年への緑を通じた環境教育推進事業／青森県緑の少幼年団連盟	11
コロナに負けない里山 SDGs 活動／特定非営利活動法人おどろ木ネットワーク	12
里山整備に若い力を～きのごプロジェクト～／岩手県立大野高等学校	13
森フェス 2022in 遠野／特定非営利活動法人 遠野エコネット	14
森はサステナブル、未来にむけて学び、行動しよう！ESD アクション for SDGs	
／特定非営利活動法人水守の郷・七ヶ宿	15
自然にふれよう 山のがっこう／特定非営利活動法人 SCR	16
沈黙しないでピカピカ里山にしませんか／NPO 角館里山再生プロジェクト	17
「木のおもちゃとあそび」木育推進プロジェクト／あきたグッド・トイ委員会	18
フォレストサポート・2022／ガールスカウト山形県連盟	19
地域材の利用拡大と木育の推進事業／置賜「地材地住」ネットワーク	21
地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業／特定非営利活動法人 やみぞの森	22
暮らしと森林のつながり発見事業／ヤサトジム	23
荒廃している里山林（5ha）の再生と活用事業／なか自然の会	27
森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校／ぐんま森林インストラクター会	28
竹林整備によって作られる竹炭活用のサカキ（ヒサカキ）栽培／ちば里山・バイオマス協議会	29
第7回子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座／特定非営利活動法人 観照ボランティア協会	32
「森林を巡る国内の動向等に関するシンポジウム」／一般社団法人産業環境管理協会	33
「医師と歩く森林セラピーロード」／International Society of Nature and Forest Medicine (INFOM)	34
「森から学ぶ」森林の生物多様性と生態系サービスを考える／公益財団法人 Save Earth Foundation	35
森林と人との関わりから、持続可能な社会の実現を市民協働で考える連続講座・意見交換会	
／「森づくり政策」市民研究会	36
身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう／NPO 法人くにたち農園の会	37
シンポジウム「地域が育てる・地域を育てる—地方留学と農山漁村の未来—」	
／「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会	39
地域材利用を体験的に学ぶ教材及びデジタルコンテンツの制作／NPO 法人木育・木つかいネット	40
「水が繋ぐ地域と世代」促進事業 森と水のまつり・影祭り／一般社団法人全国森の循環推進協議会	41
森林資源の実践的な活用と伝承と森林環境教育／特定非営利活動法人自然文化誌研究会	43
「地球環境を考えるトークイベント」の開催／公益財団法人オイスカ	45
第6回全国木のまちサミット2022inひのほら／第6回全国木のまちサミット実行委員会	46
参加体験型森林学習教材の開発と全国の緑の少年団等での学習支援事業	
／東京学芸大 Explayground 推進機構	47
森で遊んで一緒に大きくなろう／森のようちえん風のいろ	49
子どもも大人も、思いのままに自然とつながる体験活動／さとやま子育てコミュニティいけだのそら	50
社会的共通資本としての財産区および財産区有林／NPO 法人調和の響きエコツーリズムネットワーク	51
第17回森のようちえん全国交流フォーラム at 富士山／森のようちえん富士山フォーラム実行委員会	52

北アルプス地域の里山広葉樹活用のための都市部こだわり層向け映像資料制作および普及啓発事業	
／北アルプス広葉樹活用研究会	53
森の輪ひろば／（一社）いび森のようちえん　こだぬき	54
三重の木の椅子展3／三重の木の椅子展実行委員会	55
親子で里山で作物を育て、クラス場を整え、里山の暮らしを体感しよう／社会福祉法人　森の風学舎	56
小さな林業の暮らし方を学ぼう／特定非営利活動法人コミュニティねっとわーく高島	57
地域産木材利用促進啓発事業／特定非営利活動法人　京都森林・木材塾	49
木育　森の恵み発信プロジェクト／やまぐに（林業女子会 @ 京都）	60
森を楽しむワクワク育児！『森のようちえん体験会』と『おやこまつり』	
／一般社団法人森のようちえんどろんこ園	62
寺林を守り育てる森林環境学習活動／フィールドソサイエティー	63
挿し木を介した都市部の緑化に関する教育普及と福祉の実践（崇仁すくすくセンター挿し木プロジェクト）	
／崇仁すくすくセンター実行委員会	64
森とまちをつなぐ木材コーディネーターによる「木づかい社会」定着のための普及啓発活動	
／NPO 法人サウンドウッズ	65
森林生態系から身近な自然を考える ESD ワークショップ～子どもと親をつなぐ「親」林空間の形成	
に向けて～／奈良教育大学附属中学校裏山クラブ	66
森林を活用したプレーパーク活動／特定非営利活動法人　隠岐しぜんむら	67
保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進／（公社）島根県緑化推進委員会	68
森のフリースクール／特定非営利活動法人ひろしま自然学校	69
コナラ・クヌギの伐採後、萌芽を育てシカ害を防ぐシカ柵の設置。／ふくの森の会	71
少年少女里山マイスター養成講座／特定非営利活動法人徳島県森の案内人ネットワーク	73
「とくしま木づかいフェア2022」の開催／とくしま木づかい県民会議	74
まちの縁が輪づくりプロジェクト／ひょうたん島まちなか再生事業	75
「由良野の森」の森のようちえん～親子自然体験事業～／NPO 法人みんなダイスキ松山冒険遊び場	76
地域の生物多様性保全に向けた森林 ESD 推進プロジェクト 2022／環境ネットワーク「虹」	77
第 27 回九州森林フォーラム in 宮崎県日向市～アフターコロナ社会における九州の森林づくり・家づくりの	
行方～／NPO 法人九州森林ネットワーク	78
飲食店と連携して行う地域材利用の普及啓発「天草の木づかい」フェア／天草ヒノキプロジェクト	80
母なる森に還る／一般社団法人 NATURE&HUMANS JAPAN	82
みんなで作ろう自然観察会／大分川ダム周辺のつはる里山保全活動実行委員会	84
NPO 法人アシスト・パル・オオイタ	
／森林整備で出る産物で有効活用を目指す「森林バイオマス」の見える化	85
妙音山森林自然公園を中心とした里山保全活動／妙音山を守る会	86
日本三大砂丘「吹上浜」の白砂青松再生事業～「森林ボランティアの日」森林づくり活動～	
／鹿児島県森林ボランティア連絡会	87
森に親しみ、その大切さを理解、保存していく事業／特定非営利活動法人らんらんらん	88
山村地域の森の循環を学ぶ体験事業／特定非営利活動法人もりびと	90
未来につなぐ大隅の森 100 年構想事業／特定非営利活動法人おおすすめ 100 年の森	91

調査研究

特別支援学校における森林環境教育とそのための森林公園利用に関する調査研究（要約） ／岩手大学農学部 高田乃倫予	94
埼玉県における園庭や裏山等を活用した自然保育に関する実証的研究 ／特定非営利活動法人 Support for Children	96
森林医学に基づいた予防・健康づくりを担う医師養成システムのあり方に関する 実証的研究／独立行政法人国立病院機構 東京医療センター	98
健康経営における森林サービスの活用企業研修における森林の持つ複合的な効果 ／田畑夏子 株式会社インテージホールディングス R&D センター / (申請時所属) 東京大学未来ビジョン研究センター ライフスタイルデザイン研究ユニット 客員研究員	100
高齢化の進んだ山村の地域資源である森林空間と有用植物の新たな活用に関する調査 ／一般社団法人全国森林レクリエーション協会	102
住宅の温熱環境と木質材料の関わりについての調査研究（要旨） ／一般財団法人林業経済研究所	104
「自然保育者に求められるコンピテンシーに関する研究」報告書（要約版） ／代表者：鶴見大学短期大学部 増田直広	106
認知症予防に向けた森林活用／一般社団法人 日本認知症予防学会	112
山の神祭事の継承と現代的意義に関する調査研究（要旨）／鹿児島大学 農学部 奥山 洋一郎	113

活動基盤整備

森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」／学校法人尚綱学院	116
ヤマアジサイの森の調査隊と山のボランティア育成講座／倉瀬ヤマアジサイの会	118
大学生を対象とした森林環境教育プログラム／特定非営利活動法人 Peace Field Japan	119
子ども樹木博士認定活動の活動支援の充実とネットワークの強化による森林環境教育の推進実施 ／子ども樹木博士認定活動推進協議会	121
安全で楽しい森林の保全・利用を指導できるリーダー養成講座／モリダス	122
森のきほんを学ぶ講座／のいちご会	124
森のようちえん・プレーパークの活動サポート事業／ぎふ森 遊びと育ちネットワーク	126
陀羅尼助（だらにすけ）の郷で森林づくり in 天川村洞川 part3／奈良県森林ボランティア連絡協議会	127
里山・自然体験リーダー・インストラクター人材育成@東広島／森林ボランティア団体もりゆう	128
「やまの家」先人の知恵を未来につなぐ体験事業／山内自治振興区	129
徳島県森林づくりリーダー養成講座／とくしま森林づくり県民会議	131
令和4年度 森林ボランティアリーダー養成講座／情報交流館ネットワーク	132
宮崎県みどりの少年団総合研修大会／宮崎県みどりの少年団連盟	133
産学協同で取り組む「こどものけんちくがっこう」／NPO 法人 こどものけんちくがっこう	134

国際交流

自然保育に関する公開シンポジウム及びユースセッション／日本自然保育学会第7回大会実行委員会	136
IUFRO OKINAWA 2022 : Progress in Small-scale Forestry beyond the pandemic and global climate change／国立大学法人 琉球大学	137

令和2・3年度・事業期間延長分

ユネスコ遺産にも認定された「和食」における「木づかい」についての調査・普及事業

／木育全国生産者協議会……………140

「FABとくしま」を活用した「緑のインフルエンサー」養成事業

／公益社団法人 徳島森林づくり推進機構……………141

「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・

プログラム開発・効果検証／Momo 統合医療研究所……………142

しんじゅくのいきものたんけん隊&惑星たんけん隊／一般社団法人キッカケスクエア……………143

「医師と歩く森林セラピーロード」／International Society of Nature and Forest Medicine (INFOM)……………144

「つくって、つながる」木の魅力発見プログラム2021／一般社団法人 TOBUSA……………145

幼児のストレスに及ぼす森林環境の生理学的効果計測と自然保育啓発／仙台大学柴田研究室……………147

「幼児期における学習環境としての森林の教育的効果に関する研究」

／郡山女子大学短期大学部幼児教育学科 柴田 卓……………149

養成校と地域が連携した自然保育の人材育成・確保に向けた実証的研究

／堤 裕美（上田女子短期大学幼児教育学科）……………151

森のようちえん活動基盤の整備・推進事業／特定非営利活動法人 遠野エコネット……………153

普 及 啓 発

添別ブナ林を活用した森林環境教育活動（森のようちえん）

黒松内ぶなの森自然学校運営協議会
〒048-0127 北海道寿都郡黒松内町南作開76

1. 活動の概要

黒松内町の添別ブナ林の有効活用し、青少年を対象とする森林ESDの推進するため、近隣市町村の幼児、小学生、その保護者を対象に森のようちえん活動を行った。

2. 活動の成果

活動に参加した保護者は、メンタルヘルスケアになり、日常的に森へ関わるきっかけとなった。身近な森林での地域内外の交流の場を創出することで、近隣市町村の住民へ森や川での活動の機運を高めることができた。

3. 参加者の声

- ・雨のなかの森あそびだったけど、思っていたよりも楽しくて良かった。
- ・馬が違和感なく普通にそばにいる雰囲気がとても良かった。
- ・白樺樹液を初めて飲んで、ほんのり甘くて美味しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月15日	11月19、20日	4月29日	計
事業量 又は 事業内容		森あそび	馬	春のデイキャンプ 白樺樹液	
参加者数	県内	18人	31人	14人	63人
	県外	人	人	人	人
	計	18人	31人	14人	63人
実施場所		北海道寿都郡黒松内町			

眺望山自然休養林を活用した健康増進活動

沖館地域緑の募金推進協力会

〒038-0002 青森県青森市沖館4丁目3-22

1. 活動の概要

青森市郊外にある眺望山自然休養林を活用して地域市民、小学校児童を対象に、森林が持つ心理的なリラクゼーション効果について森林セラピー体験会として実施し、ストレスからくる病気やいじめの予防につなげて市民生活の健康や明るい街づくりに資することとした。当日は、森林セラピストを総括指導者とし、ヨーガインストラクター、森林インストラクターを配置して、はじめに青森市森林博物館においてオリエンテーションを実施した。また、森林セラピストによる「森林の健康保養効果について」の講話並びに血圧・脈拍測定、ストレス度チェックを行った。

その後、バスで眺望山自然休養林西口コース一入り口に移動し、森林セラピストの指導の下、ストレッチで体をほぐし出発。西口コース折り返し2.5時間、途中、座観でせせらぎの川音やセミの鳴き声に耳を澄まし、青森ヒバに囲まれてマットに寝ころび瞑想をするなどでリラックスしながら森林浴。コース途中では森林インストラクターからヒノキ人工林や青森ヒバなどについて説明を受けた。引き返した管理棟前広場ではヨーガインストラクターによる指導でしばしの間深呼吸やヨーガで心身のリフレッシュ。昼食休憩後、管理棟前を帰途へ。

バスで森林博物館に戻った後、森林浴後の血圧・脈拍測定、ストレス度チェックを実施するとともに森林セラピストの終了面接、意見交換、そしてアンケートを行った。

なお、今回の体験会開催に当たっては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、案内や当日の対応としてマスクの着用、手指の消毒、体温測定、除菌シートの活用のほか、スタッフのフェースシールド着用、3密、近接の注意等について徹底した。

2. 活動の成果

ストレス度チェックを取り入れた森林浴体験会の企画は4回目であるが、当協力会会員、ヒノキアスナロ緑の少年団、同育成会及び一般市民の参加を得て実行することが出来た。今回の実施に当たっては、青森県内在住の森林セラピスト、ヨーガインストラクター及び青森森林インストラクター会の協力を得たほか、当協力会会員もスタッフに配置して実施した。また、実施準備としてスタッフ、森林セラピスト、森林インストラクターによるコース状況、安全点検等事前調査を行い事故もなく実施できた。

さらに、オリエンテーションにおいて、「緑と水の森林ファンド助成事業であること、当協力会はヒノキアスナロ緑の少年団とタイアップした街頭募金や当会独自に町会家庭募金を主事業にしている」旨を説明して参加者の理解を深めた。

当日、報道機関1社がテレビカメラを入れて活動内容を取材し、翌5日にその内容が報道された。

3. 参加者の声

参加者からは「大自然の中でのヨーガ体験等とても有意義。普段はできない山肌に寝ころび、木々の梢を眺めたり風の流れに気付いたり最高。改めて五感を使った。青森ヒバの香りを知った。(少年団員) 弁当がおいしかった。自然のことをたくさん知った。」等の感想が寄せられた。

実績報告取りまとめ表

実施時期		月日	計	備考
事業内容	ストレス度チェック を取り入れた森林浴	9月4日		1日のみの実施
参加者数	県内	25人	25人	
	県外	0人	0人	
	計	25人	25人	
実施場所		青森県青森市 青森市森林博物館、眺望山自然休養林		

青少年への緑を通じた環境教育推進事業

青森県緑の少幼年団連盟

〒030-0813 青森県青森市松原一丁目16番25号
(青森県森林組合会館内)

1. 活動の概要

県内の緑の少幼年団育成強化を図るため、森林公園や地域の里山を活用して、屋外森林教室や木工教室、交流会を実施し、次代を担う青少年の森林・緑に対する理解を深め、生物多様性の保全や地球温暖化防止の意義を学ぶ。また、緑の少幼年団に団服や図書を支給し、さらなる意識の高揚を図る。

2. 活動の成果

県内4地区6箇所緑の少年団交流集会を開催した。

地域の里山や県民環境林を活用し、参加した子供達が森林の多面的機能や地球温暖化防止等に重要な役割を果たしている事を学び、さらなる緑化意識の高揚を図ることが出来た。

3. 参加者の声

- ・木工教室で地元の木を使うのが大事なことがわかった。
- ・きのこがどのようにして育つのかわかった。
- ・林業の体験をしてみてどれだけ大変なお仕事なのかわかった。
- ・森林のお話で森林の果たす役割がわかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月9日	4月20日～ 4月21日	7月29日～ 12月20日	7月28日	計	備考
事業量	箇所	1箇所	2箇所	2箇所	1箇所	6箇所	
参加者数	県内 計	17人	80人	212人	40人	349人	
		17人	80人	212人	40人	349人	
実施場所		青森県外ヶ浜町・五所川原市・つがる市・三戸町・階上町・むつ市					

コロナに負けない里山 SDGs 活動

特定非営利活動法人おどろ木ネットワーク

〒038-0003 青森県青森市大字石江字江渡 106-227

1. 活動の概要

新型コロナウイルスの感染が続く中、子どもたちに「森林の大切さ」や「森林資源の活用」について楽しく学ぶ機会を提供しようと活動を始めました。しかし、感染の拡大が続き、屋外での「森林体験」イベントを断念し、屋外イベント中止の代替として、①「エコプロ 2022」への出展、②「青森市環境フェア 2022」への出店、③「里山 SDGs2023 展」開催等、独自に開発した「感染防止パネル」を活用した屋内イベントを積極的に実施しました。

2. 活動の成果

令和4年12月7日（水）～9日（金）東京ビッグサイトで開催された「エコプロ 2022」に出展し、400人を超える参加者に「おどろ木」づくりを体験してもらいました。その結果、「おどろ木」は幅広い年齢層に人気があり、環境教材として有効であることが分かったので今後は環境教材「おどろ木」の普及に努めていきます。令和4年12月11日（日）に開催された「青森市環境フェア 2022」では、「パネル展示」や「おどろ木をつくろう！」コーナーを設けて「森林の大切さ」や「森林資源の活用」について普及啓発活動を行いました。令和5年6月9日（金）～11日（日）、青森市の東奥日報新町ビル 3F 東奥 New's ホールにおいて「里山 SDGs2023」を開催しました。参加者した作家は15名、入場者は3日間で233名、里山という身近な視点からSDGsを考え理解を深め共感を広げること出来ました。

3. 参加者の声

「おどろ木」づくり体験が好評であった。また、ウィズコロナやアフターコロナ禍でのワークショップ活動用として独自開発した「感染防止パネル」についての問合せが多く寄せられた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		R4.12月7日～9日	R4.12月11日	R5.6月9日～11日	計	備考
事業量 又は 事業内容		「エコプロ 2022」 ■おどろ木づくり 体験 ■「感染防止パネル」に関するアンケート調査	「青森市環境フェア 2022」 ■おどろ木づくり 体験 ■パネル展示	「里山 SDGs2023」 ■展示コーナー ■写真コーナー ■ワークショップ コーナー		
参加者数	県内 県外 計	0人 400人以上 400人以上	80人 0人 80人	233人 0人 233人	713人	
実施場所		東京都	青森市			

里山整備に若い力を～きのごプロジェクト～

岩手県立大野高等学校

〒028-8802 岩手県九戸郡洋野町大野 58-12-55

1. 活動の概要

自然環境の復活や保全をとおして、青少年を対象に森林環境教育を促進することを目的としている。全校生徒で地域の里山を整備することにより、マツタケが発生しやすい里山の環境づくりを進め、秋の収穫を目指しながら、環境保全の重要性を学ぶ。

学校の北方約15kmに位置する久慈平岳（標高706.3m）の山麓に広がる約1haの里山を地元の方から借り受け、外部の指導者の方々から助言・指導をいただきながら、適度に枝打ちをし、堆積した落ち葉を除去するなどの整備を進めて19年目（準備段階1年を含む）となる。

また、整備で生じた間伐材を有効活用して栽培したシイタケ・ナメコの管理・収穫をとおして、持続可能な環境教育を継続した。

2. 活動の成果

里山整備に取り組むことにより、先人が守ってきた豊かな自然とその恵みについて見つめ直し、自然と共生する人間の生活を考えることができた。また、地域の活性化や未来についても考える機会となった。

地域住民との協働から、地域社会の一員であることを自覚し、郷土愛が喚起されるとともに、自己有用感を育むことができた。

3. 参加者の声

「マツタケがとれなくて残念だった。来年は、しっかり整備してとれるように頑張りたい。」

「今年こそは、マツタケがとれるように、しっかり整備したい。秋の収穫を期待している。」

「みんなで整備するのは楽しい。このような作業をして、マツタケの生える環境を整備していることが分かった。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	9月27日	10月～11月	6月17日	6月27日	計	備考
事業量 又は 事業内容	収穫祭 (全校生徒参加： マツタケ狩り)	シイタケ・ナメコ 不作により収穫できず	里山事前整備 (PTA実施)	里山整備 (全校参加)		
参加者数	県内	70人	8人	7人	70人	155人
	県外	人	人	人	人	人
	計	70人	8人	7人	70人	175人
実施場所	岩手県九戸郡洋野町					

森フェス 2022in 遠野

特定非営利活動法人 遠野エコネット

〒029-0661 岩手県遠野市附馬牛町上附馬牛 19-530

1. 活動の概要

市民の森林への関心低下から、獣害や豪雨による土石流災害が各地で発生している。この状況を改善するため、一般市民を対象に、森林を地域づくりに結びつけるセミナーや、各種体験会、マルシェなどを森林内で開催し、森林への理解と関心を高める機会とした。

2. 活動の成果

遠野市内のみならず、岩手県内外各地から、関係者を含めると2日間のべ315名が参加し、猛暑の中でも森林内は涼しく、音楽や講演、各種体験を通じて森林の持つ魅力を十分に感じていただけた。2日目には遠野市長も参加いただき、イベント内容を高く評価いただいた。また、各講師や出店者、参加者との交流の機会ともなり、事後アンケート調査結果でも、イベントの継続を望む声が多く聞かれた。

3. 参加者の声

- ・森のなかがとても心地よく、木洩れ日や蝉の鳴き声に癒され、感動の2日間でした。「森の語り場」では、学びが多くとても刺激的でした。「自然と共に生きるとはなにか」「豊かさとは」…など考えさせられる貴重な機会となりました。そして素晴らしい活動をされている方々が沢山いることを知ることができ、素敵な出会いが多くありました。あっという間の2日間で、終わった後も余韻がなかなか抜けません。ぜひこれからも続けてほしいです。(遠野市・40代男性)
- ・様々な分野の方が森に集まり、森の楽しみ方を提供する素敵なイベントでした。「森の語り場」のトークは、森づくりに関心のある方たちが聴きにきていたのでしょうか？今後継続することで、参加者も多様な層に広がりを見せると思います。(奥州市・30代女性)
- ・森に足を運ぶとても良いイベントだと思いました。規模拡大や改善も期待しますが、まずは毎年継続できることが大切だと思いますので、無理なく楽しく続けてほしいです。(北上市・50代男性)

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月30日	7月31日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森フェス 2022in 遠野 (1日目)	森フェス 2022in 遠野 (2日目)		
参加者数	大人	49人	66人	115人	関係者 7/30=57人 7/31=64人 合計=121人
	高校生以下	39人	40人	79人	
	計	88人	106人	194人	
実施場所		岩手県遠野市 遠野薪の駅及び周辺の森林			

森はサステイナブル、未来にむけて学び、行動しよう！

ESD アクション for SDGs

特定非営利活動法人水守の郷・七ヶ宿

〒 989-0532 宮城県刈田郡七ヶ宿町字根添 26 番地 1

1. 活動の概要

四季を活かした通年の森林体験プログラム。森が持続可能な資源（食材・用材・燃料）であることを体験から学ぶ。四季の森と共に生きてきた先人の知恵を共有するプログラムを実施する。当法人が管理する山林 1.6ha と七ヶ宿湖を中心としたフィールドの四季を活かし森林・林業体験プログラムを年間通し実施した。多様な生態系サービスを提供してくれる森林の中で行う体験活動は我々の原点となる人間力形成、これからの人材育成に寄与する。日本文化の基礎となる「資源循環と共生」を毎回活動に紐づけ SDGs と関連付けてプログラムを作成した。森のエネルギーを利用し自ら毎回火を使い体験するメニュー。9月森林ボランティアの日に合わせて開催している「森の音楽祭」は今年も 2 日間実施した。プログラムは改善を繰り返し、森をフィールドとしたオリエンテーリングをメニューに加えた。新規参加者もリピーターもいつも新鮮に活動出来るようこれからも変化を続けていく。

2. 活動の成果

この活動も 13 年目に入りスタッフが新規交代の時期に入ってきた。国連 SDGs の中でも持続可能な森林形成が重要な位置づけとなってきた。やるべきことを理解し参加者が主体的に動くことで事業を継続している意味を持つ。常連となる参加者に新規加わり、運営側も常に新鮮な気持ちで対応することが出来た。これまでにとらわれずという SDGs の理念を受けて常に考え続け、変化し、自然との関わりから感謝の芽を育てていくことにこの活動の使命感を感じる。

3. 参加者の声

親からの意見：参加する度に子供が成長することが喜び。

子供の意見：森にはいろいろな木があって、季節によって姿が変わるのが不思議。

火おこしが上手に出来るようになった。薪を割るコツがわかるようになった。

実績報告とりまとめ表

月 日	事業内容	参加者	備考
7月17日	カヌー体験・沢登り・親水事業	20	NO3, 4, 6, 13, 14, 15
8月21日	タイ王国、気仙沼児童館とのオンライン交流	13	NO3, 4, 6, 7, 13, 14, 15, 17
9月17, 18日	森と音楽の交流会	200	NO3, 7, 11, 15, 17
10月16日	栗拾い・焚き火と焼き芋	10	NO2, 3, 4, 6, 7, 8, 11, 13, 15
11月20日	ツリークライミング・森林体験	28	NO3, 4, 7, 15, 16, 17
12月18日	木工、きりたんぼ鍋	12	NO3, 6, 7, 12, 15
1月15日	餅つき、凧作り・凧揚げ	21	NO2, 3, 7, 12, 15
2月18日	手づくり味噌、ワカメを学ぶ、しゃぶしゃぶ	8	NO4, 7, 11, 15
3月19日	竹飯盒づくりと炊込みご飯、オブジェづくり	11	NO4, 7, 15
4月23日	ツリークライミング・森林体験	38	NO3, 4, 7, 8, 12, 15
5月20日	笹刈り、笹巻づくり、枝打ち体験	24	NO3, 4, 6, 12, 15
6月17日	森林体験枝打ち、間伐、薪割り	21	NO3, 4, 7, 12, 15
6月18日	樹名板付けと火起こし	21	NO3, 4, 7, 12, 15
参加者数	県内計	427	

自然にふれよう 山のがっこう

特定非営利活動法人 SCR

〒981-3341 宮城県富谷市成田7丁目23-21

1. 活動の概要

- ・目的 市民参加の森林づくり運動
8月11日の「山の日」、大亀山森林公園での地域の森林・林業について理解を深め、森林の役割や重要性について学び、森林を身近に感じてもらい、山の恵みに感謝する一日にすることを目的とする。
- ・内容…森林教室（①森づくりについて、②森と木について）、林業体験・森づくりの体験（森の中で伐倒見学、ノコギリを使った枝切り体験・枝片付け）、親子プランター作り（花苗付き）、記念の餅まき、スイカ割り

2. 活動の成果

- ・地域の自然に触れ、森林環境の大切さや、森を守る人（林業）を知り、体験を通して興味関心が一層深まった。
- ・間伐材を使ったプランターづくりでは、親子、兄弟で一生懸命作り上げ、協力と達成感を味わえ、家族で山の日に感謝する活動に繋がった。
- ・継続して開催することで、次世代のリーダー育成につながる活動になった。

3. 参加者の声

- ・林業という仕事を知るきっかけになり、親子ともども刺激的でした。
- ・森と人と木と環境の大切さがわかった。
- ・楽しかった、もっと木を切りたかった。（子ども達）
- ・餅まき懐かしかった。（親）
- ・花を育てる楽しみが続くのが良かった。山の日々の記念になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		8月11日	月 日	計	備考
事業量 又は 事業内容	自然にふれよう 山のがっこう	森林教室 林業体験・森づくり の体験 プランター作り			
参加者数	県内	62人	人	人	
	県外	0人	人	人	
	計	62人	人	人	
実施場所		宮城県 富谷市			

沈黙しないでピカピカ里山にしませんか

NPO 角館里山再生プロジェクト

〒 014-0316 秋田県仙北市角館町岩瀬町 29

1. 活動の概要

「角館」城下町に隣接した里山が利用されず放置されている気づきを進めるため、国際教養大学や支援学校との連携を絆に、里山環境整備・木の文化への理解・都市と地域住民の交流等、森林・緑・水に対する認識を深めるための普及啓発をすすめる。

2. 活動の成果

角館里山の森林老廃状況や安全なトレッキングコースの調査、遊歩道整備補修や生き物の集まる実の成る在来樹木植樹の実施、地域交流や森林環境学習を体験した若者や子供たちと、地域住民との交流により地域が活性化し、里山保全パートナー三者協定締結や地区住民団体の活動が活発化し、里山活動の広がりが感じられた。

3. 参加者の声

(横浜から参加した学生) 登山道など無い、山道を歩き、アフリカのジャングルかと思ったけど、所々にある埋もれた史跡や、なぜこの種の木が生えたかなどのお話を聞き楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		9月23日	9月25日	11月12日	11月18日	5月11日
事業量 又は 事業内容	種類	青少年を対象とする森林環境教育	森林総合的利用の山村地域活性化	青少年を対象とする森林環境教育	森林・緑・水の普及啓発地域づくり運動	森林・緑・水の普及啓発地域づくり運動
	内容	小倉山ルート調査(横浜和光中学)+デスカッション	小倉山に埋もれていた歴史掘り起しセミナー	小倉山ルート調査(国際教養大)+デスカッション	小倉山里山森林在来植樹〔里山協定三団体〕	七面山里山森林在来植樹〔地区住民団体〕
参加者数						
41	県内	7人	8人	10人	11人	5人
11	県外	5人	-人	4人	2人	-人
52	計	12人	8人	14人	13人	5人
実施場所		秋田県仙北市角館町				

「木のおもちゃとあそび」木育推進プロジェクト

あきたグッド・トイ委員会

〒010-0041 秋田市広面字野添 86-2

1. 活動の概要

- ・良質な木のおもちゃに触れ、子どもから大人まで多世代が交流し、あそぶ力は生きる力を体験する機会を提供することを目的に「木育キャラバン」を開催した。
- ・東京おもちゃ美術館を運営する特定非営利活動法人芸術とあそび創造協会監修の約300種類の木のおもちゃで遊ぶ「木育キャラバン」を主体に、工作ワークショップ、おもちゃで遊びを見つけるセミナー、秋田の木工製品の展示を行った。

2. 活動の成果

木のおもちゃで遊ぶ親子の笑顔、工作が出来上がり動かしてみた時の充実した顔、新しい発見を喜ぶ姿、積み木やクーゲルバーンなど繰り返し集中して遊ぶ真剣なまなざしなど、また、一緒にコミュニケーションをとりながら遊ぶ保護者の皆さんも、木のおもちゃを通して、木のぬくもりや音色など木の魅力を体感していました。

今後も「木」や「自然」のファンになっていただけるよう、実際に木と触れ合うことができる「木のおもちゃ」を活用した活動を継続していきたいと再確認する2日間でした。

3. 参加者の声

- ・木のおもちゃはぶつかった時の「音」も柔らかく、積み木が崩れるときも「崩れる音」なのに、耳に優しいことが魅力だと感じた。
- ・木琴で遊んでいたところ、近くで遊んでいた子どもたちから「こっちのほうがいい音だよ」と教えてもらった。子どもたちから遊びを教えてもらう体験が新鮮だった。
- ・発達障害をもつ子どもさんと来場されたお母さんが、時間をかけてじっくり積み木で遊ぶ我が子の姿を見て、成長を感じたと感動していた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月29日	4月30日	計	備考
事業内容	木育キャラバン	木育キャラバン		
参加者数	1,505名	1,733名	3,238名	
実施場所	秋田県秋田市 秋田拠点センター アルヴェ きらめき広場			

※ボランティアスタッフ 延べ32名

フォレストサポート・2022

ガールスカウト山形県連盟

〒990-0031 山形県山形市十日町 1-6-6

山形県保健福祉センター 4F

1. 活動の概要

目的：2015年に植樹した「森」の下刈り等の手入れをし、森づくり保全活動に取り組む。森や木にふれる森林体験学習を通じ、より森林を理解し環境問題への理解を深め、SDG13、15に貢献する。

内容：・育樹活動（下刈り・葛の根駆除・補植）
・森林体験学習（シイタケの菌打ち）

2. 活動の成果

- ・森づくり活動（下刈り／葛の駆除）により地域の里山保全に寄与できた。
- ・「育樹」の大切さを学び、「美しい豊かな自然」を守るために、より森林を理解し環境問題（地球温暖化等）への理解を深める姿勢を養うことができた。特に、SDG13・15について意識を高め、行動を起すきっかけになった。
- ・日頃使う事のない“鋏・電動ドリル・金槌・木づち”を使っただけの活動では、技術の習得や安全について学ぶ事ができた。
- ・森に自生している青苧から繊維を取り出す作業や、繊維糸を使っただけのクラフトづくりは五感が養われた。また「自然の恵み」を活かす体験ができた事は、子どもたちの健全な成長に寄与できた。
- ・一般参加者も多く、協働する事によって一般参加の方にも「森づくり」に対する関心を促し、SDG13・15について意識を高めることに寄与できた。
- ・育樹活動、森林体験学習ともに成果を上げているので、木が育つまで継続していきたい。

3. 参加者の声

- ・くずの根駆除は、はじめは難しかったが途中でいっぱい見つけた。家でもやりたい。(小学生)
- ・去年のピンが刺さっていて薬が効いていないのか新芽が出ていた。根をしっかりとやっつける。
- ・大きな鎌を初めて使った。思ったより切れるのでビックリ。(小6年生)
- ・スカウトが鎌を上手に使えるようになっていて成長を感じた。(リーダー)
- ・自然の中で“きのこの役割”について知れて勉強になった。(小学5年生)
- ・ドリルで穴を開けるのは大変だったが、木づちで打つのが楽しかった。音が気持ち良かった。
- ・斜面に補植したため、穴を掘って平らにしなかなかな難しかった大きく育ってくれると嬉しい。
- ・初めて参加し、子どもも楽しく参加できました。根に薬品を打ち込むなど初体験で大変勉強になりました。またこのような活動に参加し、子供にも森を大切にする気持ちを持ってもらえたらいいなと思いました。(一般参加者保護者)

実績報告とりまとめ表

実施時期		7/30 8/21 9/18	11月30日 (11月28日)	11月13日		11/30 1/30	計	備考
事業量 又は 事業内容		事前準備	現地踏査 (下見)	<育樹活動> ・下刈り ・葛の根駆除 ・補植活動 ・募金活動	<森林体験学> ・シイタケの菌 打ち ・なめこの収穫	事後活動		
参加者数	県内 計	6人 6人	7人 7人	50人 50人		6人 6人	69人 69人	
実施場所	山形県山形市・町市有地蔵王みはらしの丘地内（ガールスカウトの森）							

地域材の利用拡大と木育の推進事業

置賜「地材地住」ネットワーク

〒999-1363 山形県西置賜郡小国町大字小国小坂町 2-57
小国町森林組合

1. 活動の概要

地域材の利用拡大や木育を目的とした「置賜『地材地住』運動」推進のため、木工体験・地域木材利用等セミナー・木工教室等を開催した。

2. 活動の成果

- (1)木工体験を通して、身近にある樹木には沢山の種類があることを再認識した。
今後自然観察を行うときの着眼点を養い、より理解度を深めることが出来る。
- (2)セミナー参加者は、川上（森林）→川中（加工）→川下（利用）の流通を学んだ。
製材された板材や加工された木製品に直に触れ、視覚・触覚・嗅覚で木材を体感することができた。
「地材地住」の取組みや、木の文化「草木塔」の考え方を学んだ。
- (3)林業まつりに出展し、来場者へ「置賜木」木製キューブブロックをプレゼントした。
来場者は、木の良さを知るキッカケになった。
- (4)保育園児と地区の建築・建設組合による「置賜木」木工教室を開催した。
園児達は、木で物を作る楽しさを実感し、木への親しみを身に付けた。
- (5)置賜森林ノミクス推進フォーラムに出展した。参加者は、地域の森林資源の利活用について再認識した。

3. 参加者の声

- ・身近にある樹木には沢山の種類があることを再認識した。
- ・建物建設に地域で育った木を使うという考え方に感銘を受けた。
- ・木材を製材する瞬間を見学し、切りたての木材や加工された木材に触れ、とても貴重な経験をした。
- ・広葉樹木製品を見たり触ったりし、匂い・木目・色・硬さ・重さが一つ一つ異なることが分かった。
- ・「草木塔」の考えを知り感銘を受けた。このことを念頭に置き学修を深めていきたい。
- ・地域木材利用ポスターや模型を見て、地域づくり「デザイン」の考えが興味深かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		令和4年 8月9日	令和4年 9月29日	令和4年 10月15日～ 10月16日	令和5年 1月18日～ 2月9日	令和5年 3月2日	計
事業量 又は 事業内容		(1)令和4年度山形県緑の少年団置賜ブロック交流研修会 (1回)	(2)森林環境・森林利用、地域木材利用等セミナー (1回)	(3)第30回山形県林業まつり (2日間)	(4)保育園児と地区の建築・建設組合による「置賜木」木工教室 (3園)	(5)置賜森林ノミクス推進フォーラム 2023 (1回)	
参加者数	県内 県外 計	70人 人 70人	34人 人 34人	約300人 人 約300人	107人 人 107人	90人 人 90人	601人 人 601人
実施場所	山形県：天童市、米沢市、南陽市、長井市、飯豊町						

地域材による木工技術の普及と木材利用の普及促進事業

特定非営利活動法人 やみぞの森

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸 1-3-2

茨城県林業会館 4F

1. 活動の概要

- (1) 木工技術の普及を目的として、地域材を活用したDIY塾を毎月1回、年間12回開催した。専門技術者の指導の下で基本から学び、各自が自由な発想で家具づくりを楽しんだ。
- (2) エコプロ2022へ出展し、森林整備や環境教育などの活動状況、間伐材によるベンチ等を展示した。例年好評な「やみぞの森の自然素材によるワークショップ」も実施し盛況だった。
- (3) 森林環境保全のため実施している様々な活動の情報発信として、ニュースペーパーを発行し、当法人パンフレットとともにイベント会場等やDMで配付した。
- (4) 研修会として、茨城県の大子町森林組合にて県北部の森林の現状と市場動向に関する座学後、地域材活用事例として各方面から注目される大子町木造新庁舎の視察研修を実施した。

2. 活動の成果

- (1) DIY塾では、専門技術者の指導を受けた結果、参加者全員が自身でテーブル、小椅子、棚などを作れるまでになった。このような木工技術の普及は、地域を活性化し、地域材の利用拡大も期待でき、継続する意義は大きいと考えられる。
- (2) パネル展示だけでは分からない実物見本を見て触ってもらう実体験と共に、木の実など自然素材によるワークショップを行い、森林を身近に感じてもらう効果が認められた。
- (3) パンフレットやニュースペーパー、見学会などを通し、森林環境保全の啓発に繋がった。

3. 参加者の声

- ・DIY塾では大工さんに基本から教えてもらえたので、毎回楽しく参加でき上達実感できる。
- ・DIY塾で作ったテレビボードは、初めての大作であり自宅リビングで大いに役立っている。
- ・大子町新庁舎は、新聞やテレビで知っていたが、今回実物を見学でき非常に参考になった。
- ・ワークショップで、松ぼっくりや木の実の配置を考えながら作るのがとても楽しかった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7/10～6/11	12/7～12/9	12/15～1/30	6/14～6/14	計	
事業量						
参加者数	県内	120人	?人	10人	20人	150人
	県外	12人	61,541人	0人	0人	61,553人
	計	132人	61,541人	10人	20人	61,703人
実施場所	○茨城県：笠間市、つくば市、水戸市、 ○東京ビッグサイト					

暮らしと森林のつながり発見事業

ヤサトジム

〒315-0102 茨城県石岡市太田300番地

1. 活動の概要

茅葺の古民家とそれを取り巻く棚田、水源、井戸、里山の雑木林、茅場、杉ヒノキの人工林、竹林等の様々な資源が一つの流れの中で循環し、現代人の営みと接続した地域そのものの環境が持続的に保たれる仕組みのモデルとなる。

今回の助成事業で達成したい目標：

都心住民及び森林のある地域に住みながらも触れる機会のなかった子ども、若者を参加者に募り、上青柳78近辺に残る里山資源に実際に触れ、利活用を体験することで、森林と里山の資源循環を実感を持って学ぶ機会となる。

1. 茅葺き体験会・・・茅（森裾に自生するススキ）や竹を活かした技術である茅葺きを体験する。茅拵え体験、見学会
2. 民家と森林のつながりを学ぶ会・・・主に都心住民の中の民家と里山に関心のある人の集まる団体向けに、森林環境と民家の有り方、環境改善の方法を実地で学ぶ。民家の学校第5回講座「民家再生の現場」他
3. 森の資源活用実践の会・・・杉、ヒノキ、竹の伐り出し、森の資源の活かし方を、実践者の指導により体験し学ぶ。幹、皮、枝、葉、それぞれに活用法を探る。成果物としてテントを制作しマルシェに出店。
4. 子ども・親子向け自然体験・・・大学生による研究調査協力（1、材木について 2、草原・茅葺きについて）、幼児～小学生向けに広葉樹の枝を活用したバードコール作り等
5. 茅刈、茅場の手入れの会・・・森林環境の一部である山裾の茅場の手入れ、刈り取り、茅材料の活用
6. 環境モデルとしての発信・・・実施内容をSNSやウェブサイト、オンラインイベントを通じて広く発信する。「武蔵野美術大学校友会オンラインサロン風月」での事例発表、他

2. 活動の成果

森林、里山、民家といった3つの領域それぞれ単体でプログラムを組むのではなく、3つの領域を横断的に体験できるようにプログラムを組んだことにより、人の暮らしと森林、里山のつながり、利害関係、地理的關係等、様々な関係性を身をもって体験してもらうことができた。素材一つとってもそれ単体で体験するのではなく、例えば民家をじっくりと見学する中で素材が複数発見され、それらが採取される場所が近隣にきちんと存在する事実や、その採取のWS等を通して住む人の暮らしの範囲に存在する里山や森林の資源の流れを感じてもらうことができた。

今回は、かつての暮らしを取り巻いていた里山や森林と人々の暮らしの関係をたどることができたが、今後は、現代には失われてしまったかつての森林や里山と人の暮らしとの関係性を、同現代なりに再構築していくかという課題に、実際の民家を利活用しながら取り組んでいく予定である。

また、今回小径木の現代なりの製品化と素材生産を行い、開発したテントをマルシェで展示し、多くの人たちにこれからの森林の利活用の仕方の1例を届けることができた、今後は製品への利用だけでなく、土木資材として今回は使いきれなかった小径木の梢や枝などを民家の環境改善や土木の資材として商品化し、換金していく仕組みを実装していきたいと考えている。

3. 参加者の声

(※参加者アンケートより抜粋)

- ・周辺散策をして、田んぼ、森林、水源の実情が少しだとは思いますがわかりました。
- ・古民家の周辺環境は、少し観察しながら歩くだけで色々問題提起や自然観察ができる場所だということがあった。
- ・今回のように問いかけをもらいながら散策してみることで、家の敷地で区切られるものではなくもっと広範囲の環境と連続してとらえる視点の大切さを感じました。
- ・地方の生活は住宅を修繕・保存するだけではなく、周辺の環境（山や畑や水路）等を含めて整える必要があることを実感しました。
- ・現代なりの、山と人との関係性の結び方、考えていかねばならないなと感じました。

実績報告とりまとめ表

1. 茅葺き体験会

実施時期		月 日	月 日	月 日	計	備考
事業量 又は 事業内容	茅葺き体験会・・・茅（森裾に自生するススキ）や竹を活かした技術である茅葺きを体験する。茅拵え体験、見学会	7/31	9/19	6/5	3日	協力・合同：やさと茅葺き屋根保存会、常陸風土記の丘、日本民家再生協会、益子濱田窯
参加者数	県内	9人	0人	0人	9人	
	県外	3人	8人	1人	13人	
	計	12人	8人	1人	22人	
実施場所		茨城県 石岡市				

2. 民家と森林のつながりを学ぶ会

実施時期		月 日	月 日	月 日	計	備考
事業量 又は 事業内容	民家と森林のつながりを学ぶ会・・・主に都心住民の中の民家と里山に関心のある人の集まる団体向けに、森林環境と民家の有り方、環境改善の方法を実地で学ぶ。	9/28, 9/29	10/16	1/27, 1/28	5日	協力・合同：日本民家再生協会、株式会社やまなり
参加者数	県内	4人	1人	4人	6人	
	県外	0人	38人	0人	38人	
	計	4人	39人	4人	42人	
実施場所		茨城県 石岡市				

3, 森の資源活用実践の会

実施時期		月日	月日	月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	森の資源活用実践の会・・・杉、ヒノキ、竹の伐り出し、森の資源の活かし方を、実践者の指導により体験し学ぶ。 幹、皮、枝、葉、それぞれに活用法を探る。成果物として TENT を制作しマルシェに出店。	10/2 10/4	11/24 11/25	12/11	5/19, 5/20	7日	協力・合同：石岡市地域おこし協力隊、株式会社やまなり、下館京師会、ワニナルプロジェクト
参加者数	県内 県外 計	3人 3人 6人	2人 1人 3人	1人 0人 1人	50人 0人 50人	56人 4人 60人	
実施場所		茨城県 石岡市					

4, 子ども・親子向け自然体験

実施時期		月日	月日	月日	計	備考	
事業量 又は 事業内容	子ども・親子向け自然体験・・・大学生による研究調査協力（1、材木について 2、草原・茅葺きについて）、幼児～小学生向けに広葉樹の枝を活用したバードコール作り等	10/9	11/25 11/26	1/26 2/17	5日	協力・合同：フリースタイルキッズ	
参加者数	県内 県外 計	0人 4人 4人	4人 0人 4人	0人 2人 2人	4人 6人 10人		
実施場所		茨城県 石岡市					

5, 茅刈、茅場の手入れの会

実施時期		月日	月日	月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	茅刈、茅場の手入れの会・・・森林環境の一部である山裾の茅場の手入れ、刈り取り、茅材料の活用	11/28	12/15	12/25 12/26	1/10 1/12	6日	協力・合同：石岡市地域おこし協力隊・やさと茅葺き屋根保存会
参加者数	県内 県外 計	1人 0人 1人	4人 0人 4人	8人 0人 8人	8人 0人 8人	21人 0人 21人	
実施場所		茨城県 石岡市、つくば市、かすみがうら市					

6, 環境モデルとしての発信

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	環境モデルとしての発信・・・実施内容をSNSやウェブサイト、オンラインイベントを通じて広く発信する。	10/27	随時	1日	協力・合同：武蔵野美術大学校友会
参加者数	県内 県外 計	不明※ 不明※ 485人	約50人 約30人 80人	不明※ 不明※ 565人	※オンライン開催のため 不明
実施場所		茨城県 石岡市 及び オンライン上			

荒廃している里山林（5ha）の再生と活用事業

なか自然の会

〒319-2104 茨城県那珂市平野 1800-395

1. 活動の概要

- ・里山林（通称：冒険の森）とヒノキ林（市有林）の保全整備と活用を通じて自然環境の保全や地域住民の憩いの場を提供することでいつまでも安心して住み続けられるまち・地域づくりを目指す
- ・同時に地域の子供たちに今ある那珂市の自然環境が将来に引継ぐ価値のある貴重な自然だということを知ってもらう活動をする。学校の授業に組み込むことを実現したい
- ・定期的に（月5回）当該山林、谷津田法面、ヒノキ林、散策路の伐採や草刈りなどの保全整備を実施

2. 活動の成果

- ・昨年地域の方の協力で造成した丸太小屋とその周囲を整備し家族が遊べるようにした
- ・整備している森林、散歩道を利用した体験会・観察会を5回実施した。参加者から好評でした
- ・谷津田法面のしのと枯木を処理することで見通しが良くなり不法投棄がほとんどなくなった
- ・森林整備は継続しないとすぐ元に戻ってしまいます。多くの方に参加していただくことで今後何十年と那珂市瓜連地区の貴重な自然を守っていく

3. 参加者の声

- ・散策路が整備されているので安心して歩ける
- ・森で木を切ることがこんなに楽しいと思わなかった
- ・高速道路に近く、かつ町中に近いので参加しやすい
- ・住んでいる周辺に多くの貴重な動植物がいることに驚かされた

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容		7・28・7,8・11 12・2 森林体験会 12/2 東京から参加、	11・27 樹木観察会		毎週土曜日（月4回）と 第三月曜日の保全整備活 動は雨天以外実施。30回 ×9名=270名
参加者数	県内	101人	28人	129人	年間総計424人
	県外	28人	人	28人	
	計	129人	28人	157人	
実施場所		茨城県 那珂市・町 静古徳地区			

森はともだち 楽しくまなぼう 森友 楽校

ぐんま森林インストラクター会

〒371-0846 群馬県前橋市元総社町 739-5

1. 活動の概要

自然観察会、木登り体験、ネイチャーゲーム等を通じて、自然と親しみ、環境保全や人格形成に理解を深めてもらうと共に、普及啓発や森林環境教育を行なう。

2. 活動の成果

自然観察等を行うことにより自然のすばらしさを実感し、その維持、保全の必要性を認識した。森林生態系、生物多様性をふまえ、幅広い森林環境教育を行なう。

3. 参加者の声

自然の中には、たくさんの草花や樹木があることを教えていただきました。それぞれの特徴や名の由来など聞いて興味がわいてきました。森林の働き、地形の成立ち、自然保護など、たいへん勉強になりました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		4年 7月 9日	7月 23日	8月 27日	9月 17日	10月 22日	5年 1月 28日	2月 11日	5月 6日	計	備考
事業量											
参加者数	県内	30人	28人	26人	28人	19人	25人	前日の	26人	182人	
	県外	0人	2人	3人	0人	0人	0人	大雪の	2人	7人	
	計	30人	30人	29人	28人	19人	25人	為中止	28人	189人	
実施場所 群馬県		赤城山	尾瀬沼	榛名山	谷川岳 山麓	前橋市	前橋市	赤城山	赤城山		

竹林整備によって作られる竹炭活用のサカキ（ヒサカキ）栽培

ちば里山・バイオマス協議会

〒290-0056 千葉県市原市玉井 2437-2

ホマレヤビル 3F

1. 活動の概要

2年目となったヒサカキの育成について、生育調査と栽培指導を受けた。

液肥の土中灌注と虫のモニタリング板を設置し、必要に応じて消毒をする。

採光の改善のために伐採した竹について、ミニ門松や竹加工の素材としたほか竹炭加工の原料とした。

樹木医集団である(株)木風に引き続きヒサカキの病害虫について調査してもらった。その結果、外来種とみられる害虫および日当たり等の環境から発生する病気がまだ蔓延していることが分かった。チャトゲコナジラミの防御、すす病、白藻病対策などを施した。千葉県の樹木医にも、セカンドオピニオンとして調査してもらった。

千葉県市原市では地元のヒサカキを国産サカキとして販売も見られるが限定的であり、市場は国産サカキを必要としている。国内では毎月1日（朔日）、神棚にサカキを上げる習慣が残っており需要は潜在的にある。チャトゲコナジラミの防御、すす病、白藻病は広範囲で広がっているが、サカキ、ヒサカキの病害虫駆除には調査研究が少ない（木風の調査による）という現状がある。

竹炭は植栽にも使われ土中環境の改善になると言われている。竹炭（バイオ炭）は、農地、造園用として活用されるようになった。2022年、千葉大学の高橋准教授がこれを活用して、クロモジの生育調査をすることになった。

2. 活動の成果

2年目の取り組みとして、周囲の竹を切って採光と通風を改善した株の成長が良いことが分かった。

白藻病とコナジラミの駆除は進んだ。新たに苗木を30本購入して、タケノコの季節に参加者に植栽を手伝ってもらった。植栽「お手植え」の体験は、参加者たちに好評であった。

今後も毎年、この場所を訪れたいという声も聞かれた。

様々な知見を持った方が、参加されていて、産業用の麻の栽培について法律が変わるという話も聞いた。THCフリーの麻の栽培が許可されることになれば、市原市は房の国、もともと麻の栽培が盛んだ地域であることから、産業用麻の復活は大きな話題になると考えられる。現在は大麻取締法によって厳しく制限されている麻の栽培であるが、将来大きな転換点があると思われる。

3. 参加者の声

ヒサカキの植栽を体験し、これからもこの場所に来るのが楽しみになった

国産のサカキをぜひ利用したい、枝ものとして活用してほしい

間伐した竹の活用ができてよかった

竹林で体を動かし、深呼吸出来て気持ちが良かった

普段何気なく見ている山や林にも人の手が加わってきれいに保たれているということが知れて今後の山や林に対する見方が変わりました

ノコギリの使い方上手になりましたありがとうございました

新しい挑戦ができてよかったです

楽しさと一緒にいろいろ新しいことを知りよかったです

とても良い経験になりました

大人も子供も一緒に作業できて達成感もありよかったです
 ノコギリの使い方についてよくわかった
 ノコギリで枝を切るのが楽しかった
 竹炭作りを学びにやって参りました現地で実際に焼いていたのはすごい
 炭作りが参考になりました
 楽しく活動できました
 このような機会はなかなかないので非常に貴重な時間でした。ノコギリのコツなど普段知ることのできないことを詳しく知ることができ楽しかったです
 大変参考になりました。何気なく歩けるのは整備されていたからだと感じました
 普段体験しない作業だったのでノコギリとか使えてよかったです
 力仕事が好きなのでとても良い体験ができました
 竹林整備をすることにより里山がきれいになりとても気持ちがいいです
 竹林の整備することで良い運動と経験になった
 とても丁寧に教えていただき楽しみながら作業できました
 ここで知り合った方と交流ができた

- ・本日ワークショップに参加してよかったこと（竹林整備でのアンケート結果）
 - 重複あり 選択枝
 - 竹林がきれいになった 23人
 - 竹炭づくり 9人
 - 適度な運動になった 21人
 - 以下、自由回答
 - たくさんの人と交流ができた 3人
 - 大人が頑張る姿を子供に見せることはよかった 1人
 - きれいな空気を吸った 1人

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月23日	7月30日	10月9日	11月13日
事業量 又は 事業内容		草刈り (活動準備)	竹林整備 流しそうめん	竹林整備	竹林整備 枯れ竹伐採 30本 運搬・竹炭作り
参加者数	県内	人	33人	12人	21人
	県外	人	3人	8人	10人
	計	人	36人	20人	31人
実施場所		千葉県 市原市			

実施時期		12月25日	1月29日	3月21日	4月22日
事業量 又は 事業内容		竹林整備 ミニ門松作り	竹林整備 枯れ竹伐採 30本 運搬・竹炭作り	ヒサカキ植栽	ダイアキッズ タケノコ堀
参加者数	県内	10人	13人	3人	23人
	県外	人	8人		3人
	計	10人	21人	3人	26人
実施場所		大多喜町	千葉県 市原市		

実施時期		4月29日	6月17日	計	備考
事業量 又は 事業内容		タケノコ堀 100本収穫 ヒサカキ植栽	ヒサカキ消毒 下草刈り		
参加者数	県内	22人	2人	139人	
	県外	10人		38人	
	計	32人	2人	177人	
実施場所		千葉県 市原市			

第7回子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座

特定非営利活動法人 観照ボランティア協会
〒270-1132 千葉県我孫子市湖北台 6-10-2

1. 活動の概要

6月3日(土)、4日(日)、自然豊かな新宿御苑及び隣接するレクチャールームの利用許可を得て、子どもたちに森林及び自然環境の重要性を伝えられる人材養成を目的とした「リーダー養成講座」を開催。講師は森のムッレ教室リーダーで、サステナブル・アカデミー・ジャパン代表の2人が担当。

講座1日目は新宿御苑のフィールドでエコロジーを学び、2日目は子どもへの伝え方を考え、グループごとに工夫に満ちたパフォーマンスで表現した。

レクチャーも2日間に渡って実施。1日目は講師による「自然活動と子どもの成長」、「なぜ野外教育なのか、スウェーデンの野外教育から学ぶ」をテーマに、2日目はフロレス・光地(子どもリビング学童保育指導員)による「子どもと共にいのちを感じるきっかけづくり」をテーマに自然な遊び場での子どもの行動変化・成長を経験に基づいた講演を行った。

2. 活動の成果

講座1日目は新宿御苑で樹木、土壌、草花、水辺を観察し、講師が光合成、物質循環、水の循環を解説。2日目は受講生が3つのグループに分かれて、1日目に学んだ水の循環、物質循環、光合成をテーマに、子どもに伝えるためのパフォーマンスを行った。どのグループも具体性があり、視覚に訴える楽しいものとなっていた。

3. 参加者の声

講座に対して受講生から高い評価を得ることができた。アンケートには、2日間で学んだことを整理して保育園に持ち帰り、担当のクラスはもちろん園全体に周知し、積極的に取り組んでいきたいとあり、環境リーダーとして子どもたちに伝えていきたいという感想が多く見られた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	6月3日	6月4日	計	備考
事業量 又は 事業内容	講座はレクチャールームで自然活動と子どもの成長、なぜ野外教育なのかをテーマに講義を実施。午後から新宿御苑園内での樹木など自然を観察。	レクチャールームで自然の遊び場での子どもの行動変化・成長をテーマに特別講演を実施。午後は新宿御苑園内で受講生によるパフォーマンスを実施。		
参加者数	県内 16人 県外 1人 計 17人	17人 2人 19人	33人 3人 36人	
実施場所	東京都新宿区内藤町 11			

「森林を巡る国内の動向等に関するシンポジウム」

一般社団法人産業環境管理協会

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町二丁目2番1号

1. 活動の概要

2021年6月に閣議決定された「森林・林業基本計画」で「グリーン成長」の実現を目指すとして、森林資源の適正な管理・利用のための取組が加速化されています。そしてESG投資の市場拡大や森林の有する多面的機能を発揮させるための森林・林業の整備に関する投資の在り方の検討も開始されています。このような状況を踏まえ、森林を巡る国内の動向をテーマにシンポジウムを開催しました。会場及びオンラインそれぞれの参加者からの質問を受け付け、双方向型で開催しました。

2. 活動の成果

シンポジウム終了後に、申込者及び関係者の方々に録画視聴もできるようにしたことから、社内等での周知が広まるなどの効果があったと考えられます。また、講師との連絡を希望された参加者があり、森林管理等に関して今後の活動の推進のための橋渡しができたと考えます。

森林等への関心の高まっている状況から、今後も多くの方のニーズに応えられる内容での普及啓発活動を行っていくことの重要性を強く認識しました。

3. 参加者の声

参加者へのアンケートを実施しましたが、94%が「大変よかった・よかった」との回答で、具体的な意見として、「森林に関する最新動向について話がきけて勉強になった」、「林野庁が広く展開している施策についてよく理解できた」、「職場内や関係のある企業・団体等と共有したいと思う内容であった」がありました。

国内の森林を巡る動向等の情報提供等ができ、SDGsの目標達成のための活動等にも役立ててもらえることが期待できます。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月10日	月 日	計	備考
事業量 又は 事業内容					
参加者数	県内	37人	人	37人	
	県外	91人	人	91人	
	計	128人	人	128人	
実施場所		東京都港区／Zoom			

「医師と歩く森林セラピーロード」

International Society of Nature and Forest Medicine (INFOM)
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-19-4

1. 活動の概要

本事業は、森林空間内滞在によるストレス緩和が、都市部と比べ有意になされると実験・証明された“森林セラピー基地[®]”の中から6ヶ所を選び森林医学に精通した医師同行で開催した事業である。医師は、森林の持つ予防医学的効果の講話とストレス度を含む検査の講評、ガイドは、森林全般の有用性、地元文化との接点等を解説し、森と木と人との共助及び各々の保健を促した。但し、COVID-19の影響で、2ヶ所は医師の派遣はリモートとなった。

2. 活動の成果

本活動の目的は、一義的には医学的・科学的実証に基づく森林環境の持つ癒し機能を参加者が体感し健康維持・増進に役立てる事であるので、豊かな森林が無ければこの活動は成立しない。今回はCOVID-19の影響で参加者の多くが近隣住民となった事で、近隣住民に森林環境の重要性が再認識されると共に、森林自身が有る事が地元経済の活動の活性化を促すことに気付かせた。一方、ガイド及び担当者が同行した基地から現状を聞き、森林セラピー[®]の普及啓発の一助となった。今後の活動としては、地元の基地も気づかなかつた近隣への呼びかけの経過と、時々訪れるインバウンドへの広報も視野に入れる必要性も示唆出来た。

3. 参加者の声

イベント全体：とても気持ちよく体の中からクリーニングできた。ゆっくりペースの配分、寝転び体験良し。

各種測定：森林効果を実体験出来た。

セラピスト、ガイドの対応：草木、動物の説明を受け、発見多数。興味、関心が広がった。

医師の対応：丁寧な説明、分かりやすい。押し付ける事なく寄り添う感じがありがたかった。

DVD鑑賞：分かりやすかった。効果は解ったがリモートが難しかった。

行動時間：もう少し長く歩きたかったが多数。

セラピー弁当：色々工夫、彩よい、味付け抜群、普段食べられない山菜料理、等々、表現種々で美味しさが述べられていた。

実績報告とりまとめ表 (参加者数合計 68名)

実施時期	事業量	参加者数	実施場所	備考(ロード名/コース名)
R4年9月11日(日)	3.5時間	7	鳥取県智頭町	こもれびの森
R4年10月29日(土)	3.5時間	5	鳥取県智頭町	こもれびの森
R5年5月4日(祝)	5時間	9	東京都奥多摩町	登計トレイル及び氷川溪谷
R5年5月20日(土)	5.5時間	19	群馬県上野村	北沢溪谷エリア
R5年5月26日(金)	5時間	24	山口県山口市	徳地野谷「愛鳥林エリア」
R5年5月28日(日)	5時間	4	三重県美杉町	三多気蔵王コース

「森から学ぶ」森林の生物多様性と生態系サービスを考える

公益財団法人 Save Earth Foundation
〒144-0043 東京都大田区羽田 1-1-3

1. 活動の概要

当法人が長野県東御市と保全協定を結んでいる市有林「東御の森」(溪畔林・SGEC 認証林)の自然環境を活用し、生物多様性や森林の生態系について考える機会として、自然観察会および講座を計画した。新型コロナ感染が終息せず計画修正をしながら小規模な交流会としての開催、森林の自然を紹介する動画・静止画などコミュニケーションツール作成の素材収集など工夫しながら活動を継続した。活動する中で結果として関係者の輪が広がった。

2. 活動の成果

ニューノーマル時代に向けての新たな教材やツール作成の試行はできた。また当法人の拠点である東京都での活動を開始、今後2拠点(都市部と山村)を結び with コロナ時代に向けての新たな活動方向へと向かう足がかりができた。

3. 参加者の声

東御市の住民からは、専門的な知識をもつ人との交流の機会が少なく、専門家を招聘する当法人の観察会等は貴重、今後もぜひ継続してほしいとの要望が寄せられた。また他所(都市部)の人からの指摘で、あたりまえのように思ってきた身の回りの自然を見直す機会となったという声もあった。

東京都在住者からは、檜原村訪問を通じて、東京にも村があり林業も営まれ、かつ水源ともなっていることを再認識した。足元を見直す必要を感じたとの感想があった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	交流会	2月19日	3月12日	12名	東御市で開催
	ワークショップ	1月13日		約100名	東京都文京区で開催
	見学	1月29日		10名	東京都檜原村で開催
参加者数	県内(東京都)			約110人	
	県外(東御市)			12人	
	計			122人	
実施場所		長野県東御市 東京都文京区・檜原村			

森林と人との関わりから、持続可能な社会の実現を 市民協働で考える連続講座・意見交換会

「森づくり政策」市民研究会

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-25-14 第1ライトビル 405号
特定非営利活動法人森づくりフォーラム内

1. 活動の概要

「森づくり政策」市民研究会では、森林と人との関わりのこれからについて、実践事例・研究事例を基に有識者・実践者・市民らが共に考え、議論し、課題解決に向けた協働のきっかけの場づくりを行っている。2022年度はオンライン配信講座を3回（内、地域会場と連携した開催が2回）実施した。その間に企画検討会議を1回、実践者らとの意見交換会を1回行った。

- (1) 連続講座『大人の山通い！ 専門でなくてもできる「通って楽しむ」山との関わり』
出演：中安佑太、森佳代子、森優真、佐野薫
- (2) 連続講座『今どうなっている？ 森林環境税』
出演：石崎涼子、井上有加、平塚けい子、鹿住貴之
- (3) 連続講座『地域の「モヤモヤ」を「ワクワク」へ！ さとゆめ代表が考えるこれからの森と地方創生』 出演：嶋田俊平、相川高信

2. 活動の成果

2019年より実施しているオンライン配信形式に加えて、地域会場からの配信や参加者・出演者が集合できる形を組み込み、都市部での開催時に参加が難しかった中山間地域の居住者やの参加促進を促し、またディスカッションでの意見交換もより活発に行われるようになった。連続講座は3回の実施で合計804人の申し込みがあった。

3. 参加者の声

- ・これからの暮らし方や山の活かし方の刺激と参考になりました。
- ・「市民参加」という視点で参考になりました。今後も多くの事例を収集し、地元での展開を進めたいと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期		12月1日	5月27日	5月28日	6月30日	計
事業量	5回	1回	1回	1回	1回	5回
参加者数	都内	183人	5人	127人	125人	430人
	都外	140人	5人	124人	105人	374人
	計	323人	10人	251人	230人	814人
実施場所		都内 地方会場 Zoom				

身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう

NPO 法人くにたち農園の会

〒186-0011 東京都国立市谷保 5119

1. 活動の概要

乳幼児の森林環境教育の普及を目的とし、身近な森や公園で、森づくりの活動を行い、生きる力、森のための4つのアクションを意識した活動を行いました。焚き火の薪を森から運び、収穫野菜を調理していただき、森の木に触れ、クラフトでは、木のケーキ作り、木のサンタさんづくり、はっぱのステンドグラス作り、森の生き物さがし、散策等を行いました。また小学生たちは秘密基地を作ろうと子どもたちで設計図を書き、大工さんの協力を得て、とても素敵なお家が完成しました。自然の大きさ、美しさ、不思議さ等に直接触れる体験を通して、自然に対する豊かな感性を養うこと、環境を大切に思う心を育てることができました。「森にふれよう」「木をつかおう」「森をささえよう」「森と暮らそう」を実感できる親子の自然体験・環境教育につながりました。

2. 活動の成果

今回の活動を通して、小さなお友だち、お母さんたちのやわらかな笑い声が溢れる関係性を作り、子育てを支え合う、協力し合う楽しさを知るきっかけにつなげることができました。森で出会った音、生き物、森の中で親子で作ったクラフトなど、子どもに良い影響を与えていることを実感することが出来たと思います。小さな実体験を積み重ねる子どもたちを見守り合うことで、自分から挑戦する力、楽しいを生み出す力を育むことができました。活動拠点である城山公園では、四季を感じ、生き物に出会い、都会の小さな森林内でのさまざまな活動等を通じて、環境と森林との関係に興味を持ち、理解を深めることが出来ました。子ども達が楽しみながら学ぶ世界を人と自然のかかわりの中で、深く広く作り出していく事をこれからの取り組みの一つにしていきたいと思っています。

3. 参加者の声

- ・ケーキ作りやサンタさん作りなど、子どもと一緒に作ったもので遊びながら木の温もりを感じられてよかった。
- ・活動日以外にも家族で森に遊びに行くようになった。活動を通して自然を大切にしようという気持ちが子どもにも芽生えたと思う。
- ・コロナ禍の中で行き場に困っていたが、近所で自然の中で遊ぶ場所があり、驚いた。森の中は密にならず過ごしやすいので今後も遊びに行きたい。良い場所を紹介してくれてありがとうございました。
- ・森の中は気持ちが良かった。
- ・小屋が完成して嬉しい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日		計	備考
事業量 又は 事業内容	身近な森林 で自然遊び を体験し、 森への関心 を深めよう	7/10	親子登山	7月：大人12名・子ども15名	
		10/6, 13, 20, 27	秋さんぽ	10月：大人38名・子ども40名	
		10/22～23	林業体験		
		11/4, 11, 18, 25	木工体験	11月：大人45名・子ども55名	
		12/1, 8	火起こしマスターになろう	12月：大人25名・子ども30名	
		12/15, 16, 18, 23	ナイフワークをしよう		
		12/27, 28	森作り、薪作りをしよう		
		1/12, 19, 26	森の恵みをいただこう	1月：大人36名・子ども45名	
		2/18, 25 3/5, 11, 21, 4/8, 15, 30, 5/6, 30:	小屋作り	2月：大人20名・子ども27名 3月：大人51名・子ども60名 4月：大人45名・子ども50名 5月：大人43名・子ども53名	
参加者数	県内計	大人 315人 315人	子ども 375人 375人	合計 690人 690人	
実施場所	東京都 国立市・国分寺市・八王子市・日野市				

シンポジウム「地域が育てる・地域を育てる —地方留学と農山漁村の未来—」

「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-12-6 高関ビル 3A

1. 活動の概要

都道府県の枠を越えて自分に合った高校を選び、実り多い3年間を過ごす新世代の子供たちと彼らを受け入れ育て送り出す地域社会の姿をとらえ、高校生「地方留学」に取り組む現場で奮闘する方々、当課題を網羅的に語る研究者をお招きし、「地域を育てる」側面にも注目しつつ、課題と展望を共有し、地方留学と農山漁村に未来について議論した。

2. 活動の成果

事例報告はいずれも当課題と真正面から対峙し様々に戦略を描いてきた自治体、高校、地域社会の姿を見せており、大きな反響があった。これまで高校受験生とその保護者に限定された情報であったものが、相互に関連していなかった分野、世代との関わりがあることが明らかとなり、事務局、座長らを通じて登壇者への問い合わせが多数寄せられている。

このシンポジウムをきっかけとして、小中学校統廃合のみならず高校の統廃合と地域社会の将来について議論する土台ができ、今後の展開への足掛かりを作ったと評価できる。

3. 参加者の声

過疎地域の高校を取り巻く現状、地域社会の取り組み、地域から高校等の学校がなくなる事の経済的損失、特色ある教育と学生受け入れによる地域振興、閉そく感に満ちた都市の暮らしや教育からのもう一つの道としての学び方、など、多岐にわたり課題と展望を見出すことができたという好意的な反応を得ている。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月1日	月 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		シンポジウム			
参加者数	県内	人	人	人	
	県外	人	人	人	
	計	79人	人	79人	
実施場所		オンライン（会場：東京都港区）			

地域材利用を体験的に学ぶ教材及びデジタルコンテンツの制作

NPO 法人木育・木つかいネット
〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-2-14
新槇町ビル別館第一1階

1. 活動の概要

一般市民や児童がものづくりなどの体験を通して地域材とその利用について学ぶ教材及びデジタルコンテンツを制作し、オンライン・オンデマンドで学ぶ仕組みづくりに取り組むことを目的に事業を行いました。

- 1) 木育に関心を持つ市民、教育者、専門家などのヒアリングをもとに、体験型教材及び副教材の開発を進めました。
- 2) 地域材とその利用に関わる情報をまとめ、木育・森育に関する情報を交えたデジタルコンテンツを制作しました。森林や環境など備目敢的内容だけでなく、生産者の声や生産の過程など細やかな情報もまとめ、市民の理解と関心を高めるコンテンツとして私どもが運営するサイト（「木と森を育む暮らし百貨」）に作成しました。
- 3) 作り手と使い手を結ぶためのオンラインイベントを、前述のサイトにも関連付けながら私どもが企画する「木育カレッジ」の一環として告知しだれでも参加できる形で開催しました。アーカイブ配信も行いました。

2. 活動の成果

オンラインイベントの視聴回数は202名と多くの方にご覧いただくことができました。教材や副教材は木育イベントの際などに利用され、子どもたちに木材利用の意義や森林について学んでもらっています。今回作成した地域材利用の意義について学ぶことのできるコンテンツを今後、学校教育などに活用していきたいと考え、そのプロジェクトの準備をしています。

3. 参加者の声

オンラインイベントの参加者からは「地域材を使うにあたり、新しい視点での製品開発が必要ということがよく分かった」、今回作成したコンテンツ（教材及び副教材）については「非常にわかりやすく作られている。地域の子ども対象のイベントなどでも使いたい」などの感想をいただいています。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	備考
事業量 又は 事業内容	木育カレッジ第0回として開催 「地域に人を呼ぶ、木製品開発 と拠点づくり」	2023年6月18日（日）	
参加者数	県内 県外 計	参加申込145名。そのうちアー カイブ配信のみの希望者45名。 当日ライブでの視聴者は約50名	
実施場所		オンラインにて開催（配信場所は福島県いわき市）	

「水が繋ぐ地域と世代」促進事業 森と水のまつり・影祭り

一般社団法人全国森の循環推進協議会
〒221-0056 横浜市神奈川区金港町6-18
アーバンスクウェアⅡ1階

1. 活動の概要

地球温暖化防止・国土保全・森林整備・木製品消費促進・上下流域交流を目的とした、啓発活動を実行する。また、活動を通して山の学校への参加者を募ることを目的とする。

2. 活動の成果

前年度に比べてコロナウイルスによる規制が緩和傾向にはあったものの、ウイルスの流行以前に事業実施させていただいていた大きな水泳大会などは、いまだに入場制限があったため活動PRのみとなった。しかし、関係者からはイベント実施要望のお声をいただいております、今までの継続的なPRによって、今後、規制が更に緩和された際には以前のようにイベントを実施することのできる関係性を築くことができている。

また、継続的な活動PRを行っているスイミングスクールより、スクール主催のイベント実施の際にお声がけいただけたことによって、木工体験会とブース出展で間伐材を活用した木工キットを用いて事業の実施をすることができた。その際の参加者より木工キットに関するお問い合わせをいただいたことから、間伐材の利用促進に関する興味の入りの口となったことを実感した。

計画の練り直しを行い実施した親子向けの出前型「山の学校」では、コロナウイルス対策を十分に行いながら、水源涵養に関する内容の紙芝居や、山のろ過の仕組みを学ぶ簡易ろ過装置など複数のコンテンツを用いて水源地・森林保全に関する啓発活動を実施。更には木製楽器やピアノを用いた演奏では、音楽という身近なコンテンツを活用することで子どもから大人まで広い世代に向けて木製品の利用促進に関して周知していただくきっかけ作りを行った。

後に横浜市の水源地である山梨県道志村で行われた日帰り「山の学校」へ参加してくれた方もいたため、今後も啓発活動を継続することで上下流域交流の機会も増えていくと想定ができ、環境保全に繋がっていくと感じる。

3. 参加者の声

スイミングスクール様より

体験者はとても満足して喜んでくれました。制作中も私もやりたい！と言ってくれる

お子さまもたくさんいました！色々ご手配ありがとうございました！

盛況に終わりましたので、是非またお願いします。

参加者様より

スイミングスクールでこちらの情報を知りました。山の学校や自宅体験・学習工作キットなどのことにとっても興味があり、いろんな活動を通して我が子に森の大切さを学ばせていただきたいです。今後このような活動があれば、時間を見て参加してみたいと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	イベント会場 での体験学習 型啓発活動	2022/8/7		3回	スポーツプラザ報徳左近山 スポーツプラザ報徳左近山 神奈川県 内体育館
		2022/11/3			
		2022/11/5			
参加者数	県内	180人	人	180人	
	県外	人	人	人	
	計	180人	人	180人	
実施場所		神奈川県 横浜市・大和市			

森林資源の実際的な活用と伝承と森林環境教育

特定非営利活動法人自然文化誌研究会

〒191-0053 東京都日野市豊田三丁目28番地の2

1. 活動の概要

多摩川の水源である山梨県北都留郡小菅村は、面積の95%が森林である。森林の維持と管理はこれまでも各方面で活動がなされている。青少年を対象とした植栽活動や間伐体験事業、森のようちえんなど多くの事業を展開されている。

森林の水源機能だけではなくエネルギーとしても見る目を養い、燃料の入手・加工・活用・保存等を積極的に学ぶ環境学習プログラムを行う。参加者は小中学生、スタッフとなる高校生～大学生も学ぶ側となり、実際に中長期キャンプを行う。講師には日常的に森林資源を活用する地元民とし、森林の有効性や森林資源とエネルギーに囲まれる山村の豊かさを学ぶ森林環境教育・体験学習の場の充実を図る。

- ・参加者が森林に入り、材の調達、加工、活用を行う。
- ・焚火（暖まること）、調理（食事）、風呂沸かしなど、日常生活で当たり前が存在することの根本を自らの手で実践して体験する。
- ・地元住民を講師に、炭焼きなどの伝統的な知恵を学ぶ。
- ・8/5-11、12/24-26、5/3-5に山梨県小菅村にて環境教育キャンプを行う。

2. 活動の成果

2022年8/5-11 こすげ冒険学校

2022年12/24-26 冒険学校「まふゆのキャンプ」

2023年5/3-5 冒険学校「むらまつりキャンプ」

と称し、宿泊しながらの野外キャンプを多摩川源流部の山梨県小菅村にて開催した。小菅村は面積の95%が森林でありその多くが東京都の水源林となっている。

安全面に配慮しながら、参加者の火の使用に対して自由度を高くした。その燃料となる「材」の準備と調達についても参加者が自ら行うことで、「何が燃料であるのか」「貴重なものであるか」を体験し、森林資源の有用性について肌で感じてもらった。杉林に入り、杉葉を集める、新聞紙は使わないで着火剤としたり、川に入って流木を集めたり、積極的に材の調達を行った。その材を用いて、子どもたちが試行錯誤しながら自らの力で焚火をして楽しみ、その火をお風呂や炊事に利用する事もできた。

参加した子どもたちのみならず、安全確保の立場にある運営側の社会人・大学生・高校生スタッフにも実体験となり、震災などの未曾有の災害が起きた場合は主体的に燃料の調達などの必要性を理解してもらえただろう。

3. 参加者の声

- ・靴とズボンが焚火の火で溶けるという経験をして、熱の力を体感した。
- ・子ども時代に体験したことがありませんでした。（大学生スタッフ）

実績報告とりまとめ表

実施時期		8/5~8/11	12/24~12/26	5/3~5/5	計	備考
事業量 又は 事業内容		こすげ冒険学校	冒険学校 「まふゆのキャン プ」	冒険学校 「むらまつりキャ ンプ」		
参加者数	県内	2人	2人	2人	6人	
	県外	44人	23人	57人	124人	
	計	46人	25人	59人	130人	
実施場所		山梨県北都留郡小菅村				

「地球環境を考えるトークイベント」の開催

公益財団法人オイスカ

〒168-0063 東京都杉並区和泉 2-17-5

1. 活動の概要

SDGs 達成に寄与すべくオイスカが世界各国で進めている Eco-DRR（森林などの生態系を活用した防災・減災）の取り組みを題材に、埼玉県、愛知県、香川県においてトークイベントを開催。オイスカは、2030年までに5万haの緑化を目指しており、中でも、最も目標面積の大きいウズベキスタンに焦点を当て、沙漠緑化の専門家である富樫智氏をメインのコメンテーターとし、オイスカで海外の大型緑化プロジェクトを担当する海外事業部調査担当部長の長宏行が富樫氏とのトークを展開した。埼玉県での開催では、東京大学名誉教授の太田猛彦氏が、また愛知県での開催では、ウズベキスタンをはじめとする海外における沙漠緑化を支援する地元のNPO グリーングラスロットの理事長である光岡保之氏がそれぞれファシリテーターを務めた。

沙漠化が進むアラル海の問題は、経済活動が原因で引き起こされたものとしては象徴的であり、地球環境について掘り下げて考え、緑化の必要性への理解を深め、具体的な行動を促すために分かりやすいテーマであった。また、オイスカが各国で進める緑化は、地域住民の生計向上も実現することを目指しており、この手法は住民の積極的な緑化への参加につながり、持続可能な取り組みとなるものであり、今回のトークイベントではこの手法についても理解をしてもらうことができた。

2. 活動の成果

緑化プロジェクトの目的や必要性などについて理解を深めてもらうことができた。今後は、参加者がそうした取り組みに参加したり、地球環境についてさらに関心を高めた行動につながるような働きかけが必要だと考える。また、トークイベントへの参加者だけでなく、より多くの人たちにこうした情報を届けるべく、動画の公開、SNSでの情報発信などにも努めたい。

3. 参加者の声

- ・アラル海の問題について深く知ることができた。自分たちの生活とは無関係ではないことも分かった。
- ・沙漠化を食い止めるという大きな挑戦に自分自身も何ができるか考えたい。
- ・住民の生活の向上と緑化をセットで進めるという考え方に感心した。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月26日	6月17日	6月22日	計
事業量 又は 事業内容		トークイベント開催	トークイベント開催	トークイベント開催	
参加者数	都内	60人	人	人	60人
	都外	30人	70人	130人	230人
	オンライン参加	125人	人	人	125人
	計	215人	計70人	計130人	計415人
実施場所		さいたまスーパーアリーナ	オイスカ中部日本研修センター	ユープラザうだづ	

第6回全国木のまちサミット2022 inひのほら

第6回全国木のまちサミット実行委員会
〒190-0212 東京都西多摩郡檜原村467-1

1. 活動の概要

活動目的：全国の木材利用などに取り組む自治体が、相互交流・情報交換等により課題を共有し、全国における木材利用促進と国産材自給率の向上を加速化させることを目的に開催。

活動内容

- ・林野庁木材利用課の五味氏より、国産材利用の現状と未来を題材にした講演を行った。
- ・田中林業(株)の田中氏より、持続可能な林業に関する基調講演を行った。
- ・株式会社 Spero 代表取締役の高橋氏がファシリテーターを務め、檜原村木材産業協同組合代表理事の青木氏、株式会社ADX代表取締役の安齋氏、株式会社 tancolo 代表取締役の山本氏の計3名がパネリストとなり持続可能な森林資源と国産材の新たな活路を題材としたパネルディスカッションを実施した。
- ・ファシリテーターを務めた高橋氏より総括を行った。キーワードは「森林資源の持続可能な利用と国産材自給率の向上（新たな活路）」。
- ・地場の木材を利用して建設された檜原森のおもちゃ美術館及びじゃがいも焼酎等製造施設の視察を行った。

2. 活動の成果

- ・国産材利用の現状と新たな活路について把握することができた。
- ・都市部における新たな木造化に向けた現状を知ることができた。
- ・国内林業の歴史や持続可能な林業を進めるための林業の未来について、情報共有を行うことができた。
- ・木材の付加価値につながる取組の情報共有を行うことができた。
- ・現地視察により、建築物や木の玩具などの新たな木材利用工法等の情報共有を行った。

3. 参加者の声

- ・はじめて聞くような話の内容が多く新鮮だった。
- ・各方面での新たな木材利用の可能性と実績の広がりを実感できた。
- ・現地視察において建築物、施業方法等参考なることが多かった。
- ・全国各地の同業者と情報共有できて大変有意義なサミットであった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月17日	月日	計	備考	
事業量 又は 事業内容	第6回全国木のまちサミット ・講演 ・パネルディスカッション ・現地視察				
参加者数	県内	55人	人	55人	コロナ感染防止を踏まえ、1日間のみで開催した。
	県外	25人	人	25人	
	計	80人	人	80人	
実施場所	東京都西多摩郡檜原村				

参加体験型森林学習教材の開発と全国の緑の少年団等での学習支援事業

東京学芸大 Explayground 推進機構
〒184-0015 東京都小金井市貫井北町4-1-1

1. 活動の概要

全国の緑の少年団での活動において小学校での森林学習に加え、体験的に森林荒廃を学べるボードゲームを開発し、オンラインでの指導者講習を実施しながら普及させることを目的に、(1) 参加体験型森林学習教材「きこりのものがたり」の開発・制作を行なった。植林、育林、伐採、販売を繰り返しながら価格が史実のように低下してしまうゲーム「きこりのものがたり」をゲーム会社である株式会社 tanQ、森林 NPO 緑のダム北相模と共同で開発、30セット制作した。このゲームは「植樹」「イベントタイム(災害が起こる、起こらないこともある)」「材価の提示」「間伐販売」「木の成長」がターンと呼ばれるセットで行われ、1ターン10年と設定されている。5ターンで終了する仕組みになり、戦後50年の材価と連動し、最終的に儲けが出ず、木が密集したまま放置されてしまう仕組みとした。(2) 全国の緑の少年団等への貸出・研修を企画・開催した。2023年3月「森林環境教育・森林ESD」「緑の少年団」推進全国セミナー2023において同ゲームを紹介し、貸出しを募集した。さらに国土緑化推進機構が企画、実施した「森林ESDリーダー養成講座」の研修会(2023年5月20日山梨県清里)にて体験会を実施、40名が体験した。結果参加した2団体から申込があった。さらに小金井市立小学校移動教室事前学習に活用し、全9校に実施した。(3) これらの試行体験・報告会を行い、活用をした団体指導者がオンラインで集まり、体験報告会を実施した。

2. 活動の成果

多くの小学生に体験してもらい、毎回大好評でゲームとしての高い完成度だけでなく、ゲーム後には森林が放置されてしまっている現実を体験的に理解し、実際の森林活動へのモチベーションへつながることが確認できた。またセミナー、講座などでの利用により認知度、ネットワークも広がり、貸し出し希望が今後も多く予想される。また小金井市での実践により、小学校社会、総合での可能性についても十分可能性があることがわかり、今後は小学校への貸し出しも活用していく。

		
制作したゲームのパッケージ 協働するゲーム会社に デザイン依頼	ゲーム一式 ボード、コマ、説明書、 マネーカード	プレイ後のイメージ、 放置林が自然と 発生してしまうつくり

3. 参加者の声

図書館の活動を広げる、街の図書館部を作るにあたり体験入部として採用、ゲーム後に周辺の森林について、花粉についての関心を持てるようになった。(福島県東白川郡矢祭もったいな図書館大羽) 森の活動で実施、森に持参し実施。アナログゲームは好き+森の活動をしているという子供たち対象で、ゲームを通して関心をどれくらい持ってもらえるか?に興味を持った。子ども

もたちはパッケージの表示に興味を持っていた、パーツが細かいので森で広げるのは大丈夫なのか？屋内がいいのか？テーブルを囲雨などの工夫が必要。導入のためのゲームであるので、繰り返し遊ぶモードがあると思った。（子育て支援ステーションニッセ中村）

小学校5年生以上対象がいいという感じはあった。プレイ人数は多いとあまりよくない、

4～5人／ボードがベストなのではないか。終わった後のストーリーについて、こういうゲームだったとまとめているスライドでうまく説明しているのではないか、3校実施した。（東京学芸大学大学院前田）

4年生6～7人で実施、100人同時、4人がちょうどいい？小学校としては4人くらいがベスト。4年生の範囲では全員が理解できないかもしれない。7割くらいはいけたが3割は難しい感じに見えた。5年生のところがタイミングがいいのではないか、今後のつながりを考えると、その展開を用意した方がいいかもしれない。実施のための指導案があると森林について詳しくない先生方でも活用できる。（板橋区立小、小泉）

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月20日	5月20日	～6月	～6月	計	備考
事業量 又は 事業内容	「森林環境教育・森林ESD」「緑の少年団」推進全国セミナー2023において同ゲームを紹介し、貸出しを募集	「森林ESDリーダー養成講座」の研修会（山梨県北杜市）	小金井市立全小学校6年生にてトライアル、実践	4団体に貸し出し、実施後にヒアリング		
参加者数	都内 都外 計	オンライン 40人	21人 20人 41人	900人 0人 900人	140人 45人 185人	1,161人 65人 1,226人
実施場所	東京都小金井市					

森で遊んで一緒に大きくなろう

森のようちえん風のいろ

〒 919-0502 福井県坂井市坂井町上関 4545-2

1. 活動の概要

- ・自然の中で継続した活動を行うことで親子がつながり、共に育ちあう場の提供を目指し、乳幼児親子対象の子育て広場全 23 回の開催と、幼児から小学生親子対象の自然体験イベント全 5 回を開催した。季節を感じる森歩きや、キャンプ、植物を使ったクラフト、森から海へのつながりを感じるウォーキング等目的に合わせて様々な場所での開催とした。

2. 活動の成果

- ・毎週継続して親子が集う子育て広場では、自然の中で親子がゆったりと過ごす中で、季節によって変わる森の様子、草花、生き物の様子に触れることができた。
- ・雨の中での活動となった日も多く、自然の中で過ごすことは、気持ち良いことばかりではなく、濡れて冷たかったり気持ち悪かったりするということ大切な体験もすることができた。また、雨の日だからこそ見られる生き物の姿等、貴重な体験もできた。
- ・顔見知りとなる家族も増えて、お互いの子どもの様子を見合う関係もできてきた。自然の中で大人も子どもも生き生きとする姿から親子の関係が深まったり、自然への関心、意識の高まりが感じられた。

3. 参加者の声

- ・我が子は、生き生きとして走り回っていて、とても楽しそうでした。親もリフレッシュすることのできる時間でした。
- ・普段自然に触れる機会があまりないので、このような機会があつて他のお家の方と一緒に自然の中で遊ぶことができてよかったです。
- ・身近な場所でも家族だけでは来ることの無かった場所なので、このような機会があつて、良かったです。また自分達でも来ようと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期		R4.7月 6, 17, 20, 27日	8月 3, 23, 30 日	9月 7, 14, 23 ~24, 28 日	10月 5, 12, 19, 26, 日	11月 2, 9, 16, 20日	R5.3月 26, 29日	4月 12日	5月 17, 24日	6月 14, 18, 21, 28 日	計
事業量又は事業内容		森あそび、自然遊び、キャンプ、ネイチャーゲーム、焚き火、ウォーキング									28回
参加者数	県内	44人	19人	43人	20人	30人	39人	2人	4人	32人	233人
	県外	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	計	44人	19人	43人	20人	30人	39人	2人	4人	32人	233人
実施場所		福井県坂井市、福井県吉田郡永平寺町、福井県越前市									

子どもも大人も、思いのままに自然とつながる体験活動

さとやま子育てコミュニティいけだのそら

〒910-2502 福井県今立郡池田町野尻 11-3

1. 活動の概要

五感を使って自然を感じることに、森の中で思いのままに遊ぶことを大切に、子どもたちの探究心や自然を身近に感じて大切に思う心を育むことを目的として、夏から冬まで、専門家の協力を得ながら、地域の自然を使ったさまざまな体験活動を行った。

また、有識者による講演会を開催し、自分たちの活動の普及および、森のようちえんなど自然体験活動の重要性を発信した。

2. 活動の成果

- ・生き物探しから、森の恵みを使った草木染め、また仲間と協力してのイグルー作りなど、五感をたっぷり使った体験を通して、地域の自然を身近に感じるができた。
- ・また、有識者による講演をお聞きすることで、自分たちの活動の意義を整理するとともに、多くの参加者に自然体験や子どもたちの主体性を大切にする保育や活動の重要性を知ってもらうことができた。
- ・今後はさらに、自然に寄り添った暮らし体験や森の手入れなどの実践を通して、地域の自然を大切にすることを育むとともに、スタッフ研修を充実させてより価値の高い体験を提供していきたい。

3. 参加者の声

- ・親子だけではできない貴重な体験ができた
- ・普段意識してしなかった身近な自然の価値を感じるができた
- ・こういった環境で子どもたちが育って欲しいと感じた
- ・他の参加者の、子どもへの対応の仕方が学びとなり、親の成長につながる

実績報告とりまとめ表

実施時期		8月2日	8月20日	10月1日	1月14日	2月25日	計
事業量 又は 事業内容		川遊びと生き物観察	クロモジを使った草木染め	森のようちえん有識者による講演会	コウモリ探しと洞窟探検	イグルー作り	
参加者数	県内	12人	15人	40人	20人	29人	116人
	県外			8人			8人
	計	12人	15人	48人	20人	29人	124人
実施場所		福井県今立郡池田町野尻、菅生、清水谷					

社会的共通資本としての財産区および財産区有林

NPO 法人調和の響きエコツーリズムネットワーク
〒 391-0211 長野県茅野市湖東 1844-71
三井の森いずみ平 10-14-8

1. 活動の概要

財産区および財産区有林を社会的共通資本としてみることにより、閉ざされた地域のものという見方から地域全体のものとして捉え未来へ繋いでいけるようにする。浮き沈みの激しい白樺湖をターゲットにした「白樺湖畔散策とお話し」、ワークショップでは「防災の面から財産区の整備を考える」「地方自治法から財産区を考える」「環境を損なわない白樺湖の再生および持続的な利用方法」をテーマに講師やアドバイザーを中心に意見交換を行った。

まとめとしてのシンポジウムでは茅野市地域創生政策監から「財産区から考えるこれからの地域と自治のあり方」という演題の基調講演を聞き、財産区が公法人であり市町村の一部を構成する団体であるという認識をもつことができた。

2. 活動の成果

若い財産区民や女性の参加があり、財産区民の中から変化を求める声があがった。シンポジウムの冒頭で茅野市長よりご挨拶をいただいたことも含め、地域の一般市民、財産区民、行政が一体となり「社会的共通資本」である財産区および財産区有林について取り組まなければならない課題であることが共通の認識となり、今後に期待をもつことができた。

3. 参加者の声

「財産区民の財産区に対する知識が乏しいことが分かった」「財産区の実情を知ってもらうことができた」「地元白樺湖を見直すことができた」「観光客を呼び込もうとするのではなく環境を良くすれば観光客が来ると言うことが分かった」「財産区有林を 100 年先まで管理でき収益を上げる見通しが必要」

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	・フィールドワーク	2022年9月30日		1回	
	・ワークショップ	2022年10月15日、 22日、29日		3回	
	・シンポジウム	2022年12月3日		1回	
	・小冊子 ・総括	2023年3月1日 2023年3月3日		1回	400冊
参加者数	県内	84人	人	84人	
	県外	3人	人	3人	
	計	87人	人	87人	
実施場所		長野県 茅野市			

第 17 回森のようちえん全国交流フォーラム at 富士山

森のようちえん富士山フォーラム実行委員会

〒 401-0310 山梨県南都留郡富士河口湖町勝山 3407-1

1. 活動の概要

- ・自然の中での保育・教育活動を通して子どもたちの健やかな成長や生きる力を育む教育内容、環境づくりの醸成を図ることを目的に、自然を活かした保育・教育等に興味のある関係者が学び合い、情報交換等を行う。
- ・森や自然を活用した保育・教育の理解や実践の広がりをめざした内容で、基調講演、特別講演、交流会、分科会、ワークショップ、子ども向けの自然体験プログラムなどを実施。

2. 活動の成果

- ・森や自然を活かした保育・教育関係者が集うことによって、その保育・教育の質の向上、森などの環境整備の向上が見込まれる。また、これから実践していこうとする人を増やし、自然保育・森林教育の理解と普及につなげる。
- ・自然保育や森林教育先進県の事例や取り組み等の情報交換・交流の場にもなり、行政での取り組みの推進に繋げていく。

3. 参加者の声

- ・自然の中、野外で、天候にも恵まれ、開放的な気分を味わいながら、のびのびとゆったりと自然の中で子どもたちが育つことの大切さを再認識することができた。
- ・屋外なので、マスクをしないで過ごせたり会話したりできたのがよかった。
- ・分科会の数が多く、様々な実践者の話が聞けて参考になった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月29日	10月30日	10月31日	計	備考
事業量 又は 事業内容		開会式 基調講演 交流会 キッズキャンプ 森のようちえん 体験	分科会 特別講演 キッズキャンプ 森のようちえん 体験	分科会 全体会 閉会式		
参加者数	県内 県外 計	35人 240人 275人	58人 342人 400人	28人 228人 256人	121人 810人 931人	
実施場所	静岡県 富士宮市					

北アルプス地域の里山広葉樹活用のための 都市部こだわり層向け映像資料制作および普及啓発事業

北アルプス広葉樹活用研究会
〒399-7301 長野県大町市八坂 11054

1. 活動の概要

ナラ枯れ被害木の有効活用のため低質でも環境・社会配慮ストーリーを伴う付加価値の高い家具等を好むこだわり層向けの映像資料制作、伐採地視察、ワークショップを開催。

2. 活動の成果

- 地域資源活用を担う次世代人材の発掘、仲間作り・コミュニティの形成、そして既存ビジネスに基づく広葉樹活用の課題解決のヒントにつながる可能性も秘めた気づきなどの成果を得た。
 - 長野市の関心層を対象としたトークショウを開催により、次世代候補の学生&大学関係者や若者とのつながりを得た。次年度以降、一層のコミュニケーションを重ねていく。
 - 移住者や木工作家など、いわゆる従来の業界関係者以外の木材利用者との関係性構築のきっかけも得た。
 - 広葉樹原木市場の関係者の参加も得て、次のステップでの協力・協同が期待できる。

3. 参加者の声

- 自分で設計から木材を含む資材調達、施工まですべて手掛けるようになって、木がないと困ること、どこの木なのか関心を持つようになった。お客さんは樹種は気にしない、安ければよい。何をどう伝え、説得すればよいのか、課題である。
- 山の人は顔の見えるところに届けたい。でも山の木を管理し、その生産材の販売先も自分で探す必要があり大変。でも山の木は放置したら倒れる、枯れる。資源として活用するならば、何かしなければ、という気にもなる。

実績報告とりまとめ表

実施時期		2月7-8日	5月20日	計	備考
事業量 又は 事業内容		北アルプス広葉樹活用研究会活動検討会 長野県森林組合連合会北信木材センター、株式会社もくもく長野の見学	TalkShow @ TuLuuga 信州の森林（もり）を育てよう、使おう！～北アルプスの広葉樹から見えてきたもの～		
参加者数	県内	5人	16人	21人	
	県外	2人	4人	6人	
	計	7人	20人	27人	
実施場所		長野県長野市			

森の輪ひろば

(一社) いび森のようちえん こだぬき

〒501-1303 岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲長瀬 831

1. 活動の概要

森の輪ひろば=木育子育て広場を、月に1回程度、平日の10-14時に開催。植物などの自然物を使ったワークショップや、畑仕事を行う。また小さな子どもは、庭や水路で遊んだり、木のおもちゃで遊ぶこともできる。

小さな子どもを連れた親さんは、自然の中で遊ぶ方法を知らない人も多い。そのためスタッフが、親子で森へ行く際の工夫や自然の中で遊ぶ良さも伝えつつ、地域の自然体験活動も紹介する。スタッフは、親子と地域をつなげる、親子と自然とつなげる役割を担う。

2. 活動の成果

しめ縄作りなど、家庭ではなかなかできないことをワークショップで開催し、喜ばれた。自然物の美しさ、身近にあるものを使って手作りすることの楽しさを知り、自然の良さを感じてもらえた。また、おしゃべりしながら作業することで、参加者もリラックスし、相談をしてもらうことができた。おしゃべりがきっかけで、自然体験活動への興味を持ってくださる方もみえた。

3. 参加者の声

子どもの大人ものびのびできた、ゆっくりできた。雰囲気良く、おしゃべりも楽しかった。

コロナで予約が必要な場所が多くなってしまったが、子どもがいると予約もしにくい。予約不要で、ふらっと行きやすいのありがたい。

森の輪ひろばの雰囲気が良かったので、(森の)おさんぽ会にも参加してみたいと思った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月～6月	計	備考
事業量 又は 事業内容	森の輪ひろば 毎月1-2回開催 合計21回		
参加者数	県内	249人	249人
	県外	人	人
	計	249人	249人
実施場所	岐阜県揖斐郡揖斐川町		

三重の木の椅子展3

三重の木の椅子展実行委員会

〒514-2104 三重県津市美里町家所 4324

1. 活動の概要

木で物作りをする県内の木工家・建築家・アーティストたちが地元の木で作った椅子を持ち寄って椅子の展覧会を開催した。

一般に商業流通されなくなったものも含め、三重県には多種多様な樹木が生育しており、それらが、木材として人間の暮らしに活用できることや、自然を大切にすることを、会場でハンドメイドの椅子に触れてもらうことで知ってもらうこと、感じてもらうことを期待している。

2. 活動の成果

3回目の開催となる今回は、31組の作り手が参加し、57脚の椅子、スツール、ベンチが出品された。4日間の来場者数は1,300名で、会場に並んだ全ての椅子に自由に座っていただき、お気に入りの投票や全体への感想などを書いていただくアンケートを実施した。多くの人々に木の椅子を通して地域の森林や自然に関心に向けていただく機会となった。今後も2～3年毎の開始を目標とし、またここから地元材の採集や植樹などのフィールドワークとの繋がりへの広がりにも期待したい。

3. 参加者の声

900件ほどのアンケート回答をいただいた。

- ・こんなに多くの木工作家が県内にいることを知り、驚きと喜びを感じた。
 - ・木の香りとやさしい雰囲気の会場が心地よかった。
 - ・樹の産地や種類が分かり楽しかった。
 - ・自然の力と作り手の想いが豊かな物としての残っていくと感じた。
- などなど、高い評価の感想を多くいただいた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月3日～6日	2月1日～20日	計	備考
事業量 又は 事業内容		「三重の木の椅子展3」 を開催した。	レポート冊子を作成し、 配布やSNSでの紹介など 普及啓発活動を実施した。		
参加者数 (出展者及 び来場者)	県内	1,200人	95人	1,200人	
	県外	150人	5人	150人	
	計	1,350人	100人	1,350人	
実施場所		三重県 津市			

親子で里山で作物を育て、クラス場を整え、里山の暮らしを体感しよう

社会福祉法人 森の風学舎

〒510-1251 三重県三重郡菰野町千草 1622

1. 活動の概要

【フィールド開放】日本の原風景である里山の暮らしを元に、森の風こども園周辺の里山または畑を開放し、季節に応じた作物を育てたり、森の中に入り親子で遊ぶ。自然の中で過ごす心地やさや、楽しさを親子で身体いっぱい感じられる場を提供する。

【森の整備】この事業のフィールドとなる里山を、森の風こども園の園児・卒園生またその保護者とともに、草を刈り木を伐り薪を作るなど森林整備をする。

2. 活動の成果

生き物などとの初めての出会い、土に触れる経験、普段の生活の中にはない自然の中に身を置くことで、新しい発見があったり、心も身体も開放され、親子で心地良い時間を過ごすことが出来た。この場を共有することで、交流が生まれ仲間の輪が広がるきっかけとなった。

また森の整備をすることで、森に光が入り森にとっても子どもたちの活動する場にとっても心地良いと感じられる場になった。自分たちの手を使い、森の中を整備することで、森を身近に感じると共に環境保全への理解を深めるきっかけとなった。伐採した木を薪にして、冬場に暖をとったり野外での料理に使うことで森と私たちの生活が繋がっていることを体感することが出来た。

3. 参加者の声

- ・普段は土から離れた生活をしているので、大事な経験だと嬉しく思っています。
- ・種をまき、水をやり、チップをかけ、お世話をお手伝いした野菜を収穫してすぐに食べさせてもらえる環境は、スーパーで何でも揃う今の時代では尊いものです。野菜の匂いと周りの環境、四季を通じて感じられる場所が嬉しいです。
- ・親にとっても子にとっても自然からの恩恵を感じる貴重な時間でありがたい。
- ・毎回様々なものから季節を感じながら自然に触れることができ、楽しい時間を過ごさせてもらい、嬉しく思います。
- ・草の上をハイハイして、土に触れ、虫に触れ、自然の中で遊び、いろんな経験ができる場がある事がとてもありがたい。
- ・季節によって畑の景色や関り方、出会う虫たちの違いを娘と一緒にゆっくりその場の人たちと共感しながら安心して楽しく過ごさせています。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	3月 21日	5月	6月	3月～ 11月	計
事業量 又は 事業内容	1・8日	7・16・ 21・28・ 30日	5・14・ 19・21・ 26日	2・4・ 9・11・ 16・18・ 25日	2・7日	11・20 日	1・3・ 8・15・ 17日	1・3日	森の 整備	12・16・ 26・30 日	6・9・ 14・16・ 20日	フィールドの 整備	41回 開催
参加者数	県内 18人 県外 0人 計 18人	68人 0人 68人	50人 0人 50人	72人 0人 72人	20人 0人 20人	20人 0人 20人	46人 0人 46人	32人 0人 32人	100人 ほど	40人 0人 40人	30人 0人 36人	スタッフ フで	496人
実施場所	三重県三重郡菰野町												

小さな林業の暮らし方を学ぼう

特定非営利活動法人コミュニティねっとわーく高島
〒520-1622 滋賀県高島市今津町中沼 1-4-1

1. 活動の概要

小さな林業（自伐型林業）と木工や特殊伐採、炭焼き、農業などを組み合わせた暮らしの実践者から学び、さらに高島市森林組合から森林の現状や事業について学びました。また、森林に関わり、持続可能な暮らしができる可能性のある集落との出会いの機会をつくる目的で開催しました。

米原市と長浜市の地域おこし協力隊（自伐型林業）経験者から、自伐型林業による生計の難しさや技術習得による森林に関わる暮らしについて学びました。

高島市森林組合では、森林の現状と事業内容、地域産木材の活用についてお話しを聞きました。地域性苗の普及を行う(株)エーゼログループ滋賀支社では広葉樹の森を再生する活動と将来性について学ぶことができました。

移住者の受け入れに関心の高い、椋川と雲洞谷では、地域の暮らしや歴史、森に関わる暮らしぶりを地域の方々からお聞きすることができました。

2. 活動の成果

参加者の中には林業に関する研修を受けている方、山主、森林への関わりを持ちたい方などがおられ、特殊伐採の技術習得について、森林組合の山の管理の現状や境界線確認支援、広葉樹の利活用について積極的な質問が出ていました。

椋川と雲洞谷では、広葉樹の活用や山の維持管理、炭焼き技術への関心が高く、再訪したいという声があり、どちらの地域も今後、空き家を活用した宿泊施設の整備などを進め、地域外から研修などの受け入れをしたいと聞いています。

3. 参加者の声

どのプログラムも講師の方々の実践経験からのお話で、日常ではうかがえない森林に関する考え方や課題を具体的に知る貴重な機会となりました。

針葉樹と広葉樹に関して管理と利用の違い、可能性を知ることができました。

森林の活動に関わりながら、滋賀県や高島市についてもっと知り深めていきたい。今回のセミナーで得たものを将来につなげたい。との感想が寄せられました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	(1) 小さな林業とグリーンウッドワークの暮らし	10月15日		5回開催	
	(2) 小さな林業と里山を活かした暮らし	10月29日			
	(3) 高島市森林組合の事業と森林の再生	11月23日			
	(4) 小さな林業と山間集落の暮らし<椋川>	11月26日			
	(5) 小さな林業と山間集落の暮らし<雲洞谷>	11月27日			
参加者数	(1) 県内	2人			
	県外	2人			
	計	4人			
	(2) 県内	8人			
	県外	4人			
	計	12人			
	(3) 県内	9人			
県外	6人				
参加者数	計	15人			
	(4) 県内	11人			
	県外	3人			
	計	14人			
	(5) 県内	6人			
	県外	3人			
計	9人				
実施場所		滋賀県 高島市			

地域産木材利用促進啓発事業

特定非営利活動法人 京都森林・木材塾

〒618-0091 京都府乙訓郡大山崎町円明寺葛原6-25

1. 活動の概要

講演会・見学会は、規模を縮小し安全対策を徹底して実施。環境フェスティバルはオンラインで参加。これらをHPで発信しSDGsの達成に向け活動した。

2. 活動の成果

①京都環境フェスティバル2022にオンライン参加<11月～12月>

オンライン参加し、森林整備や次世代育成について発信。これが、府脱炭素社会推進課の目にとまり、「エコこと学ば」に登録依頼があり、登録されている。(41件登録)

②講演会開催…講師2名(テーマ:林業再生・木づかい運動で地球温暖化防止)<2月>

(1)里山を持続可能な自然資源として考えて取組む必要 (2)京都の木をブランド化する取組み必要、と問題提起。行政等の参加が多く講演主旨を府民に広める機会となった。

③現地見学会実施(ホリモク(株)、(株)リヴ)<3月>

ホリモクでは、最新機械を見学の上、「ウッドショックや最新情報」の説明あり。リヴは5階建木造ビルで森林・林業白書掲載。環境や健康によい建物であることを実感した。

④毎月HP掲示板で発信<毎月>

2013年設立以来、活動の柱はHP掲示板による発信。本塾行事、行政・団体などの最新情報を掲載しアクセス数は年々増加。学校関係、マスコミ等からの問い合わせが多い。

3. 参加者の声

講演会、見学会については、新しい視点での企画で非常に有意義であった旨の感想。環境フェスティバルでは府「エコこと学ば」を閲覧し、「森林整備の必要性を感じた」との声。

実績報告とりまとめ表

実施時期		11月～12月	2月11日	3月4日	毎月	備考
事業内容	フェスティバル	○	—	—	—	オンライン
	講演会	—	○	—	—	規模縮小
	現地見学会	—	—	○	—	規模縮小
	HP 掲示板発信	—			○	
参加者数	府内	アクセス数 6万	24人	11人	毎月2万人 閲覧	
	府外		3人	4人		
計	27人		15人			
実施場所		大山崎町	京都市	京都府	大山崎町	

木育 森の恵み発信プロジェクト

やまぐに(林業女子会@京都)

〒602-8373 京都市上京区下横町 209-70

1. 活動の概要

木育コミュニティーをつくることで自然とのつながりを深めていくための体験プログラム企画し、学びの場としてだけではなく、生き方も含まれることでの森林環境教育していく。そのことを軸に季節ごとの自然の変化を感じながら子供たちもわかりやすく森林散策や野外アクティビティを通して植物や動物と共生する現場を五感を通して感じてもらえる豊かな学びと感動を得て過ごす。自然観察により探求する生態系や生物多様性についても学ぶ機会となる。京都の木、端材などを使い木工をする。森からもたらされた恵みとして木材、間伐材などを手に入れて仲間たちと交流しながら課題に取り組むことで木育はさらにコミュニケーション能力や非認知能力を発展させる。ヨガを森での過ごし方の一つの手段として、自然のリラクゼーションとは忙しく生きる生活の中での癒しともなる。森林の静けさ景色の美しさが心身の健康に良い影響を与えることとしての体験を伝える。すべてのことから木育としての活動は学びだけのイベントではなく継続的に機会を設けることで自然環境への関心や保護意識を高めることとなる。森は人のくらしから遠いところとされて街の人たちは過ごしているので森の存在を身近なものに生活の一部だという話し合いのできる場を今後も作り続けたい。

2. 活動の成果

場づくりとしての木育活動では次世代に継続的なコミュニティーを提供したことにより他の団体へ連携することを取り入れることができた。教育機関である大学や他の森のようちえんや行政・地域の団体とプログラムの提供を進めた結果木育活動の知恵とスキルを伝えたワークショップを展開できた。企画には親子参加が多いため保護者へ木育活動の価値を伝えることとなり、親子一緒に遊びや楽しみからの環境教育が広められた。森や山へそして里山へと意識が向く活動となった。

3. 参加者の声

自然と触れ合いながら学びそして創造力を育む機会だと感じた。子どもと野外で遊ぶことが少なくて、こんなに気軽に楽しめる方法があるならもっと森へ出かけた。3年前から親子でずっと参加しているが毎回違う森の過ごし方を教えてもらって楽しんでいます。切り株を斧で切ったときとてもいい香りがした。また、薪づくりを体験したい。落ち葉で焼き芋が焼けたとき、うれしかった。自分の割った薪で焚き火ができて楽しかった。木の種類がたくさんありそれぞれの葉っぱを一つ一つ聞いて見分ける方法を知ることができた。土の中の微生物や虫がいろんなものを分解し、そして、いい土になっていく不思議だと思いました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		5月14日	6月4日	計	備考
事業量 又は 事業内容		土のがっこう 土の中を調べてみ る。生きもの探し	土のがっこう 1コンポストつくり	15組	親子参加
参加者数	県内	14人	17人	31人	
	県外 計	人 14人	人 17人	人 31人	
実施場所		京都府京都市左京区宝ヶ池公園 京都府京都市左京区曼殊院			

実施時期		12月4日	3月10日	計	備考
事業量 又は 事業内容		自然観察会と森ヨ ガ森歩きヨガネイ チャーゲーム	自然観察会と歩きな がらマインドフルネ ス（森林浴）		
参加者数	県内	46人	22人	68人	
	県外 計	2人 48人	人 22人	2人 70人	
実施場所		12/4 京都府京都市北区上賀茂試験地 3/10、5/27 京都府京都市左京区宝ヶ池公園			

実施時期		7/23・9/18・10/22 1/17・4/29・5/17	月 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		リンカンガッコウ 森で木工 古道を歩く 落ち葉探偵 他			
参加者数	県内	115人	人	115人	
	県外 計	人 115人	人 人	人 115人	
実施場所		7/23 京都市北区大宮交通公園 9/18 京都市左京区花背 10/22、23 京都市北区上賀茂神社境内 1/17 京都市右京区京北 近辺 4/29 京都市右京区京北 元京北第一小学校			

森を楽しむワクワク育児！『森のようちえん体験会』と『おやこまつり』

一般社団法人森のようちえんどろんこ園

〒601-1253 京都市左京区八瀬近衛町 723-48

1. 活動の概要

未来を担う子どもたちに森のようちえんの体験会、ワークショップを通じて、森林環境教育の普及啓発を目指す。森の中で五感を研ぎ澄まし自然と触れ合うことで、幼少期の子どもにとって豊かな体験ができる。

自然には様々な危険生物も生存している。それらと共存するためには専門的な知識が欠かせない。参加者が安全に活動できる場を提供するために自然安全教室を行い、活動の質の向上に努める。おやこまつりでは、地域と一体となり、たくさんの親子が自然の中で様々なワークショップに参加し、自然体験をしてもらいたい。

2. 活動の成果

専門知識を身につけたスタッフと一緒に、自然をより安全に体感・体験することが出来た。

様々な催しを通じて森の活動や地域との交流を広めることができた。子どもたちから自然環境を楽しみ、学ぶことで、自然への興味関心を育みSDGsの普及啓発に繋がると思われる。これからは自然に囲まれた環境で親子が楽しめる催しを継続していくことで、森のようちえん活動や自然体験活動を広げていきたい。

3. 参加者の声

- ・まだ歩き始めたばかりの子どもが、森の中で楽しむことが出来るのか不安だったが、スタッフの方や、他の保護者と自然の中でゆっくりと話すことが出来、心が豊かになった。
- ・子どものために参加したが、いつの間にか大人の方が童心にかえり楽しんでいた。森に入るだけで気持ちが穏やかになり、いつもと違う子どもの遊び方を見ることが出来た。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月10日	11月6日	3月29日	5月17日	合計	備考
事業量 又は 事業内容	自然安全教室	森のようちえん おやこまつり	森のようちえん 体験会&木工体験	野染め体験会		
参加者数	県内	20人	250人	20人	60人	350人
	県外	人	人	人	人	0人
	計	20人	250人	20人	60人	350人
実施場所	京都府 京都市左京区					

寺林を守り育てる森林環境学習活動

フィールドソサイエティー

〒606-8421 京都市左京区鹿ヶ谷法然院町 72-2
法然院森のセンター

1. 活動の概要

都市近郊林の一面にある法然院の寺林（京都市左京区）をフィールドに、野生生物の生息地保全と「観察の森」創出のため、市民参加で活動を展開している。今年度も引き続いて森の手入れ、観察路の手入れ、植樹を行った。森づくりに、コーヒーの麻袋を再利用するという新しい要素も取り入れた。そして、相応しい地点と方法の指導を受けながら小さな防鹿柵も設置した。また、台風で倒れたヒノキの活用をはかるため、一部を製材し、木工体験に利用した。野生生物に関する活動では、野鳥に焦点を当て、森と水環境の重要性を考える観察を行った。

2. 活動の成果

寺林を地域の森として市民で整備しながらその保全の意義を考え合えた。コーヒーの麻袋の再利用も循環する森づくりへの視点となった。森の再生に欠かせない防鹿柵を適切な地点に適切な規模で設置できた。実生による森林回復も期待できる。森の手入れ、植樹、木工、観察会と、子どもたちや高校生の参加も得られ、地域の森の公益性について幅広く理解を深める機会となった。

3. 参加者の声

- ・ニュースなどで山が枯れていることや鹿の被害の話を知るが、それを止める実践ができてうれしかった。（高校生）
- ・手入れが終了した後はとてもきれいになっており、達成感を感じた。（高校生）
- ・道づくりの難しさを感じた。定期的なメンテナンスの必要も実感する。ぜひ、また参加して行いたい。
- ・麻袋の再利用はおもしろい。分解される素材として注目したい。
- ・麻袋は軽くて折りたたむため、運搬が楽でよい。土を入れてもしなやかで、扱いやすさも特徴的だと感じた。これからの様子を、袋が朽ちるまで見てみたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4年	5年	5年	5年	5年	5年	5年	計
	12月18日	2月11日	2月22日・23日 (二日間)	2月25日	4月30日	5月14日	5月27日	
事業量	森づくり 事業1回	森づくり 事業1回	森づくり 事業1回	森づくり 事業1回	森づくり 事業1回	木工体験 事業1回	観察会 事業1回	7回
参加者数のべ人数	府内 9人	府内 7人	府内 8人	府内 10人	府内 5人	府内 16人	府内 21人	府内 76人
	府外 18人	府外 9人	府外 0人	府外 2人	府外 2人	府外 0人	府外 1人	府外 32人
	計 27人	計 16人	計 8人	計 12人	計 7人	計 16人	計 22人	計 108人
実施場所	京都府京都市左京区鹿ヶ谷法然院町、善気山町							

挿し木を介した都市部の緑化に関する教育普及と福祉の実践 (崇仁すくすくセンター挿し木プロジェクト)

崇仁すくすくセンター実行委員会

〒604-8812 京都市中京区壬生相合町 63-64 合地

1. 活動の概要

実施団体は、京都市立芸術大学及び京都市立美術工芸高等学校の移転に伴い再開発が進んでいる京都市下京区崇仁地域を舞台に、工事により伐採された樹木の挿し木を行い、地域住民と育み、樹木にまつわる人々の想いや記憶と共に、未来へと継承する取り組みを行なっています。街の再開発に伴い伐採された樹木を挿し木により残し、育成し、再び街なかに植樹する試みです。地域の高齢者や子どもたちがそのプロセスに参加できる取り組みとし、緑や生態系に関する教育普及や福祉の活動と位置付け実践しています。

2. 活動の成果

児童館の子どもたちやデイサービス利用の高齢者らとのワークショップを定期的で開催し、交流と協働の場を持つことができました。「挿し木鑑賞会+挿し木の地植え場所を検討する会」の開催をきっかけに、地域団体、行政、大学などとも協議を重ね、都市部の緑化計画・生態系環境整備に向けた実践的な議論を行うことができました。また、成育した挿し木の地植えを行う「地植え会」では高齢者や大学生、地域の方々が協力し、賑やかな会を催すことができました。新聞等への記事掲載も複数あり、挿し木を通じた地域の記憶の継承や、樹木の命を通じた福祉の取り組みを広く知っていただくこともでき、地域にある樹木への理解を深めてもらう機会が生まれたことを実感しています。

3. 参加者の声

活動に参加してくださった地域の方々から、「挿し木を育て、地域の土地に戻すという一連の過程を体験することで、まちの変化に私たちに与えられることができ自信につながった」、「自分たちが手を動かして創作していったものが広がっていき、それが崇仁の木とともに未来へと残っていくことは本当に嬉しい」といった声を聞くことができました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月29日～ 6月30日	8月21日～ 6月23日	計	備考
事業量 又は 事業内容		ワークショップ	トークイベント、 挿し木鑑賞会等の イベント		
参加者数	県内	541人	480人	1021人	
	県外	12人	70人	82人	
	計	553人	550人	1103人	
実施場所		京都府京都市			

森とまちをつなぐ木材コーディネーターによる 「木づかい社会」 定着のための普及啓発活動

NPO 法人サウンドウッズ

〒 669-3631 兵庫県丹波市氷上町賀茂 72-1

1. 活動の概要

サウンドウッズでは、森づくりに市民参加を促す仕掛けの一つとして、「森」と「まち」をつなぐ「木材コーディネーター」の人材育成に取り組んでいる。森林と暮らしをつなげる情報発信手段として、オンライン配信ツールによる講座運営と、動画情報のアーカイブ公開に取り組むべく、動画配信サービス youtube に「サウンドウッズチャンネル」を立ち上げた。動画の活用により、森とまちの関係をより理解しやすい関係を生み出し、法人活動の中心に据える「木材コーディネーター」のさらなる社会的認知の拡大につなげる。

2. 活動の成果

森とまちの間を木材の利用を通して仲立ちをする、全国で活躍する木材コーディネーターの活動を、具体的かつ分かりやすく伝えるコンテンツ制作に取り組んだ結果、全国各地から多様な関心層からのアクセスがあり、木材コーディネーターの認知を広めるとともに、木材コーディネーターを目指す森づくりを支援する木材利用の実例を広くアピールできた。

3. 参加者の声

- ・様々な立ち位置やポジションの方々が、木材コーディネーターとして関わっていらっしゃる事が、分かって良かった。
- ・単に木を使えばいいのではなく、その木を使うことにより山側の方にどう還元できるのかを想像していかなくてはという話の部分をお忘れずに建築等を通して「木づかい」を伝えていける立場になることが出来ればと改めて思いました。
- ・オンライン配信はありがたい。議論することの少ないテーマだったので、貴重な経験でした。率直な意見交換の中に現状と方向性が見えた有意義な内容でした。
- ・山林関係者のそれぞれの役割の方々が、Win-win になるようなコミュニケーターとして重要な機能を期待されていると思います。
- ・アーカイブ配信されたものを、視聴しなおして復習します。
- ・基礎講座への受講を検討しているが遠方からの参加の負担が大きかった。オンライン開催が併用されることになったことも知り、具体的な参加を考えたい。

4. 参加状況(人)

	A1 説明会	A2 公開問答	A3 活動紹介	B1・B2 WC インタビュー	B3 フォーラム	合計
現地参加	—	—	—	アーカイブ	162	162
オンライン参加	21	23	50	動画公開	40	134
参加人数合計	21	23	50	—	202	296

森林生態系から身近な自然を考える ESD ワークショップ ～子どもと親をつなぐ「親」林空間の形成に向けて～

奈良教育大学附属中学校裏山クラブ
〒 630-8113 奈良市法蓮町 2058-2

1. 活動の概要

本事業は、森林環境問題に関わる子どもの育成という観点から、今後奈良県において SDGs や ESD の活動場所として活用が期待されるユネスコエコパークである大台ヶ原を活用し、実地見聞することを通して森林の現状等について学ぶ機会を提供し、環境保全の意識を高めることが目的である。子どもたちに身近な森林と関わる機会を提供し、森林の利活用を通して、森林空間に「親」林空間の形成を図ることも目的とした。大台ヶ原や学校林の裏山・幼稚園の森を舞台に、第一に森林がもたらす生態系サービスの仕組みと現在の森林の問題について、第二に森林を活用し包括的な視点で考える機会を提供する。持続的な社会の形成に意欲的に取り組む生徒の育成、幼児・保護者ならびに将来の教育者を森林へ誘い親林空間の形成を行う機会を提供する。また、森林 ESD の視点を取り入れた活動も行っていく。

2. 活動の成果

事業に参加した中学生が、インタープリターとなる機会を設けた。今まで受動的に事業に参加していたが、事業で行った経験等を活かして、主体的にワークショップに参加している姿が見られた。事業を通して成長し、さらに事業を行う側になっている姿から、インタープリターとしての資質や能力を養えたと考えている。また、新たに幼児やその保護者が森林に関われるような事業を考えた。事業の内容は、中学生や大学生と協議した内容で構成されており、主体的に取り組ませられた。今まで中学生や大学生に向けての事業が多かったが、今年度は用事にまで波及させられたのが大きかった。今後は、今年度行った事業を精査し、さらに中学生に影響を与える教員にも目を向けていきたい。

3. 参加者の声

普段自然に触れる機会があまりないけど、今回の学習を通してあまり行ったことのない奈良の下の方にも行けたし、大台ヶ原などたくさんの自然を体感できたのでいい体験になりました。自然を守るために頑張っている人がいるので私もこれから自然について考えていきたいと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月22日	7月27日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森林整備安全技能講習	学校林（裏山） ・竹林の整備とツリーハウス作成	計9事業 (活動日21日)	研修会4事業 イベント9事業 森林作業8事業 (複数実施した事業有)
参加者数	県内	22人	27人	392人	文化祭や日々の活動に参加した人数250名以上は含んでいない
	県外	人	人	人	
	計	22人	27人	392人	
実施場所		奈良県奈良市、上北山村 等			

森林を活用したプレーパーク活動

特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら

〒684-0403 島根県隠岐郡海士町大字海士 5328-6

1. 活動の概要

多くの島の子どもたちに自然体験と環境教育が浸透することを目指す弊団体は、金光寺山山頂でプレーパークを開催した。

プレーパークとは、子どもが「やってみたい」と思うことを、実現できるようにめざした遊び場である。木登りやハンモックや工作、焚き火など、自然の中で体を使ったり、モノづくりができ、スタッフが指示をだすのではなく見守ったり、ときには遊びを展開させることで、子どもたちが自然の中で普段できないような思い思いの遊びができる場となった。

2. 活動の成果

活動場所を町の中心に近いところから、山の頂上に移動はしたが、開催時間を終日にすることで、様々な時間帯に遊びに来たりすることができ、1日中滞在する家族の姿もあった。島内にはないジップラインやスラッグラインを新しく取り入れることで、子どもたちには人気であった。また、幼児がはじめてマッチで火をつける機会や、竹を切り、竹飯盒を作り、薪を割るなど自然を使って様々な体験が提供できた。また、大人には自分の子ではない乳児を抱っこし合って立ち話をしたり、ゆったりとした交流の場所となっていた。

雨の日や島内でイベントが重なる日はどうしても参加人数は少なくなりがちである。

今回集客のため目玉イベント的に、竹飯盒作りや染め物遊びなどをやってみたが、そういった活動目的よりは、プレーパークに参加するという姿勢の家族が多かった。

来年度は、今までやってきた活動場所のそれぞれを生かし、場所を固定せず様々な場所でやってみて集客をはかりたい。

3. 参加者の声

- ・10時～16時までしっかり遊べる場でよかったです。
- ・普段ないアスレチックがとても楽しかったようで、もっと遊びたかったそう。
- ・子どもの新しい一面が見れるのが良い。通年（毎月でなくとも）あったらうれしい。
- ・自然をいかした遊びができ楽しかったです。

実績報告とりまとめ表

実施時期	11月13日	12月5日	1月23日	2月5日	計	備考
事業量 又は 事業内容	森林を活用したプレーパーク活動	森林を活用したプレーパーク活動	森林を活用したプレーパーク活動	森林を活用したプレーパーク活動		
参加者数	県内	19人	51人	17人	31人	118人
	県外	0人	0人	0人	0人	0人
	計	19人	51人	17人	31人	118人
実施場所	島根県 隠岐郡 海士町					

保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進

(公社) 島根県緑化推進委員会

〒690-0886 島根県松江市母衣町 55 番地
島根県林業会館 4 階

1. 活動の概要

保育園・幼稚園等における森林環境教育を進めるため、園児に対する出前講座を開催するとともに、幼児期に木に親しんでもらうための県産材等を利用した木工製品の配付を行った。

2. 活動の成果

各園と支援を行う NPO 団体が実施内容等を協議し出前講座を行ったことで、各園の要望や状況を踏まえた出前講座となった。

園の周りにある自然素材を生かした講座や生き物・植物の話など、園のスタッフではできない内容の講座となり大変評価が高かった。また、講座を通じて園のスタッフが学ぶ機会にもなった。

また、配付した木工製品「みんなの木の玉」は、県産材など8種（エンジュ、ヒノキ、トチノキ、アスナロ、サクラ、ケヤキ、クスノキ、クリ）を使用した製品となっており、遊び方は自由で樹種による色、肌触り、香り、重さ、硬さの違いなどを園児に感じてもらうことができた。

3. 参加者の声

- ・普段意識しない木の根や模様、葉などを取り上げてもらい、いろいろな発見ができた。危険な植物の説明は大変勉強になった。
- ・身近な自然で遊ぶ体験が自然を大切にしたい気持ちに繋がった。本講座が家庭で話題となった家庭も多く、保護者への啓発にもつながる。
- ・ピザ作りは園児に大好評であった。園では難しい火を使った取り組みをおこなってもらい良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月 日	月 日	計	備考
事業量 又は 事業内容	出前講座	11月4日～ 12月21日		15園	
参加者数	県内	372人	人	372人	
	県外	人	人	人	
	計	372人	人	372人	
実施場所		県内7市町 (松江市、出雲市、雲南市、大田市、津和野町、吉賀町、西ノ島町)			

森のフリースクール

特定非営利活動法人ひろしま自然学校
〒731-1221 広島県山県郡北広島町今吉田 1197

1. 活動の概要

学校に行っていない子どもたちが自主的に自分のやりたいことを森の中で実現し、様々な体験から学ぶ自由な学校を開校する。1年間は、試行も兼ねて週1回のペースで開校し、スタッフ、子ども、保護者と一緒に運営や学びの場づくりについて協議をしながら創っていく。

2. 活動の成果

子どもにとって第3の居場所として初めての試みであった、参加した子どもの中には、1年以上全く学校に行っていない者や普段は学校に通っているがフリースクールの日だけ学校を休んでフリースクールにやってくる者などさまざまな状況があったが、一人も途中で辞める子どももなく1年間通ってくれたことがまずは大きな成果であった。また、運営するスタッフサイドにとっても初めての試みであったが、1年間でフリースクールの運営スタイルが確立できたことが大きな成果として挙げられる。口コミで参加者数も増えつつあり、当初は登録者4名でスタートしたが、事業の終了時には2年目参加希望者が12名にまで増加している、口コミで少しずつではあるが、確実にフリースクールの存在も認知されつつあるので2年目の運営では参加登録者数15名を目指して進めていきたい。また、保護者がフリースクールの運営に関わっていきけるような仕組みづくりに今後力を入れていきたい。

3. 参加者の声

「フリースクールの開催日以外でも子どもがお互いに連絡をとりあって交流が生まれていることがうれしい」「まさにフリー（自由）に過ごせることが子どもにとって束縛されないかけがえのない時間になっている」「保護者同士の交流もあり、他の家族の話の聞いたり情報交換することで子育てに自信が持てるようになった」などの意見が聞かれた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	220712	220726	220913	220920	221004	221011	221018
事業内容	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び
参加者数	4人	4人	5人	5人	5人	5人	4人
実施場所	ひろしま自然学校（広島県山県郡北広島町今吉田）						

実施時期	221025	221101	221108	221115	221122	221129	221206
事業内容	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び
参加者数	5人	5人	4人	5人	5人	5人	4人
実施場所	ひろしま自然学校（広島県山県郡北広島町今吉田）						

実施時期	221213	221220	230110	230117	230131	230207	230214
事業内容	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び
参加者数	4人	4人	5人	5人	5人	5人	5人
実施場所	ひろしま自然学校（広島県山県郡北広島町今吉田）						

実施時期	230221	230228	230307	230314	230411	230418	230425
事業内容	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び
参加者数	4人	5人	4人	5人	4人	5人	5人
実施場所	ひろしま自然学校（広島県山県郡北広島町今吉田）						

実施時期	230509	230516	230523	230530	230606	230613	230620
事業内容	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び	自由遊び
参加者数	3人	4人	5人	5人	5人	4人	5人
実施場所	ひろしま自然学校（広島県山県郡北広島町今吉田）						

実施時期	230627	延べ	備考				
事業内容	自由遊び	36回					
参加者数	4人	165人					
実施場所	ひろしま自然学校（広島県山県郡北広島町今吉田）						

コナラ・クヌギの伐採後、萌芽を育てシカ害を防ぐシカ柵の設置。

ふくの森の会

〒752-0945 下関市長府豊浦町7-16

1. 活動の概要

森の若返りを図るため、コナラ・クヌギ林を伐採し萌芽更新と森の緑地保全を解決するためこの事業を行うことで解決したい。

平成12年「緑と水の助成事業」で購入・植林した苗木（クヌギ等）が成長したので、森の若返りを図る為伐採します。

そのあと切り株から出る萌芽を守るため森の周辺をシカ防護柵で囲み新たに森の再生化をする事業。

2. 活動の成果

萌芽を育てる1本・2本・3本仕立の技術力、そして下草刈りの再確認、長期にわたる萌芽成長の資料作りをして、会員の知識の共有を計ります。今回の萌芽育成はふくの森のサイクル第1回目であり、萌芽育成が成功すれば森のサイクル2期目にはいります。さらなる市民との交流により、山への親しみをもって頂くように活動を進めます。

3. 参加者の声

今回のシカ食害防止柵の設置作業はコロナ感染の影響を考慮して、一般には参加当のPRは慎みました。しかし一般会員30名・賛助会員には周知をしました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月12日	11月12日	11月20日	1月20日	1月22日	2月2日	備考
事業量 又は 事業内容		伐採道開始13日完成(機械使用)	クヌギコナラの伐採完了	会員対象に森の勉強会公民館使用	柵設置の作業道工事開始・完成(機械使用)	伐採樹木の引き取り処分	森へ柵搬入」JAから搬入	
参加者数	県内	3人	1人	14人	2人	3人	4人	
	県外	人	人	人	人	人	人	
	計	人	人	人	人	人	人	
実施場所		県市・町						

実績報告とりまとめ表

実施時期		2月4日	2月5日	2月6日	2月8日	2月9日	2月11日	備考
事業量 又は 事業内容		運搬車で柵設置予定場所に運ぶ	追加伐採の樹木確認65本	雑木伐採の業者により伐採	雑木伐採の業者により伐採	雑木伐採の業者により伐採	雑木伐採の業者により伐採杭打ち開始	
参加者数	県内	4人	6人	6人	3人	3人	9人	
	県外	人	人	人	人	人	人	
	計	人	人	人	人	人	人	
実施場所		県市・町						

実績報告とりまとめ表

実施時期		2月12日	2月23日	2月26日	3月4日	3月5日	3月19日	備考
事業量 又は 事業内容		会員による 杭打ち作業	会員による 杭打ち作業 柵取り付け 開始	柵取り付け 作業	柵取り付け 作業	柵取り付け 完了出入口 1ヶ所設置	柵取り付け 後の現状確 認	
参加者数	県内	12人	5人	14人	2人	11人	4人	
	県外	人	人	人	人	人	人	
	計	人	人	人	人	人	人	
実施場所		県 市・町						

少年少女里山マイスター養成講座

特定非営利活動法人徳島県森の案内人ネットワーク
〒770-8055 徳島県徳島市山城町東浜傍示5-226

1. 活動の概要

団体の活動は、身近な里山をフィールドに体験型講座を開催しています。活動の拠点である「山人の森」での秘密基地作りや木登り、ネイチャーゲームやロープ渡りなど、森の中での遊びを通じて森林の大切さを知り、ノコギリやオノ、チェーンソーやドリルなどの道具を使った作業で技術の伝承を行い、作業の成果物としての「薪」などの里山の恵みを知ってもらうことで次代を担う青少年の育成を活動の目的としています。

2. 活動の成果

活動の成果として、参加した子ども達の受講後の変化を挙げたいと思います。例えば、石や木や葉などの自然物に対して興味を持つようになったとの自然に対する変化。次に子ども達の成長を示すような変化です。例えば、途中から積極的に講座へ参加する姿勢や自ら行動する積極性、更に協調性が高くなり自信を持った表情が見られた、との成長に関しての保護者からの報告がありました。これからも、里山をフィールドに子ども達の成長に寄与できる様な活動を継続実施して行きたいと考えます。

3. 参加者の声

講座終了後、受講生へのアンケート（保護者にもアンケート）及び感想文をお願いしました。受講生それぞれ感じ方が異なりますが、感想文から概ね好評だったと推測致します。ノコギリやチェーンソーを使っの丸太切り、オノを使っの薪割りなど普段使用することの無い道具を体験し、木登りや秘密基地作りなど森の中での遊びでの非日常を経験できたことが好評だった様です。アンケート及び感想文や講座の様子などを報告書（概要版）にまとめました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	少年少女里山 マイスター養 成講座	令和4年 7月1日～	令和5年 5月31日	6回	講座は令和4年10月(23日)～令和5年3月(19日)迄の6ヵ月間/月1回の6回
参加者数	県内	233人	人	233人	県内；受講生&保護者・ 兄妹及び会員の 参加延べ人数 県外；自然観察指導員
	県外	2人	人	2人	
	計	235人	人	235人	
実施場所		徳島県徳島市入田町月ノ宮			

「とくしま木づかいフェア2022」の開催

とくしま木づかい県民会議

〒770-8001 徳島県徳島市津田海岸町 5-13

1. 活動の概要

木と接する機会の少ない方に木と触れあう機会を提供し、木の良さを体感してもらうとともに、森林整備や木材利用に関するパネル展示を行い、木づかいがSDGsに貢献することを知ってもらうため、木づかいで学ぶSDGsをテーマに「とくしま木づかいフェア2022」を開催し、①チェーンソー丸太切り体験会、②けん玉パフォーマンスショー、③どんぐり木工教室、④パネル展示&スタンプラリー抽選会、⑤木製品の展示・販売などを実施した。

2. 活動の成果

昨年、一昨年とコロナ感染症の影響で実施を見合わせた、「どんぐり木工教室」を3年ぶりに開催したところ、延べ350名を超える参加があり、順番待ちができるほど非常に好評だった。コロナ禍でいろいろなことを体験する機会が減った子どもたちにとって、どんぐりを通して森林のことを考えてもらう良い切欠になったと思われる。次回以降もワークショップを通じて、森林のことを学ぶ機会を積極的に設けていきたい。

3. 参加者の声

チェーンソーで丸太を伐っているところを見るのは初めてで勉強になった。
切り立ての杉はとても良い香りがしました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	10月22日、23日	備考
事業量 又は 事業内容	とくしま木づかいフェア2022の開催	
参加者数	計 13,845人	
実施場所	徳島県板野郡板野町 あすたむらんど徳島	

まちの縁が輪づくりプロジェクト

ひょうたん島まちなか再生事業

〒770-0847 徳島県徳島市幸町1丁目43番地

1. 活動の概要

今の希薄化した人間関係を結びなおし、人間関係がより豊かになる「第三の場（サードプレイス）」が必要です。そこを「まちの縁が輪」と呼び、コミュニティ再興を目指す地域から日常の暮らしの中に広めていく必要があると考え、徳島市中心市街地で「まちの縁が輪」を創造することを目的に、①徳島市内の1階空き店舗を活用して「まちの縁が輪」の創出と共に、地域材の杉材を使用した本棚を市民や学生を対象にワークショップで製作し、「みんなの本棚」として継続利用している。②「まちの縁が輪」の普及と共に、市民に対して「森林の役割とまちの森林づくり展」と題したパネル展示を3か月間（11月～1月）開催した。③パネル展示を開催している間、「まちに森林をつくる」をテーマに、県内で木造住宅に取り組んでいる建築士を講師に交流勉強会（くんだら塾）を3回開催した。また、県副知事や大学教授を講師に、2回のミニセミナーと交流食事会も開催した。

2. 活動の成果

くんだら塾では、「まちに森林をつくる」をテーマに話し合いの場を設けることで様々な観点からの意見を聞くことができ、さらに初対面の参加者同士の出会いや交流も生まれた。また、地球環境と共に、身近な暮らしの健康に貢献できるとする講師の考え方を紹介することで、参加者はその活動についての理解を深め共感する人が数多くいた。また、ミニセミナー後の交流食事会では、食事を楽しみながらリラックスした雰囲気の中で、異業種メンバーとの交流を深めることができた。

3. 参加者の声

ミニセミナーに参加した行政の30代男性職員は自動車通勤しており、出勤前に時間の余裕があるため縁が輪で作業をするようになった。このような利用方法が男性職員の口コミにより広がり、昼休憩の際に縁が輪を利用する行政の職員が徐々に増えた。このように、イベント参加者が知り合いに口コミにより新たな縁が輪利用者も増加し、こうした利用者からは、「まちの縁が輪」の必要性と共に継続運営の要望が寄せられている。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	月日	月日	計	備考	
事業内容	・本棚づくりWS	7月18日			一日	事前準備有
	・くんだら塾	11月12日	11月26日	12月10日	3日間	
	・ミニセミナー	10月22日	1月28日		2日間	
	・パネル展	11月1日～	12月1日～	1月31日～	3か月間	
参加者数	・本棚づくりWS	20人			20人	
	・くんだら塾	8人	8人	11人	27人	
	・ミニセミナー	20人	11人		31人	
	・パネル展	177人	203人	113人	493人	
実施場所	徳島県徳島市幸町1丁目43番地					

「由良野の森」の森のようちえん～親子自然体験事業～

NPO法人みんなダイスキ松山冒険遊び場
〒791-8056 愛媛県松山市別府町734-9

1. 活動の概要

森で自然体験を親子で実施することで、子どもの健やかな成長を応援し、森の大切さを感じてもらい、「サステナブルな社会」を実現することを目的として、親子対象の森散策、山菜取り、木工体験、沢登り体験、薪割り体験、火育&食育体験の活動を実施した。

2. 活動の成果

子どもたちは3月には餅つきをして自ら丸めていただくという経験、4月と5月は山菜採りをして、それを天ぷらとしていただくという経験、6月は桑の実を子ども自らが採り、食す経験を通して、自然の恵みに感謝する気持ちが自然に芽生え、スーパーに行かなくても自然の中に食べることができるものがたくさんあることも知りました。また、火を起こして、自分で燃えるものを探して焚火を継続的に燃やしながら仲間とともにその周りでいろいろなものを焼いていただくという経験もしました。そして、沢登りでは自らの力で沢を上りきる達成感や、生物を探す喜び、森の中を流れる水の冷たさを感じながら冬から春へ、春から夏への季節の変化を肌で感じる経験をしました。五感をフルに発揮しながら自然の中で遊びきる子どもたちの心の中に由良野の森の自然が残り続けると思っています。

今後も継続的に由良野の森を利用した自然体験を、他のNPOや民間団体、行政とも連携しながら愛媛県の子どもたちに提供できるように活動を続けていきます。

3. 参加者の声

餅つきを初めて体験しました。子どもがおいしそうに3個も食べていました。

沢登りを楽しみに参加しました。大人も楽しめる活動だと思いました。

薪割りが楽しかったです。いっぱい割れてよかったです。

桑の実を初めて食べました。家に帰ってジャムも作ってみようと思います。

よもぎの葉の天ぷらおいしかったです。子どももいっぱい食べてくれました。家でもやってみようと思います。

実績報告とりまとめ表

実施時期	3月26日	4月30日	5月5日	6月4日	計	備考
事業量 又は 事業内容	森散策、餅つき、山菜取り、木工体験、薪割り体験、火育&食育体験	森散策、山菜取り、木工体験、沢登り体験、火育&食育体験	森散策、山菜取り、木工体験、沢登り体験、火育&食育体験	森散策、桑の実採り、木工体験、沢登り体験、薪割り体験、火育&食育体験		
参加者数	県内	45人	45人	55人	45人	190人
	県外	0人	0人	0人	0人	
	計	45人	45人	55人	45人	190人
実施場所	愛媛県上浮穴郡久万高原町町二名乙787-13					

地域の生物多様性保全に向けた森林 ESD 推進プロジェクト 2022

環境ネットワーク「虹」

〒 811-3217 福津市中央 1-16-6-506

1. 活動の概要

目的は、発達に応じた森林 ESD で「自然感覚」（生物や環境に配慮し大切に感じる感覚）を育むことを通じて持続可能な社会の担い手を育て、生物多様性保全にも寄与する。竹尾緑地にて森のムッレ教室や森林 ESD ワークショップを園や小学校の子どもを対象に開催し、地域の生物多様性保全意識の向上に向けた『竹尾緑地の自然観察ブック』と絵本『たけおりよくちのなかまち』を発行した。

2. 活動の成果

森のムッレ教室 5 回森林 ESD ワークショップを 6 回開催した。参加人数は幼稚園児及び保育園児が計 75 人、小学生が 316 人の計 391 人。地域の生物多様性保全意識の向上に向けた『自然観察ブック～竹尾緑地』A5 版 16P を 300 部発行し同じく絵本「みいつけた～たけおりよくちのなかまち～」A4 版 20P を 160 部発行した。

3. 参加者の声

竹尾緑地には絶滅しそうなカエルやカスミサンショウウオがいて、卵を産む水辺と大きくなって移動する森と両方必要ということがわかった。「草花は根っこから抜かないと・驚かさないう大きな声を出さない・土に戻らないゴミを捨てない」の 3 つの約束を守って竹尾緑地の生きものを大切にしたい。アオスジアゲハが卵を産むからクスノキが必要と知った。カヤネズミが生きていくのにススキとかオギが必要と初めて知った。ツマグロヒョウモンやベニシジミなど、色々なチョウがいるのはツボスミレとかスイバとか幼虫が食べる草花があるからだとわかった。全体的に草花や樹木、環境と生き物とのつながりに気づいた、森の大切さがわかったという感想が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	9月～5月	①森のムッレ教室等 7月17日・9月9日・ 10月7日・11月20日・ 12月18日	②森林 ESD ワークショップ 9月18日・10月16日・2月19日 3月5日・4月16日・5月1日	計 11 回
参加者数	県内 県外 計	75 人 人 75 人	316 人 人 316 人	391 人 人 391 人
実施場所	福岡県 福津市・町			

第 27 回九州森林フォーラム in 宮崎県日向市 ～アフターコロナ社会における九州の森林づくり・家づくりの行方～

NPO 法人 九州森林ネットワーク

〒 869-2501 熊本県阿蘇郡小国町宮原 1802-1
小国町森林組合事務所内

1. 活動の概要

2020 年に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大は、3 年を迎えても終息が見通せず、経済や社会に大きな影響を与えてきました。森林・林業分野でも、国際的な物流の滞留によって木材貿易が縮小するとともに、ウッドショックとアメリカで発生した郊外住宅建築の増加が国際的な木材価格の上昇を招きました。我が国の住宅建築現場でも一部の部材が入手できずに着工の遅れが生じるなど混乱が発生しました。さらに、ロシアのウクライナ侵攻の影響もあり、木材だけではなく食料や石油など多くの一次産品や資源の価格高騰も始まっています。

世界的な感染症の流行リスクは今後も高く、またウイルスの発生自体が自然環境の破壊が招いたと指摘されています。地球規模での環境問題や貿易の変化が、地域に生きる私たちの生業や暮らしに影響をもたらすことが示されたといえます。そうした中で、ライフスタイルを見直し、一極集中が進んだ関東圏から地方への移住も注目されています。また、海外にできるだけ頼らず地域資源に根ざした農林業やエネルギーのあり方の議論も始まっています。

こうした中で、ウィズコロナ、アフターコロナ社会を見据えて、私たちはどのような森づくりと家づくりを目指せばよいのでしょうか。不確実な時代に難しい課題ですが、我が国で最も林業と木材加工が活発な地域である宮崎県日向市において率直な議論を行いました。林業や木材産業の動向に詳しい赤堀楠雄氏と家造りに詳しい古川泰司氏をお招きし、基調講演をお願いしました。

2. 活動の成果

今回「アフターコロナ社会における九州の森林づくり・家づくりの行方」のテーマでフォーラムをおこないました。我が国の住宅建築現場でも一部の部材が入手できずに着工の遅れが生じるなど混乱が発生しました。さらに、ロシアのウクライナ侵攻の影響もあり、木材だけではなく食料や石油など多くの一次産品や資源の価格高騰も始まりました。国内は森林大国でありながら資材不足（木材）消費者としては、「なぜなのか？」疑問がおこる。海外に依存している日本であるが故、もっと地域の資源をいかし更に地域の設計、工務店、製材所、木こり、森林所有者の連携が必要、地域の資源をいかす取り組みを行う事が大事ではないのか、人と人との関わり合いが今回のコロナにより阻害された、ある意味コロナから学んだことも大きいのではないかと思う、改めて人と人の関わり合いを大事にしていく事が今後必要とされることを今回のフォーラムで学べた有意義な学習の場となりました。

また新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場人数を制限しオンライン（YouTube）での同時配信もおこなった。

3. 参加者の声

・地域の森の木を造った建築は地産地消で、今のトレンドに合っていると思う。伝統構法の大工や左官職人もそれで仕事を続けられると後継者も育成できると思う。

（文化研究所 60 歳以上）

「補助金を使うのが上手な人を育てるのではなく、木を作るのが上手な人を育てる」とても良い言葉です。

（林家 50 歳代）

・つい最近林業に関わるようになりました。今回のフォーラムは専門用語も多く、少しむずかしく

感じましたが、現状を理解するための時間になり有難く思います。森林組合さんや現役建築士さんによる事例紹介も、とても勉強になりました。

(民間企業・苗木生産 40歳代)

- ・川上(林業地)は家づくりの情報を、ほとんど知らないのが現実。今回はその重要性をあらためて感じました。

(九州林業塾 60歳以上)

- ・最後の「製材が山の価値をあげる」という言葉は、有馬先生が製材は木材きり用のエンジン、駆動力という言葉とも重なり、普段から意識していますが、特に製材における人づくりの問題点、自分でも痛感している点で、改めて身が引き締まる思いでした。大変貴重な学びの時間を、ありがとうございました。

(木材業 40歳代)

実績報告とりまとめ表

実施時期		12月16日	12月17日	計	備考
事業量 又は 事業内容		フォーラム 「基調講演①林材ライター赤堀楠雄氏」 「基調講演②アトリエフルカワ一級建築士事務所古川泰司氏」 「事例発表3件」 「パネルディスカッション」	現地見学会 「宮崎県森林組合連合会東郷林産物流通センター」 「耳川広域森林組合本所乾燥センター」 「住友林業(株)日向山林事業所東郷樹木育苗センター」		
会場 参加者数		20人 18人 38人	10人 8人 18人	30人 26人 56人	
オンライン参加申込数	県内 県外 計	29件		29件	
視聴回数		85回		85回	
実施場所	12月16日宮崎県日向市中町1番31号 日向市文化交流センター(小ホール) 12月17日日向市東郷町				

飲食店と連携して行う地域材利用の普及啓発「天草の木づかい」フェア

天草ヒノキプロジェクト

〒863-0013 熊本県天草市今釜新町 3530

天草木材協会

1. 活動の概要

目的

地域材の地域内利用を推進するための普及啓発

内容

地域材の利用促進に賛同する飲食店5店舗と連携し、10月8日（土）～21日（金）「天草の木づかいフェア」を実施した。フェアでは、料理の器（木のプレートやトレイ）、装飾（葉）、卓上のセッティング（ランチョンマットとコースター）、店内装飾（ポスター）、ノベルティ（香りサッシュェ）で地域材をアピールした。また期間中来店客にはミニリーフレットを配布し、森林・林業への親しみや共感を育むメッセージを伝えた。

2. 活動の成果

- ・市民（来店客）の、地域材の認知、関心喚起につながった。
- ・事業者（実施飲食店）の地域材利用を実施できた。
- ・市民（来店客）、事業者（実施飲食店）双方から好意的な反応を得られ、地域材への親しみを醸成できた。
- ・フェアをきっかけに、地域材利用の問合せや注文につながった。

天草地域において、地域材の認知や利用促進はまだ十分とはいえないが、伝える活動に対しての確かな反応を得られた。説明・説得とは違う方法で、共感が広がり、利用の推進につながっていく可能性を感じる。今後も、地域の森林資源の活用と循環を促す努力をし、森の力を高めながら、林業と関係産業の活力につなげていきたい。

3. 参加者の声

（フェア実施飲食店のアンケートから）

- ・ヒノキトレイでサービスする事でお客様が「いい香り～！」と笑顔になられ、良い印象でした。
- ・木の器は見映えがする為、反応がとても良かった。
- ・サービスの仕方が広がり楽しく実施できた。
- ・お客様もほっこり喜んでくださっている様子が伝わってきました。
- ・お客さんの中にもヒノキのイメージがある中で、天草のヒノキがさまざまに使われて循環するということを知ってもらえたと思います。
- ・木の器は収納に場所を取るけれど、見えるところに置くことも視覚的に悪くないと思いました。
- ・天草ヒノキで作った小さなまな板など今後販売できたらお客様と話題になる機会が増えそうです。
- ・お客様と地域の木材についての話題もできて、楽しいフェアでした。
- ・フェア終了後もトレイやプレートを使用してお客さんに伝えていきます。
- ・引き続き天草ヒノキPRしていきます。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月8～21日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	飲食店5店舗で 「天草の木づかい フェア」				
参加者数	県内	280人	人	280人	
	県外	30人	人	30人	
	計	310人	人	310人	
実施場所		熊本県 天草市			

母なる森に還る

一般社団法人 NATURE&HUMANS JAPAN

〒 865-0064 熊本県玉名市中 1835-1 キッチンるば

1. 活動の概要

森林環境教育の促進のために、四国で、林業で活躍している女性と自伐型林業などの第一人者を招いてのセミナー / 先進事例見学会を実施し、女性や一般市民・青年たちなどの国民に森林・緑・水に対する認識を深めるための普及啓発を行いました。

5月19日 見学

●由良野の森見学 ①ブナの森プロジェクト②こどもの環境教育③動物とのふれあい④ツリーハウス⑤てづくりゲストハウス

●マタギの郷 猪の解体施設及び精肉所とキャンプ場の見学

講師 橋本延子氏 橋本光次氏

5月20日 セミナー テーマ 「地域をつくり地球をつくる林業」

●講師 橋本延子氏 橋本光次氏 鎌田磨人氏

5月21日 セミナー 「森のようちえんとヒーリング フォーレスト」

●西村早栄子氏 平井佑佳氏 井部健太郎氏

5月22日 見学 ワークショップ

●黄金の森 見学 講師 平井佑佳氏 井部健太郎氏

●ワークショップ 畑野川の里づくりグループ

講師 藤目 節夫氏 愛媛大学名誉教授 とグループの皆さま

2. 活動の成果

松山市近郊や久万高原町の ESD のネットワークができ活発化しました。

林業担い手不足の解消につながる自伐型林業が四国でさらに認知され、持続可能な林業が実施される一助になりました。

3. 参加者の声

日本の課題、【愛媛の課題】にどっぷり関わった4日間でした。

今、外国資本がどんどん大切な土地を購入しています。

そして、かなり前から 日本の山々や、水源地、島を買い漁っていることをご存知でしょうか？

なぜ、安易にお金のために手放さないといけないのか、関わるができなくなったのか？

森林は私たちの先祖が残してくださった社会的共通資本とも言えると思います。

わたしたちが、森林をきちんと理解し、今までのように、経済活動中心に森林を考えるのではなく、持続可能な自伐林業、教育、健康、観光などのさまざまな関わり方を知ることによって、私たちの、母なる森に、私たちは抱かれる関係性を思い出していく必要があります。

自伐林業家の橋本光治先生のお話

山を遺産相続したけど、お荷物に思ってる方、機会あればきいていただきたいお話でした。

売らなくても、活用できるよ！という内容が満載

森との関わりを子どもたちにと、子育てに活かしていっています。

森がいかに子どもたちの成長に必要なかとても大切なお話をお聞きできました。

藤目節夫先生

愛媛では地域づくりを今、まさに実践され、畑野川の地域作り、ライムの山づくりを子どもたちと見せてくださいました。

また、井部健太郎氏の、黄金の森実際に見て、感動。

また、健ちゃんこと健太郎さんから今の活動や、マザーツリーの話もお聞きし、感動。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月19日	5月20日	5月21日	5月22日	計	備考
事業量 又は 事業内容	見学 ●由良野の森 ●マタギの郷	セミナーテーマ 「地域をつくり 地球をつくる林 業」	セミナー 「森のようち えんとヒーリ ングフォーレ スト」	見学ワーク ショップ ●黄金の森見 学 ●畑野川の里 づくりグルー プ	4日間	
参加者数	県内	7人	35人	18人	74人	
	県外	5人	9人	5名	23人	
	計	12人	44人	23人	97人	
実施場所	愛媛県 久万高原町					

みんなで作ろう自然観察会

大分川ダム周辺のつはる里山保全活動実行委員会
〒870-0153 大分市城東町 11-20 ドエル城東 302

1. 活動の概要

現在、現存する里山の資源や自然、生態系などに触れる機会がなくなりつつある現在、子供や大人を問わずに生態系の維持活動や里山でのキャンプ生活などを模擬体験してもらうことによる里山での楽しみ方や自然環境の必要さまた神秘さについて肌を通じて感じてもらい自然や生態系について関心を持ってもらう事。また、河川の生物や生態系について学習の場を設け河川にある岩石や植物など触れて確かめて河川の生物についても興味を持っていただくとともに河川の遊びや生態系の維持について学んでいただきたい。

2. 活動の成果

自然体験教室による河川の生態系やまたその周辺の植物や地形などをフィールドビンゴ等で学習をした。参加者たちが自然に触れ考えまた河川の生態系について学習できた。また、キャンプ体験をすることで里山での興味や楽しみ方を学ぶことができたと思う。河川の観察会で水生系の生物は子供たちが初めて見る魚（どんこ、なまず、しまどじょう）をみて興味を湧かせて触れて学んでいたと思う。河川の岩石の説明についても真剣に講師の話に耳を傾けていた。今後も学習の場を設け河川の生態系の維持活動について観察会に取り組もうと思う。

3. 参加者の声

キャンプ模擬体験については雨の為足場が悪かったなどの声が寄せられたがキャンプファイアでの芋焼き体験や火おこし体験は大変良かったと皆様が言っていた。また、河川観察会と散策では普段見れない魚や、岩石、植物等に触れることができ楽しかった。親御さんからは水生生物に触れる機会があり喜んでいた等、評判は良かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		12月4日	2月18日	計	備考
事業量 又は 事業内容		水際の生態系の学習と模擬キャンプ教室を行った。また、フィールドゲーム等	河川の水生生物の観察を行い岩石の勉強、散策会を行った。		
参加者数	県内	43人	56人	99人	
	県外	人	人	人	
	計	人	人	人	
実施場所		大分県 大分市			

NPO 法人アシスト・パル・オオイタ

森林整備で出る産物で有効活用を目指す「森林バイオマス」の見える化
〒 870-0037 大分市東春日町 7-13-708

1. 活動の概要

森や里山林の整備活動から出る産物を有効活用する。化石エネルギーの代用として間伐材、樹皮、端材、製材のオガ粉の資源をチップやペレット化して再生可能エネルギーの実現に県民レベルで見える化に挑戦。

2. 活動の成果

たくさんの参加者で体験会や椅子づくりまた九重の研修では地元の方々との協働で現地を散策し巻き割り体験を通じて実際のバイオマスに触れ巻き割り体験ができた。またエフバイオマスでは日本文理大学の学生と共にバイオマスについて学ぶ機会を与えエネルギーのこれからについて学んだ。

3. 参加者の声

- ・紅葉がきれいだった。
- ・貴重な体験ができた。
- ・笑った。
- ・学生も参加でき次世代へとつながった。

実績報告とりまとめ

実施時期		11月19日 12月22日 1月8日	12月4日	計	備考
事業量 又は 事業内容		バイオマス	椅子づくり		
参加者	県内	33人	22人	55人	
	県外 計	33人	22人	55人	
実施場所		大分県大分市、九重町			

妙音山森林自然公園を中心とした里山保全活動

妙音山を守る会

〒 879-5532 大分県由布市狭間町筒口 667

1. 活動の概要

里山保全活動が課題として長年にわたり地元の宝である里山が放置され荒廃の一途でかつては生活の中で活用されていた自然の恵みも忘れ去られ、日常生活の中での里山との関係が断たれておりました。保全活動への呼びかけ、保全活動への参加を通じて地域の課題でもあります。かつては豊かな地域社会の復活、地域間交流、次世代への啓蒙など緑豊かな里山の保全活動、植樹、育樹、侵入竹の駆除、等地域の文化としての取組をモットーとしております。

2. 活動の成果

自然公園の復活、遊歩道の整備、侵入竹の駆除、活動を通じて地域が活性化しつつあり次世代の参加によって里山の大切さが再認識されつつあります。

マスコミ等の報道の成果もあり、利用者、参加者の数も増しつつあり、何よりも3世代間の参加が顕著になって、次のイベントへの要望も多々あります。

3. 参加者の声

活動への参加が待ち遠しい、もっと回数を増せば等、当会として予想外の現象が起きつつあり、参加者の要望をどの様に解決するかが当面の課題となってきております。

実績報告とりまとめ表がつ

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	会場整備	11月9日	1月10日		
	講習会	3月19日			
		11月16日	2月6日		
参加者数	県内	78人	86人	164人	
	県外	人	人	人	
	計	78人	86人	164人	
実施場所		大分県 由布市・町 狭間町			

日本三大砂丘「吹上浜」の白砂青松再生事業 ～「森林ボランティアの日」森林づくり活動～

鹿児島県森林ボランティア連絡会
〒892-0816 鹿児島市山下町 9-15

1. 活動の概要

今回活動を行った吹上浜は、約40kmにも及ぶ日本最長の砂丘で日本三大砂丘の一つである。

このうち約25kmが松に覆われ、飛砂や防風から住民生活を守り、観光資源としても重要な役割を担ってきたが、近年、マツクイムシやマツケムシにより一部の地域で甚大な被害を受けている。

このため、9月第3日曜日の全国一斉「森林ボランティアの日」に因み、森林を守り育てることの大切さを広く周知し、県民一人ひとりがそれぞれの立場で森林づくりに参加する機運を醸成するとともに、その意義を広く発信するため、県内の森林ボランティア等が、国や県、市、林業関係団体と連携して、南さつま市加世田の国有林にて、吹上浜の白砂青松の再生に向けた森林づくり活動に取り組んだ。

当地での活動が2年目となる今回は、まず前年度の植栽地（抵抗性マツ）の下刈活動を8月に実施したのち、隣接する新たな荒廃地への植樹活動を12月に開催した。当日は天候にも恵まれ、参加者の手際良い作業により、予定していた植樹を全て完了することができた。

当活動は、5年がかりで5,000本の松林を造成することを目標にしており、次年度以降の3年間についても、残りの荒廃地への植樹に加え、既植栽区域の下刈等の保育作業を実施しながら継続的な活動に取り組むこととしている。

2. 活動の成果

県内の森林ボランティアが主体となり、国や県、市、林業関係団体等と連携して、公益上かつ産業振興においても重要な森林を、植栽から保育まで守り育てる活動を継続的に実践していくことで、周辺地域に大きな波及効果が見込まれ、森林ボランティア活動の対外的認知度も向上する。

当日は、地元南さつま市副市長のほか、次世代を担う学生ボランティアにもご参加いただき、こうした活動の重要性を訴えかける良い機会となった。

3. 参加者の声

- ・せっかくの良い機会なので、今回は、孫を連れて参加した。孫に森林を守り育てる活動の必要性を教えながら、大きく育てと願いつつ、懸命に植えた。植樹を初めて体験した孫にとっても森林の大切さを知る良いきっかけとなった。来年の活動にも孫と参加したいと思う。
- ・活動2年目の今回も、元気に参加することができた。「5,000本の松林を造成する」という当活動の最終目標まであと3,000本。今後も積極的に活動に参加し、マツ林の生長を大切に見守っていききたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		8月24日	11月16日	12月3日	計	備考
事業量又は事業内容		下刈活動	準備作業	記念植樹(6本) 植樹1,000本		
参加者数	県内	13人	7人	125人	145人	
	県外	0人	0人	0人	0人	
	計	13人	7人	125人	145人	
実施場所		鹿児島県南さつま市吹上浜海浜公園に隣接する国有林内				

森に親しみ、その大切さを理解、保存していく事業

特定非営利活動法人らんらんらん

〒890-0054 鹿児島県鹿児島市荒田1丁目40番10号

1. 活動の概要

「近くに有りて遠きもの」となっている森へ行き、木々、空気、生物に触れることで、その大切さ、役割を、理解してもらう。親子参加や、大人の参加も頂き、広く森林・緑・水に対する認識を深めるために実施致します。

2. 活動の成果

本年度は、計画通り4回にわたって実施することが出来た。

- ①木や竹の間伐体験では、何故、間伐が必要か、間伐の大切さを学び、間伐をする木の見分け方と、倒木方向や、その後の切り出していくルート確保など、安全で、効率的な間伐作業の実演に、関心や、感動が起き、体験では身が引き締まる思いで臨むことが出来た。
- ②遊歩道作り体験では、くい打ち込み加減と、間伐材の有効活用の実践を通して、傾斜の激しい所での作業の大変さや、安定した階段を作る平坦を形成する作業に苦戦していた。楽しく積極的に取り組んで、みんなで声かけあいながら森に道が出来ていく達成感と、充実感をえられた。
- ③椎茸の駒打ち体験では、ほとんどの参加者が初めての体験で、子供達の低学年が多く、まずは、生の椎茸を観察してもらい、スケッチしてもらった。次に部位と、漢字を覚えてもらい、屋外に出て、菌の駒打ち体験を実施した。とても集中して活動に取り組めた。ドリルで穴あけする際のドリルの使い方から、菌の打ち込みと、育て方、収穫の時期などの説明に、非常に興味深いようで、全員が、我が家で育てる環境の難しさを想像していた。その恵みを何気に頂けている有難みを改めて深めた活動となった。
- ④椎茸の収穫体験と遊歩道の補修と森の変化観察会では、残念ながら椎茸は出来ておらず、収穫体験とはいかず、原木に付いている小さな椎茸や、大きくなりきれなかった硬い椎茸をゲットして、学ぶことができた。本降りになっていた雨で、遊歩道の補修も難儀したが、最後は、竹の笛「天吹」の演奏を先生がしてくれて、自然の中で聞く竹笛の音に癒された。

3. 参加者の声

- ◎間伐体験した20代男性は、初めての体験で、とても感動した。緊張したが楽しかった。また、体験機会があれば、是非、参加して、山や森の知識を増やしたい。との感想。
- ◎遊歩道づくり体験した40代ご夫婦は、初めての体験。一つ一つ作業の確認と、土の硬さ加減に、慎重に取り組んでくれて、歩き心地を確かめ、達成感が半端ないです。と、あっという間の時間ですごく楽しかったと笑顔がいっぱいだった。
- ◎椎茸の駒打ち体験をした60代の女性は、木づくちに感動。良い！！の連発。
子供達は、口々に、楽しかった。もっとしたかった。家には、影になるところが無い。どうしよう。等々、菌を打ち込んだ原木を育てる環境を、一所懸命考えるきっかけになったようだ。
皆さん、大変喜ばれて、次回も参加したいと、笑顔でいっぱいだった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		9月25日	10月30日	11月19日	1月6日	計
事業量 又は 事業内容	森に親しみ、 その大切さを 理解、保存し ていく事業	森の中の遊歩道 作り体験を楽し みましょう	木や竹の間伐体 験とその利用法 を楽しみましょう	椎茸の収穫体験 と遊歩道の補修 と森の変化観察 会	椎茸の駒打ち体 験	4回
参加者数	県内	48人	49人	36人	52人	185人
	県外	人	人	人	人	人
	計	48人	49人	36人	52人	185人
実施場所		鹿児島県 鹿児島市				

山村地域の森の循環を学ぶ体験事業

特定非営利活動法人もりびと

〒890-0064 鹿児島県鹿児島市鴨池新町 27-2-510

1. 活動の概要

地域材の利用方、身近な有効活用を知り、循環型の森づくりの必要性を広く伝えることを目的とする。

2. 活動の成果

昨年同様、コロナの影響で開催するか悩みました、地域の方々のご協力のもと開催することができました。

昨年までは、森の現状を見ていただき、森の整備のやり方など林業体験を主体とした取り組みを行っていましたが、林業の大変さしか伝わっていないようでした。今年度は市民の誰もが循環型の森づくりに取り組める内容として「木材を使う」をテーマに工作体験を主体にしたところ多くの方々に参加いただき現在の森が求めていることが伝わったのではないかと思います。

この取り組みで健康な森のサイクルが少しでもすすみ、もっと元気な森の農山村を育てることが出来ればと思っています。小さい取り組みかもしれませんが、今後も森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくりの運動を続けていきたいと思っています。

3. 参加者の声

今回製作したミニログハウスを地域の小学校のうさぎ小屋として寄贈しました。木材を使うことで森のサイクルに繋がることだと聞き、今後は積極的に木材を使っていきます。との声を頂きました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	循環型の森づくり講座とミニチュアログハウスづくり	8月14日	9月10日	43人	
	セルフペイント身長計づくり	10月15日		31人	
	カッティングボードづくり	11月19日		25人	
参加者数	県内	75人	22人	97人	
	県外	2人	0人	2人	
	計	77人	22人	99人	
実施場所		鹿児島県日置市伊集院町土橋			

未来につなぐ大隅の森 100 年構想事業

特定非営利活動法人おおすみ 100 年の森

〒 893-0132 鹿児島県鹿屋市下高隈町 5454-11

1. 活動の概要

- ・大隅地域の豊かな森林資源の恩恵を持続可能となるよう未来につないでいくために、平成 31 年度から始まった森林管理制度における市町林務行政への技術的知見に立った企画提案をはじめ、協力体制の構築を図った。また、地域の林業・木材産業関係者のそれぞれの視線から見た立木・丸太・製材製品をより良いものとするために、川上・川中・川下の関係者が連携を図り、地域振興という意味での地場産業の確立を目指し、森林資源の適正管理や利活用等についての協議会活動と普及啓発活動を実施した。

2. 活動の成果

- ・川上・川中・川下の関係者による協議会活動や大隅半島 2 市 4 町、大隅地域振興局、大隅森林管理署、林務行政者との情報交換会、森林認証推進セミナー等の勉強会、映画「杜びと」上映会、先進地室研修などの、活動を通じて、大隅の森林資源に対する認知や課題共有が進んだと感じてる。
- ・また、一連の活動を通じて、令和 5 年度からモデル的に南大隅町の風倒木を含む森林集積計画策定を行うことが決まった。これをきっかけに、大隅の手入れの行き届いていない森林の適正管理と森林資源の有効活用が進むと考える。

3. 参加者の声

- ・伐採後に再造林されない山が目立ってきている。このままでは、将来、大隅の森がどのような姿になるか心配だ。
- ・関係者が情報共有して、課題解決に向けて、取り組んでほしい。
- ・そのハブ役として、今後のおおすみ 100 年の森の活動に期待したい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		R4 年 10 月 18, 19 日	R5 年 5 月 18, 19 日	計	備考
事業量 又は 事業内容		・研修旅行 (球磨村森林組合 くま中央森林組合)	・活動 PR チラシ 作成配布 (大隅 2 市 4 町)	・研修旅行 ・活動 PR チラシ 作成配布	その他、協議会活動、 情報交換会、勉強会、 映画上映会は、自己 資金で実施。
参加者数	県内	10 人	1,000 人	1,010 人	上記、活動参加者は、 延べ 500 人超。
	県外	5 人	0 人	5 人	
	計	15 人	1,000 人	1,015 人	
実施場所		鹿児島県 鹿屋市・垂水市・肝付町・東串良町・錦江町・南大隅町			

調 査 研 究

特別支援学校における森林環境教育とそのための 森林公園利用に関する調査研究（要約）

岩手大学農学部 高田乃倫予

1. 問題意識と目的

近年、「森林を利用した環境教育」である森林環境教育が推進されている。森林環境教育は、普通校だけでなく、特別支援学校においても同様に実施されることが期待されている。特別支援学校における森林環境教育に関する研究は、視覚障害を対象とした森林ESDモデルの開発に関わる調査研究（小川、2006）や滋賀県の特別支援学校の森林環境教育における傾向を普通校と比較した調査研究が見られる（中川、2013）。

森林環境教育を実践する場所として、都道府県が管理運営する森林公園がしかし、森林環境教育に適していると考えられる森林公園の利用実態やその課題は明らかにされておらず、特別支援学校の森林環境教育に関する知見の蓄積は深まりをみせていない。特別支援学校の森林環境教育の課題を整理し課題を明らかにすることは、今後の森林環境教育の調査研究を推進する上で有益である。

2. 調査方法

本調査では、北東北3県（青森県、秋田県、岩手県）の森林公園ならびに特別支援学校を対象とした。

(1) 特別支援学校の森林環境教育について

特別支援学校の森林環境教育に対する取り組みについて、青森県庁教育委員会学校教育課、秋田県教育庁特別支援教育課、岩手県教育委員会事務局学校教育室特別支援教育担当に聞き取り調査（半構造化インタビュー）を行った。

加えて、聞き取り調査の結果を踏まえて、特別支援学校55校（青森県22校、秋田県15校、岩手県18校）にアンケートを郵送した。質問内容は、支援学校の属性や森林環境教育の実施の有無、森林公園・自然公園の利用の有無、森林環境教育の課題とした。質問量は、20分程度で回答可能な量とした。

(2) 森林公園のバリアフリー化の状況について

青森県、秋田県、岩手県の県立森林公園の管理運営について、各県の森林公園を所管する青森県環境生活部自然保護課、秋田県農林水産部森林環境保全課、岩手県農林水産部森林保全課に聞き取り調査（半構造化インタビュー）を行った。なお、秋田県においては紙面の回答となった。

各県の県立森林公園において、「もりの学び舎」などの屋内施設および遊歩道などの屋外施設におけるバリアフリー化の状況について目視で確認する現地踏査を行った。

3. 特別支援学校の森林環境教育について

北東北3県の県の担当者への聞き取り調査では、森林環境教育の実施や森林公園を利用している特別支援学校はほとんどないとの回答だった。

郵送調査によるアンケートの回収率は73%となった（8月28日現在）。県別では青森県が約73%（16校）、秋田県約87%（13校）、岩手県約61%（11校）から回答を得られた。特別支援学校が対象とする障がいについては、知的障がいを対象とする学校が最も多く見られた。森林環境教育の実施の有無については、回答校の約2割のみであった。残り約8割は、森林環境教育を実施していなかった。

対象とする障がい別に森林環境教育実施の有無を見てみると、知的障がいでは5校、視覚および肢体不自由・知的障がいでは2校ずつとなっていた。

フィールドとして森林公園や自然公園を利用するかは、肢体不自由・知的障がいを対象とする学校2知的、視覚で1校ずつという回答を得た。

森林環境教育を実施していないあるいは、フィールドとして森林公園や自然公園を利用していない理由として「時間を捻出することが難しいから」「ほかの環境教育を実施しているから」「自然公園や森林公園において実施できる環境が整っていないから」「安全面で難しいから」の順で回答が多かった。

4. 森林公園のバリアフリー化の状況について

北東北3県ともに、森林学習交流館やもりの学び舎といった屋内施設は、床がフラットであり、一部援助が必要であるものの、車椅子走行や杖歩行をしやすい状況となっていた。一方、屋外の遊歩道では、砂利敷きや丸太の階段など自然状態を活かしたオフロードが多く、バリアフリー化が進んでいる状態ではなかった。

岩手県では、令和3年度以降の森林公園のリニューアルにより県民の森や滝沢森林公園の遊歩道の一部がアスファルト舗装され、車椅子でも走行可能なように整備されていた。千貫石森林公園や大窪山森林公園、折爪岳森林公園の遊歩道は、リニューアル前と変わらずオフロードが多く車椅子での走行は厳しい。

5. 考察

(1) 特別支援学校の森林環境教育

特別支援学校においては、まず森林環境教育という考え方が普及していない。したがって、森林環境教育を広めるためには、特別支援学校の教員関係者に丁寧な説明をしていくことが求められる。しかし、時間に制約があるなかで、特別支援学校の教員が森林環境教育を担うよりも森林環境教育専門のスタッフを育成していく必要があるであろう。

(2) 今後の特別支援学校における森林公園利用の課題について

森林公園については、各森林公園で特別支援学校の児童・生徒が森林に親しめるようなエリアを整備する必要がある。

特に岩手県の森林公園の事例では、リニューアル後に一部の森林公園でバリアフリー化が実施されているが、アンケート調査の回答では、森林公園でのバリアフリー化が十分でないという意見が多かった。森林公園においてバリアフリー化を進めていても、利用者にその内容が伝わっていない可能性が高いため、森林公園の情報提供を今以上に積極的に行う必要がある。

また、森林公園の指定管理者が変更される際に、実施されていたバリアフリー化の取り組みを継続できるよう県側から働きかけていく必要があると考えられる。

6. 引用文献

小林修 (2011) 視覚障害者と協働して展開する森林 ESD モデルの開発 森林科学 63,34-38

中川宏治 (2013) 特別支援学校における体験型の森林環境教育の導入 奈良・滋賀県の森林体験学習「やまのこ」事業を事例として一, 林業経済研究 59(1),92-101

埼玉県における園庭や裏山等を活用した自然保育に関する実証的研究

特定非営利活動法人 Support for Children

〒539-1112 埼玉県所沢市泉町1789番地

秋草学園短期大学内北澤研究室

1. 調査の概要と結果

本事業は、埼玉県の保育の場において森林や裏山等を活用した自然保育がどのように行われているのかという実態の把握を行い、幼児期の森林ESDの実践を促進する要素や課題を明らかにすることを目的とし、埼玉県の幼稚園・保育所・認定こども園のHP調査、幼稚園へのアンケート調査、先進実践園への視察、インタビュー調査を実施した。調査方法、結果の概要をここに報告する。

① HP調査

HP調査では、埼玉県の幼稚園・保育所・認定こども園のHPを調査し“自然、森、園庭緑化、自然観察、生命尊重、感性、動植物”など自然との関わりについての語句が記載されている園をピックアップした。自然と関わることの大切さは古くから保育のなかで位置づけられ、現在は幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿の1つに「自然との関わり、生命尊重」が位置付けられている。埼玉県は、森林や自然が豊かな地域がある一方で、東京都心部にもアクセスのよいベットタウンとして人気のある住宅地も多い地域であるが、HP調査からは地域を問わず、自然に関する記載がある園が非常に多く、保育実践における自然との関わりについては多くの園で意識して位置づけられているということがわかった。また、このHP調査により、埼玉県で園庭や裏山等の森林フィールドを持ち、そこでの保育活動を行っている園のピックアップを行うことができた。それらの園を対象に視察・インタビューを実施した。

② アンケート調査

アンケート調査は、埼玉県の幼稚園・保育所・認定こども園で自然に関する記載がHPにある園を対象に実施する予定であったが、調査の結果、非常に多くの園に記載があったことにより、アンケートの対象をまず園庭のある幼稚園に絞り、園庭や裏山等を活用した自然保育の現状や課題についての把握を行うこととした。

○調査対象：埼玉県内の幼稚園

埼玉県HPに掲載されていた令和4年度埼玉県私立幼稚園一覧の幼稚園446園（一部認定こども園）、公立幼稚園39園、計485園

○調査期間：2023年5月1日～5月31日

○アンケート結果（概要）

・回答率：327件（回答率48%）

・回答施設の概要について

対象は埼玉県内の幼稚園（私立幼稚園一覧、公立幼稚園）としたが、アンケートの回答からは、私立幼稚園一覧に掲載されているが、認定こども園になっている園もあり、回答園の種別は、幼稚園が217園（92%）、認定こども園が20園（8%）となった。また、設置運営者は、公立が22園（9%）、私立が215園（91%）であった。また、園の所在地の特徴としては「郊外の住宅地」にある園が120園（51%）、「中心市街地」にある園が63園（27%）、「田や畑が多い農業地帯」にある園が34園（14%）、森林が多い中山間地は2園（1%）となり、いくつかの要素が入り交じっている園が10園（4%）であった。

・園庭の自然環境について

園庭の環境として多い自然要素としては、232園（97%）が園庭に「砂場」があると回答した。次いで「花壇やプランター」が197園（83%）、「樹木やツル性植物」が179園（75%）、「ひらけたスペース」が131園（55%）、「土や泥遊びができる場所」が129園（54%）、「芝生地や雑草地」が105園（44%）、「菜園（畑）」が83園（35%）、「飼育動物」が82園（34%）、「水遊び場」が75園（31%）、「築山や

斜面」がある園が74園（31%）、「ビオトープ」が17園（7%）であった。

現在の園庭の自然環境については、146園（61%）が「現在の園庭で十分充実した遊びや自然との関わりが可能である」と考えていることがわかった。「充実させていきたいと考えており、具体的に計画している」園は14園（5%）であり、「充実させていきたいが、実際になかなか難しい」と回答した園は65園（27%）であった。その障壁となっていることについての自由記述では、「維持」「管理」「費用」「広さ（スペース）」「面積」などの語句が多く、園庭の自然環境については、維持管理をしていくための人材や費用の確保、広さ（スペース、面）についての課題などが環境充実に向けた障壁になっていることがわかった。

・園庭や自園の自然フィールドを活用する際に難しさや課題だと感じていること

自然フィールド活用の際に難しさや課題として一番多かったのが「維持管理に手間がかかり、保育者の負担が大きい」と感じている園が100園（42%）であった。次いで「維持管理にお金がかかる」が76園（32%）、「子どもが触れ合える種類や量が少ない」が69園（29%）、「保育者の知識や技術不足で自然を活用した保育が難しい」が52園（21%）、「園庭や自園の自然フィールドが狭い」が49園（20%）、「人手不足で充実した活動ができない」が30園（12%）、「保育計画が不十分である」が13園（4%）、その他が11園となった。自由記述と同様に、維持管理の手間、費用の問題を感じている場合が多いことがわかった。

③先進実践園への視察・インタビュー

2022年8月～2023年5月までに、HP調査にてピックアップした園庭や裏山等の森林フィールドを活用した保育を実践している6園（保育園3園、幼稚園2園、認定こども園1園）への視察と管理職の方へのインタビューを行い、森林フィールドでの保育を実践するまでの経緯や森で遊ぶ子どもの様子、保育者間で意識していること、必要な支援についてなどをインタビューした。

インタビューでは、現在のフィールドで活動するようになった経緯が語られた。その際、“土地”、“人”、“地主”という言葉がよく使われた。森林フィールドを持ち、活動するためには、土地を探すことの大変さや土地の購入都合など、土地の事が大きく影響するということがインタビューからわかった。また土地所有者である地主の方との関係ややりとりに苦労したこと、地主の方との縁で今のフィールドが活動ができるようになったことなど、土地所有者である地主との関係性がキーワードになるということも語られた。

更に、森林フィールドでの活動では、自然の多様性をもたらす多様な遊びが可能になったこと、子どもが生き物とのつながりや循環、命の大切さを学んでいると感じるエピソードが語られるとともに、自然のなかでの活動により保育者も子どもの主体性をより大切にするようになったという保育者の変化も語られた。また、森林・裏山・里山等での自然環境を重視した保育を行う際には、蜂や蛇、毛虫、野生動物などの関わり方によっては危険を伴う生き物とどのように共存していくのか、子どもの安全を守っているのかということを保育者間で考え共有しながら、必要な知識や技術を得ていくことの大切さが語られた。

自然環境の整備、維持管理に関しては、アンケートでも課題として浮彫になったが、インタビューではより具体的な整備の方法についても語られた。金銭面や保育者の負担の課題がある一方で保護者との協同による整備や埼玉県生態系保護協会や造園業、地域の方など様々な人や関係団体、異業種と連携をしながら、整備活動を実践していることなど各園での取り組みが語られた。

森林医学に基づいた予防・健康づくりを担う 医師養成システムのあり方に関する実証的研究

独立行政法人国立病院機構 東京医療センター
〒152-8902 東京都目黒区東が丘 2-5-1

実施概要

- (1) 医師向け森林医学研修会を1泊2日で2回実施した。
「第1回予防医学・健康づくりに役立つ森林医学セミナー」
A. 2022年10月9日(日)・10日(月・祝) 長野県信濃町
B. 2022年11月5日(土)・6日(日) 長野県上松町

A. 長野県信濃町		B. 長野県上松町	
2022年 10月9日 (日)	(特動) 東京9:32(はくたか557号)長野11:04、11:38(しなの鉄道)信濃11:53 12:00~ 高尾駅に集合、朝しの森へバス移動 受付(会場:東野の森ギョウリ)	2022年 11月6日 (土)	新宿6:00(あずさ5号)塩尻10:27、11:02(しなの3号)本智福島11:30 11:30 本智福島駅に集合、赤沢自然休養林へバス移動 受付(会場:赤沢自然休養林「森林セラピー体験館」)
12:15~ 開会、オリエンテーション、グループ分け 昼食(朝しの森マカヒコビ弁当)	13:15-16:15 森林実地研修(森林セラピー体験/4グループ、ガイド4人)	12:30 開会、オリエンテーション、グループ分け 昼食	13:30-16:00 森林実地研修(森林セラピー体験/3グループ、ガイド3人)
16:30-17:00 移動 チェックイン(地:高尾ライジングサンホテル)	17:00-17:20 講① 塚合博子:日本の森林事情と森林活用の歴史	18:00-16:30 講(会場:森林セラピー体験館) 講① 塚合博子:日本の森林事情と森林活用の歴史	16:30-17:10 講② 久米田 茂都:「本智宿院の森林空間活用の取り組み紹介」
17:20-18:00 演② 高村 浩:「信濃町の暮らしの森事業と企業との連携」	18:00-18:30 休憩	17:15-18:30 ホテルへ移動、チェックイン	18:30~ 夕食、入浴、自由時間
18:30~ 夕食、入浴、自由時間	10月10日 (日祝)	11月6日 (日)	7:30~ 朝食、チェックアウト
7:30~ 朝食、チェックアウト	8:30-8:45 「ラボランドくまひめ」研修室(集客館)へ移動	8:30-9:00 「長野県立本智宿院」へ移動	8:30-9:00 「長野県立本智宿院」へ移動
9:00-9:40 講② 塚合博子:「セミナーの目的」、「森林サービス産業の紹介」	9:45-10:25 演① 塚合博子:「日本健康会議と森林サービス産業」、「がんばの現状と森林活用の必要性」	9:00-9:40 講② 塚合博子:「セミナーの目的」、「森林サービス産業の紹介」	9:00-9:40 講② 塚合博子:「セミナーの目的」、「森林サービス産業の紹介」
10:30-11:10 演② 木村理寿:「森林保養プログラムの実施態勢とエビデンス取得の実績」	11:15-11:55 講③ 高山麗理:「国内外の森林を活かした予防・健康づくりのエビデンス」、「企業の健康経営への取り組み例の紹介」	9:45-10:25 講③ 安藤伸樹:「日本健康会議と森林サービス産業」、「がんばの現状と森林活用の必要性」	9:45-10:25 講③ 安藤伸樹:「日本健康会議と森林サービス産業」、「がんばの現状と森林活用の必要性」
12:00-13:00 昼食(ホテルレストラン)	13:00-13:30 演④ 藤矢英成:「1次・2次予防としての森林活用事例の紹介」(チェックイン)	10:30-11:10 演④ 木村理寿:「森林保養プログラムの実施態勢とエビデンス取得の実績」	10:30-11:10 演④ 木村理寿:「森林保養プログラムの実施態勢とエビデンス取得の実績」
13:35-14:05 演⑤ 藤矢英成:「1次・2次予防としての森林活用事例の紹介」(チェックイン)	14:10-15:00 演⑥ ふりがまき。開会	11:15-11:55 講③ 高山麗理:「国内外の森林を活かした予防・健康づくりのエビデンス」、「企業の健康経営への取り組み例の紹介」	11:15-11:55 講③ 高山麗理:「国内外の森林を活かした予防・健康づくりのエビデンス」、「企業の健康経営への取り組み例の紹介」
15:00~ 高尾駅へバス移動、解散	高尾16:01(しなの鉄道)長野16:39、17:04(あずさ510号)東京18:28	12:00-13:00 昼食	12:00-13:00 昼食
		13:00-13:30 演⑦ 佐友 和弘:「地域医療における森林を活用した健康づくり実践事例の紹介」	13:00-13:30 演⑦ 佐友 和弘:「地域医療における森林を活用した健康づくり実践事例の紹介」
		13:35-14:05 演⑧ 堀波アミラーゼ漁産発・My Beat・POMSの紹介、質疑応答など	13:35-14:05 演⑧ 堀波アミラーゼ漁産発・My Beat・POMSの紹介、質疑応答など
		14:10-15:00 演⑨ ふりがまき。閉会	14:10-15:00 演⑨ ふりがまき。閉会
		15:00~ 本智福島駅へ移動、解散	15:00~ 本智福島駅へ移動、解散
		本智福島15:25(得志しなの16号)塩尻15:53、15:58(得志あずさ44号)新宿16:43	本智福島15:25(得志しなの16号)塩尻15:53、15:58(得志あずさ44号)新宿16:43

- [参加者内訳] A. 8名(産業医4名、医師1名、看護師1名、保健師2名)
B. 14名(産業医1名、認知症学会専門医2名、医師3名、作業療法士1名、精神保健福祉士1名、看護師1名、薬剤師2名、製薬会社2、クリニック事務員1名)

- [内 容] ①日本健康会議の「実行宣言2025」に対応した「森林サービス産業」の提案概要
②エビデンスに基づいた森林の医学的効果
③森林空間を活用した予防・健康づくりの指導方法
④森林空間を活用した予防・健康づくりの評価方法
⑤実地演習(先進地の森林医学の実践体験・ワークショップ)

[終了後の感想]・思っていたより奥が深くて興味がわいた。

- ・体感もあり、ガイドの存在や装備についてのご注意など大変参考になりました。
- ・勉強になりました。スタッフ、講師が親切で心地よく参加できました。森林を案内するときのプログラムの立て方が参考になりました。
- ・多くのエビデンスを知ることができて改めて森林の健康増進の力を確認できました。
- ・実際に地域や企業と連携した活動の話に感動しました。今後が楽しみです。



(2) フォローアップ研修を森林医学セミナーへの参加者を対象として行った。

A. 2023年3月26日(日) 長野県東御市 参加者11名

8:30	集合(身体医学研究所)
	<p>【視察①】東御市立みまき温泉診療所</p> <p>【視察②】(社)みまき福祉会「温泉アクティブセンター」(指定運動療法施設)</p> <p>【事例紹介①】東御市立みまき温泉診療所と温泉アクティブセンターが連携した運動療法・医療費控除の実際</p> <p>【事例紹介②】(公財)身体医学研究所による多様な年齢層の住民を対象にした、自然を活かした健康づくり</p> <p>【意見交換①】健康増進施設等を活用した「森林医学」の社会実装の可能性</p>
10:00	移動
10:30	GMOアスリートパーク
	<p>【視察③】屋内プール、トレーニングルーム、林間ジョギングコース、トレイルランニングコース、湯の丸アスリート食堂等</p> <p>【事例紹介③】高地トレーニングの効果等</p> <p>【意見交換②】高地等を活用した「森林医学」の社会実装の可能性</p>
12:00	昼食(湯の丸アスリート食堂)
13:00	視察・意見交換等を行います。
適宜	解散

運動療法で要した経費が医療費控除の対象となる厚生労働大臣認定健康増進施設「指定運動療法施設」や「高地トレーニング施設」の設置や、「クアオルト健康ウォーキング」を通して、自然等を活かした住民や来訪者の健康づくりに取り組む東御市において、先進地視察・意見交換を通して、「森林医学」の社会実装に向けた取組のあり方を学んだ。



B. 2023年6月17-18日(土日) 静岡県富士宮市 参加者7名

日時	スケジュール	備考
6月17日(土)		
14:15	オリエンテーション、自己紹介	
14:30	森林医学 ミニレクチャー	鎌倉博子先生
14:50	Earthing 森林ウォーク 等て一人ひとりに <広津園>プレイング① ～各現場での課題と森林医学活用の可能性 <企業参加>森林医～自由時間	
18:30	マインドフルネスを森	木村理紗
18:30	夕食(最初の夜 食べ放題)	
19:00	焚き火	
6月18日(日)		
8:00	朝ごはん ※参加自由	
8:30	朝礼	
8:00	朝食	
9:30	レクチャー「自然次世代健康とリゾート、Optimal Health」	山本健隆先生
	<広津園>プレイング② ～各現場で課題に取組むとすると... <企業参加>富士市光	
11:15	自由時間	
12:00	ランチ	
13:00	感想シェア、クロージング	

日月倶楽部に1泊2日で滞在し様々なプログラムを実地体験すると共に、ミニレクチャーを実施、今後の課題や森林医学活用の可能性についてディスカッションした。



要約文

この度、医療関係者を対象とした「予防医学・健康づくりに役立つ森林医学セミナー」を初めて開催した。自治体等と連携して地域医療を担う「かかりつけ医」等や、企業・保険者等と連携して産業保健を担う「産業医」等にも「森林医学」について理解していただくことで、それぞれの立場から国民の「予防・健康づくり」として活用できること、地域医療の活性化とともに企業の「健康経営」に貢献できることを効率よく学んでいただく良い機会となった。実際にプログラムを指導・実践していただく段階に至ることは短期間では困難であったことから、フォローアップ研修や専門家による相談・助言ができる体制を整えていくことが今後の課題であると思われた。

健康経営における森林サービスの活用企業研修における 森林の持つ複合的な効果

田畑夏子 株式会社インテージホールディングス R&D センター / (申請時所属)

東京大学未来ビジョン研究センター ライフスタイルデザイン研究ユニット 客員研究員

1. 森林の空間の研修における効果について

場となる「森林」といってもその在り様、活用の仕方は多様であり、研修・プログラムを実施する組織の理念、対象とテーマ等によって異っていた。しかし、森林が果たす役割・重要性、また現代社会への課題感等は共通する点があった。まとめて整理したものを以下に示す。

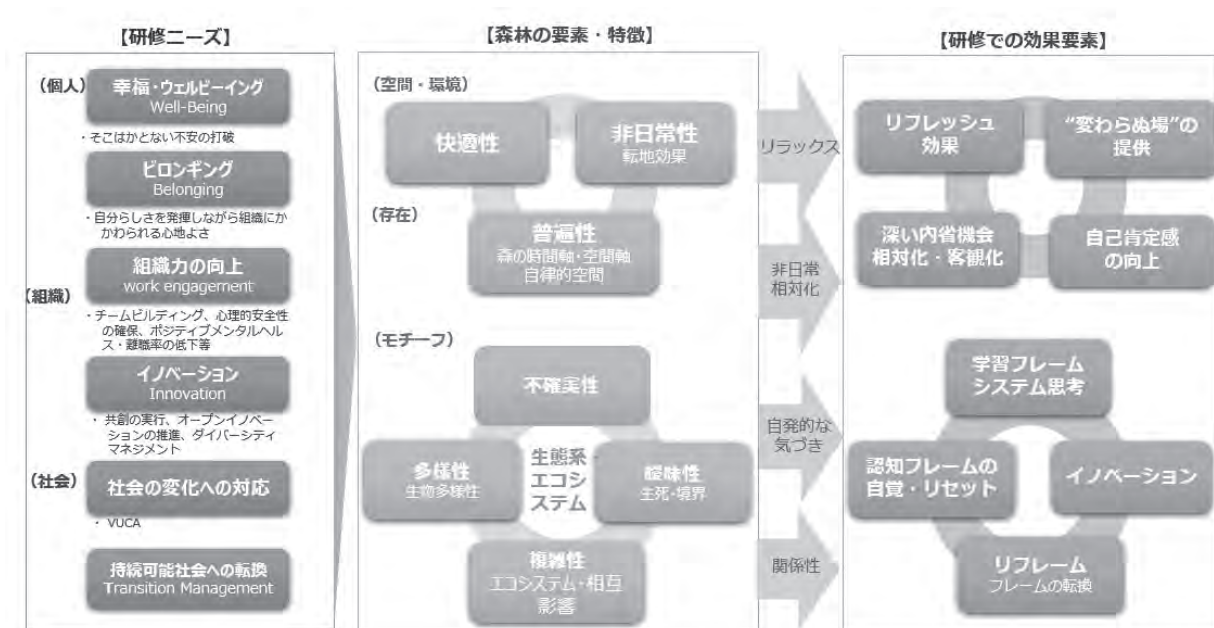


図1. 現代の多様な研修ニーズに対応する森林の要素

森林はあくまで実施空間であり、その活用により研修ニーズが限定されることはなく、現代の幅広いニーズに対応していた。今回のヒアリングで聞いたものはどれもパッケージ化されたものではなく、実施者のニーズにあわせ研修プログラム自体をカスタマイズしていた。その効果を最大化するために空間の特徴も活かしていた。しかしながら、**多くの場合に共通する着目すべき効果としてリフレームの促進効果を上げたい。**

2. ビジネスパーソン研修においてリフレーム効果に着目すべき背景

VUCA の時代:人は、無意識に同じ環境や条件が継続する前提で、検討すべき事項を絞りこむフレーミングを行ってしまう。しかし、VUCA の時代であり、無意識にはまってしまったフレームを意識し、適切なフレーミングを行うことが非常に重要になってきている。

変化に対応するフレームに変わることでの効果を、エイミー・C・エドモンドソンは、「学習フレーム」と「実行フレーム」への変化だと定義し、組織の上司・メンバー・状況に対する見方が変化すると述べている。これは、このどちらのフレームでいるかということが、同じ業務スキルの人材の能力の適用範囲を変化させ、また変化への対応力が増すと共に、そのストレスの感じ方にも影響を及ぼし、集団のパフォーマンスに大きな影響を与えている。

オープンイノベーションによる協業の必要性：持続可能な社会づくりに向けた動きの認識は共通化され、社会システムの変革が求められている。既存の専門分化した組織や理論・方法論では課題解決は難しく、既存の枠組みを超え多様な知見を集めた協働・共創を志向促進する動きが随所で求められている。

しかし、現実には、異なる領域・知見を持った組織・人材のパートナーシップの構築と成果の実現は容易ではなく、異なる組織・背景・価値観の人材との協業可能な人材や組織開発につながる手法が求められており、その一つも適宜リフレーミングが行える能力であることは自明である。

持続可能な社会への移行における課題

持続可能な社会づくりに向けた動きの認識は共通化され、社会システムの変革が求められていることは、既に述べたが、社会の変容には容易にはならずそのトランジション（変化）にも社会技術が必要だと言われている。乗り越えるべき根深い問題の特徴は前ページの図のようにまとめられているが、この認識、解決にもリフレーミングは求められている。

以上の側面からリフレームをスムーズに行うことは現代社会で活躍するビジネスパーソンにとって非常に重要なことであり、その効能を促進する森林へのニーズは拡大すると予想される。

3. 森林を活用した研修が参加者に与える効果とは

一方で、調査研究での事例研究を通じて、ビジネスパーソンが森林を活用した研修にて、大きくリフレーミングの効果を実感する際の背景として、先にあげた目的が事前に設定されていたケースは乏しかった。

実際に訪れた際のプログラムの魅力として、「全体感を取り戻す」「身体の声に耳を傾ける」といった形で森林空間を効果的に取り入れたものを受けた結果として、内省や気づきの促進の結果としてのリフレームを起こしていた。

多くの場合には、**社会生活の中での言語等への過剰適応**といった課題について、プログラム提供側が意識・無意識に対応しているケースが散見された。「物事を捉える際に、頭（言語）から入ってしまう」「定義（言語化）ができないものについてストレスを感じる」といったことについて、前回まとめたような五感でのインプットを取り戻し、「目の前の現実をそのまま受け入れる」ことが実施されていた。

森林の効果は、身体からのインプットを開き、言語の定義から理解するプロセスに刺激と自覚を与え、人間にとっての役割・定義・素材が整理されていない自然物を認識することで、自分の認識のプロセスを自覚させ、社会生活の中での言語（企業ルール）への過剰適応をリセット、リフレーミングの必要性の意欲を掻き立てることと言える。

4. ビジネスパーソン研修における森林価値の企業理解における課題

3で述べたように「言語への過剰適応」は言わば現代組織の特徴とも言える。「言語化できなくてもよい」ということの意味づけ、評価、一律な効果として語るといふ困難に直面する。奇しくも、森林の効果を「全体感を取り戻す」と語ったプログラム提供者は、「企業の論理に負けないで」と語り、企業論理との相性の悪さを認識し、「中途半端に歩み寄る（森林を会議室の論理で測ろうとする）と逆効果」と語っていた。

魅力の定義（言語化）が難しいと同時に、企業にフラットに比較可能な研修の一選択肢として魅力を定義することの構造的な課題もある。

高齢化の進んだ山村の地域資源である 森林空間と有用植物の新たな活用に関する調査

一般社団法人全国森林レクリエーション協会
〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル

1. 調査の概要

かつて山村において森林は、林業を通じての木材資源の提供とともに森林空間を利用した薪炭材や落葉の採取、薬草をはじめとする有用植物の利用など、地域の伝統文化とともに有効活用されてきた。ところが燃料革命と言われるエネルギー利用の変化や長期にわたる林業の低迷、過疎による地域文化の消滅などにより、森林に対する関心が薄れ、森林空間の有効活用も衰退してきてしまった。

しかしながら、近年、地球温暖化防止などの環境問題の延長線上で、または、森林浴をはじめとする森林が有する癒しの効果が認知されるようになったこと等から、森林への関心が高まってきた。このような中、文化的・自然的資源としてポテンシャルを有する地域資源である森林空間の有効活用について、新たな取組などが見られるようになってきた。

今回は、このような各地の取組についての事例調査として、高齢化や過疎化の進んだ山村の地域資源である森林空間と、そこにある豊富な森林資源を新たに活用する現地の活動を事例調査として取りまとめた。

2. 事例調査

(1) 福井県福井市柿谷町の事例

福井県福井市柿谷町という山村地域において、野草を活用した料理作り講座を体験、調査した。野草も昔は食事に利用したり、健康維持や体調不良の際に活用したり、山村地域の暮らしの中で重要な役割があったと推測できるが、自然の恵みを利用した暮らしの知恵は伝承されなくなってしまった。このような中、福井県において、野草を利用して仕事としている吉田弓華さんがいる。吉田さんは、普段、お客様の体調に合わせたヘッドスパやリラクゼーションを行ったり、野草の活用方法や食べ方を教える「野草講座」を開いたりしている。今回は、福井市柿谷町において、野草を使った料理作り教室を開催してもらった。「野草講座」では、野草の解説を聞きながら、食材に利用する野草を採取し持ち帰り、同種ごとに選別し、水洗い後、刻んで料理に使えるように準備する。今回は、セイタカアワダチソウとオオアレチノギクは、アクがあるためよく煮て、それぞれ胡麻和えにした。ユキノシタは刻んで、醤油和えに。オオバコは、葉に切れ込みをいれた後、ひき肉とマッシュルームを合わせてロール揚げへ。ドクダミは、強い香りを活かし、イワシのなめろうと合わせ、さんが焼き風に。カキドオシは細かく刻んで、さっと茹でたウシハコベと合わせ、ニンジンのラベに投入。ヒメジョオンはさっと茹でた後、シンプルな塩もみに。カラムシは、きゅうりと合わせたポタージュスープになった。そして、お茶は、ゲンノショウコを使った。11種類の植物（野草）は、8品のおかずと1種類のお茶になった。

野草の薬効を学びながら食材として採取した野草を使った料理講座は山村ならではのアクティビティである。

(2) 東京都青梅市二俣尾の事例

東京都青梅市の事例では、誰も関心を示さなくなってしまった裏山が荒れ始めたことに危機感を持ったことを契機に山道の整備に取り組む建設会社を紹介している。標高約 360m の柵形山城跡の頂上は、二俣尾駅（標高 240m）から徒歩 30 分程度のところにある。以前は、毎日、この山に登頂するお爺さんがいて、ちょっとした山のメンテナンスをしてくれていたが、その方が亡くなってから、山がしだいに荒れていき、山の神様も見つけられないほどになっていた。それを契機に

10年程前から頂上への山道を整備することとなった。榊形山城跡の頂上は、「青梅丘陵ハイキングコース」となっており、整備された山道は、ハイキングコースのエスケイプルートとして利用されるなど森林空間の利用と保全に役立っている。

(3) 長野県木曾郡木祖村の事例

木曾に伝わる伝統的生薬を製造販売する製薬会社の取組です。生薬の原料となるキハダ（オウバク）のほとんどが林業の衰退とともに外国産となってしまったことから、将来にわたり国内産原料を確保していくという伝統を守り続けるためのユニークな取組を紹介している。古くから伝わる民間伝承薬の「百草」を製造販売する日野製薬株式会社は、長野県木曾郡木祖村にある。「百草」の原料となるキハダは、昭和30年代前半まで100%国内産であったが、現在では2%程度となっている。100%国内産オウバクを使用した「百草丸」を限定的に製造していることから国内産のキハダの安定調達が必要となっている。そこで国内産のキハダを自分たちの手で増やし行こうと始めたのが「キハダ植樹プロジェクト」である。毎年、1,000本のキハダを25年間植樹しつづけ、25年後に収穫が可能となる計画である。地域の行政、教育機関、団体、企業などの協力を得ながら行っているとのことである。今年も2回に分けて実施したが、そのうちの1回は、地元の子供たちに向けた「キハダ植樹体験学習」を開き、植樹のほか、百草、百草丸、生薬、キハダ、森林についての学習も行った。木曾の歴史や自然の恵み、昔から伝えられてきた先人の知恵などを知り、自分たちの住む地域に誇りをもってもらいたいこととこれらの知恵を更なる未来につなげていってもらいたいから行っているとのことである。また、2年前から「キハダ1本から買います」活動を始め、15年生以上であれば少量で遠方であっても購入することとしている。その他、薬草等の栽培も手掛けるなど、伝統を守るために新たな活動に取り組んでいる日野製薬を紹介している。

(4) 東京都桧原村の事例

東京都桧原村で林業を営む田中林業を紹介している。田中林業は400年以上続く林業家で、丸太生産としての林業はもとより、森林空間や有用植物を活用した多角経営が特徴となっている。宿泊型のログハウスや都内のレストランへのピザ薪の供給のほか、近年では、クロモジツアーも行われている。クロモジツアーでは、参加者に林内を歩きながらクロモジを採取してもらい自然乾燥してクロモジ茶を作るというもので、人気イベントとなっている。その他に薬草、木の実のワークショップや親子の森歩きなどのイベントも開催されている。いわゆる伝統的林業にとどまることなく新たな取組へのチャレンジが報告されている。

住宅の温熱環境と木質材料の関わりについての調査研究（要旨）

一般財団法人林業経済研究所

〒113-0034 東京都文京区湯島1-12-6 高関ビル3A

【課題】世界保健機関（2018）が冬季室温18度以上を強く勧告しているように、住宅の温熱環境と健康の関わりは深い。山形県や鳥取県は、国基準を上回る省エネ健康住宅の認定制度を設けて、省エネ健康住宅の普及に努めている。本調査では、国や地方自治体が策定する住生活基本計画や省エネ住宅における木質材料の位置づけを明らかにすること、山形県と鳥取県の実態を明らかにすることなどを通して、最終的に住宅の温熱環境と木質材料の関連を考察することを目的とした。

【方法】調査は聞き取り調査、文献調査により実施した。聞き取り対象は山形県庁、鳥取県庁、木造住宅推進協議会等、設計・施工等の住宅関連事業者とした。このほか先行研究について文献調査、事業者から入手した木材明細書を用いた木材使用量に関する定量分析、温熱環境シミュレーションソフトを用いた木材使用シミュレーションを実施した。

【住生活基本計画における木質材料の位置づけ】住生活基本計画（全国計画）において木質材料は【住宅ストック・産業からの視点】にのみ含まれていた。具体的には、炭素貯蔵の手段として期待されているほか、技術継承や担い手育成に木質材料が貢献するという位置づけであった。都道府県においても、ごくわずかな例を除き、国の計画と同様であった。「木材は室内の快適性にプラスの効果」「危険なブロック塀を撤去し、木塀の設置を支援」「内装を木質化してシックハウスを軽減」のように居住者からの視点でも木質材料を位置づけているのは3県のみ（大阪府、鳥取県、熊本県）で非常にユニークであった。

【都道府県の「省エネ住宅」における木質材料の位置づけ】北海道、青森県、岩手県、山形県、東京都、新潟県、長野県、鳥取県が独自に省エネ住宅基準を制定していた。このうち省エネ住宅基準に木質材料が含まれているのは、乾燥材や集成材の利用を必須基準とした北海道、多面的機能発揮や環境負荷低減の側面から県産材利用を求める青森県、岩手県、長野県であった。山形県と鳥取県は住宅要件ではなく補助金支給要件に木材使用量が含まれていた。鳥取県における木造住宅支援制度の変遷から、近年になって寸法の精度や強度、乾燥といった部分での木質材料の高度化が求められていることが推察できた。

【山形県における聞き取り調査の結果】県民にとって分かりやすい省エネと健康を前面にした基準、支援制度を策定した。省エネや健康とは直接リンクしないため住宅要件に含まれていないが、予算獲得のし易さを考慮して補助要件に県産材利用が含まれていた。住宅関連事業者からは県産材の乾燥や寸法精度に対する厳しい意見が多く聞かれた。断熱性を高める付加断熱により木材の使用量は増えるが、熱伝導性が低い木材の特徴が活かされている訳ではなかった。県産材利用を促進するには木材需給双方が情報共有することが、省エネ健康住宅を促進するには住宅の本来の価値を見据えた評価制度を確立することが、それぞれ重要であると思われた。

【鳥取県における聞き取り調査の結果】健康省エネ住宅の基準策定は、居住者の健康や省エネを促進することを目的に、民間団体の呼びかけで始まった。認知度の高い既存制度に上乘せする形で支援制度を立ち上げたこと、知事の判断もあって通年補助が可能であることから健康省エネ住宅の普及率は高かった。中古住宅評価制度を確立すること、健康省エネ住宅の効果を体感する機会を増やすことが今後の課題であった。住宅関連事業者からは山形県同様に厳しい意見が聞かれた。しかし、素材に対する評価は良いうえに、木材供給側と情報共有を求める声があった。木質材料の蓄熱性、断熱性がもたらす効果への期待が大きかった。

【木拾い表の分析と温熱環境シミュレーション】4社6住宅の木拾い表から認証の有無により木材使用量が変わるとは結論づけられないものの、断熱性を高めるために付加断熱をすることによって、木材使用量が最大で1割程度増加することが確認できた。柱と梁桁について、グリーン材の使用が一切認められなかったことから、事業者は柱と梁桁の品質には特に配慮していることが推察された。柱や梁桁にも県産のKD材が使用されていた。新住協の住宅性能計算ソフト「QPEX

ver4.30」の初期状態を対照とし、30mm厚のスギを床板にした場合、15mm厚のスギ板を腰壁として新たに設置した場合、その双方を施工した場合の合計4通り試算した。双方を施工するとUA値が0.870から0.863に改善し、年間の冷暖房費を120,008円から1,313円節約できた。限定的ではあるものの、木質材料の持つ効果を定量的に把握できた。投資効果を高めるためには、熱伝導率の高い素材から木質材料に代替していくことが必要だと考えられた。

【まとめ】住生活基本計画において、木質材料は居住者の視点で位置づけられることはほぼなかった。これは、山形県、東京都、新潟県、鳥取県において木質材料に関する住宅要件が設定されていないこと、聞き取り調査や木拾い表分析から木質材料の断熱性の高さを活かした使用例が確認できなかったことなどと通底する。先行研究では、室温の日較差を解消する手段として蓄熱材料に着目し、住宅の熱容量を増加させることで灯油消費量を削減できることを明らかにしたシミュレーションや住宅の内装木材が厚いほど快適に感じる時間割合が増加することを明らかにしたシミュレーションなどがある。いずれもソフトによる試算結果であるので、木質材料と温熱環境に関わりについて、実測によるエビデンスをさらに収集していくことが求められる。その際、木質材料と人間の生理反応の関係を直接捉えようとする、侵襲や介入等の倫理的に配慮すべき問題があるために、木質材料と温熱環境の関わりへの把握に努めることも合理的である。室温を上げると起床後の血圧の上昇が緩和されることを明らかにした実験と室温21度の床暖房と室温25度の温風暖房の血圧に有意差がないことを明らかにした実験の二つの知見を併せて考えると、対流と放射の暖房方式の違いが人間の生理反応に影響していること、室温だけで人間の生理反応を捉えることは不十分であることがわかる。エビデンスを収集していくには、室温の他に室内の表面温度など様々な要素を加味することが求められる。

「自然保育者に求められるコンピテンシーに関する研究」報告書（要約版）

代表者：鶴見大学短期大学部 増田直広
〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見 2-1-3

1. 研究概要

1-1. 研究目的

自然保育者（自然保育指導者）に求められるコンピテンシー（資質・能力・あり方）を検討し、コンピテンシーに沿った自然保育者の養成体系を整理する。

1-2. 期待される成果

- (1) 自然保育者の養成体系が整理される
- (2) 各地の自然保育実践が促進される

1-3. 調査方法

- (1) 文献研究（2022年7月～2023年3月）
- (2) 現地調査（2022年7月～2023年3月）
- (3) 聞き取り調査（2022年7月～2023年3月）
- (4) 研究会開催（2023年3月、6月）
- (5) 関連学会等参加（8月・2023年2月・2023年6月）
- (6) イベント出展
- (7) まとめ

2. まとめ

2-1. 「自然保育者に求められるコンピテンシー」

上記調査等を踏まえて、「自然保育者に求められるコンピテンシー」を作成した。その際、ルーブリック評価を取り入れることにした。それは、本研究では自然保育者に求められるコンピテンシーを職位に紐づけられるものと捉えていないからである。つまり、園や団体における職務分掌ではなく、個人の資質能力やあり方としてコンピテンシーを捉えているのである。

コンピテンシーの項目を検討するに当たって、上記調査等を通して現場保育者の意見を参考とした。現場からは、子どもへの関わり方、地域との関わり方、保育者が地域の環境に関心を持つこと等が指摘され、それらをコンピテンシーの項目に設定することができた。

また、現行の幼稚園教育要領の前文において、幼稚園には幼児が持続可能な社会の担い手となるための基礎を培うことが求められることが明記された。これを受けて、保育に関する文献においては、領域「環境」を中心にESD（持続可能な開発のための教育）やSDGs（持続可能な開発目標）の記述が見られるようになっている。本研究でも自然保育を環境教育やESDの視点から捉えている。そのため、環境教育やESDに関する項目も設定した。

全体の構成としては、「保育者としての基本的なあり方」をユニバーサルコンピテンシーとし、全体のベースとした。その上に、3つの大項目「哲学・考え方」「自然保育の知識・技術」「自然保育の安全」を設定し、「哲学・考え方」には3つの小項目「自然保育の知識・技術」には5つの小項目、「自然保育の安全」には2つの小項目を設定した。熟達度は5段階としたが、聞き取り調査を踏まえて、6段階目の枠も設定した。

「自然保育者に求められるコンピテンシー」の裏面には、趣旨や対象者などを表記すると共にコンピテンシーを補完するための説明（指標）を記載した。

詳しくは添付資料①「自然保育者に求められるコンピテンシー」をご覧ください。

2.2. 自然保育者の養成体系の検討

上記調査等を踏まえて自然保育者の養成体系を検討したが、今回は養成体系の項目を挙げるまでとなった。自然保育者の養成には、個人としての自己研鑽と組織としての養成の2種があると考えられるが、今回は前者について検討した。

①「自然保育者に求められるコンピテンシー」を通じた現状の把握

本研究で作成した「自然保育者に求められるコンピテンシー」を通して、自身の現状を把握する。その際に、自己評価に加えて第三者に評価してもらうことによって、客観的に自信の現状を知ることができる。それぞれの評価を突合せながら現状を確認する過程が重要と考える。

②現状に即した養成計画の作成

①を通して把握した自身の熟達度（現状）を上げるためには、どのような学びが必要か検討する。その際に、①で協力を得た第三者や自然保育の研究者または実践者に参画してもらうことが望ましい。「自然保育者に求められるコンピテンシー」の項目のうちどれにフォーカスしていくかを決め、その熟達度をどの段階まで上げたいのかを検討し、期間や内容などを計画に落とし込む。

③講習とOJTの組合せ

一般的な保育者養成においても、授業と各種実習（教育実習や保育実習）によるカリキュラムが作られているように、自然保育者養成においても講習（座学）とOJT（実地研修）の組合せが必要と考える。講習受講先としては保育者養成校の公開講座や保育関係団体の講座が考えられる。項目によっては、環境教育や自然体験活動に関する講習に参加することも有効であろう。OJT先としては自然保育実践園や幼児を対象とした自然体験活動を行う環境教育関連団体や自然体験活動施設などが考えられる。

④協力者とのふりかえり（中間評価）

自身の学びを確認するために、①②で協力を得た第三者や自然保育の研究者または実践者と共にふりかえりを行う。その際に「自然保育者に求められるコンピテンシー」を活用することもできる。②で設定した期間に応じて、ふりかえりの回数や時期を設定する。

⑤養成計画に基づく総合評価

養成計画に基づく取組みや学びを確認するために、①②で協力を得た第三者や自然保育の研究者または実践者と共に総合評価を行う。その際に「自然保育者に求められるコンピテンシー」を通して現状を確認し、①との比較をする。さらに取組みを継続する場合や新たな項目に基づく自己研鑽をする場合は、再度養成計画を作成し、取組みを進めていく。

2.3. 今後の課題

「自然保育者に求められるコンピテンシー」は、調査や意見交換を経て見直しを重ねてきたものであるが、完成形ではない。添付資料③にある「自然保育者養成の現状と課題」研究会の登壇者からのフィードバックを踏まえて見直しをしていく。また、今後はコンピテンシーを自然保育関係者に活用してもらい、フィードバックを受けて改善していきたい。

自然保育者の養成体系の検討については、個人の自己研鑽の視点で行ったが、今回の調査を通して組織としてどのように自然保育者養成をしていくか課題としている園や団体が多いこともわかったので、その視点での養成体系の検討も必要であることを実感している。

今後は上記2点を課題として研究および実践を続けていきたい。

●はじめに

現在、日本各地で自然保育や森のようちえんなどの取組みが広がっています。その主体は、子どもの健やかな育ちと学びにとって自然とのふれあいが大切と考える認可園や認可外保育施設、保護者自主グループ、環境教育団体や施設、自然学校、青少年教育施設など様々です。

自然保育の実践が増えるということは、それだけ自然保育者（自然保育の指導者）が必要となります。自然保育の各主体ではそれぞれに指導者の学びの機会を設けており、自然保育の支援をする各地の自治体や森のようちえん全国ネットワーク連盟、自然保育を実践する自然学校などでも関連する研修やフォーラムなどを開催しています。また、「自然体験活動指導者」（NEAL リーダー）をはじめとする自然保育に有効とされる研修も行われています。

本研究では自然保育者養成の一助となるツールを作ることを目的として、「自然保育者に求められるコンピテンシー」の検討をしてきました。現時点のものとして公開をしますが、自然保育に関わる皆さんからのフィードバックを受けて、改良していきたいと考えています。率直なご意見・ご提案をお待ちしています。

●本コンピテンシーの趣旨

- 自然保育や幼児環境教育に関わる人が、自身の資質能力や実践の現状、課題に気づき、指導者としての成長やより良い実践のための材料を得るための助けとなること。
- 今後、自然保育や幼児環境教育を実践していきたいと思う人の参考となり、自然保育者となるための学びのための助けとなること。
- 本コンピテンシーを題材に、自然保育の関係者がより良い実践について話し合うきっかけとなること。

●本コンピテンシーの対象者

- 自然保育者（自然保育の指導者）
- 自然保育の支援者
- 自然保育に興味・関心を持つ人

●連絡先

本コンピテンシーへのご意見・ご提案は下記までご連絡ください。

令和4年度「緑と水の森林ファンド」調査研究事業
「自然保育者に求められるコンピテンシーに関する研究」
鶴見大学短期大学部保育科 増田直広
メールアドレス masuda-n@tsurumi-u.ac.jp

●参考文献

- 「保育者育成指標 1.0」2021（信州幼児教育支援センター）
- 「インタープリテーションに携わる人材の育成指標」2022（日本インタープリテーション協会）
- 「JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 2023 JOLA RUBRIC」2022（JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 運営委員会）
- 「幼児期における環境教育のためのチェックリスト」2016（日本環境教育学会）
- 「新たなナショナルスタンダード体験活動指導者養成カリキュラム」2016
（全国体験活動指導者認定委員会自然体験活動部会）

●コンピテンシーの項目と指標

①保育者としての基本的なあり方（ユニバーサル・コンピテンシー）

- 保育者としての基本的な知識や技術、姿勢を身に付けているか
- 保育者としての基本的なあり方に基づく保育を実践しているか
- 自己研鑽しようとしているか

②自然への興味・関心

- 自ら自然への興味・関心を持っているか
- 自然への興味・関心の重要性について言語化しているか
- 自然への興味・関心を持つ仲間や関係者を増やしているか

③自然保育、自然体験活動、環境教育

- 自然保育や自然体験活動、環境教育の基本を身に付けているか
- 保育における自然保育や自然体験活動、環境教育の視点を保育に活かしているか
- 自然保育、自然体験活動、環境教育を保育に取り入れる仲間や関係者を増やしているか

④環境観

- 「持続可能な社会につながる環境観」を理解しているか
- 「持続可能な社会につながる環境観」を保育に活かしているか
- 「持続可能な社会につながる環境観」を保育に取り入れる仲間や関係者を増やしているか

⑤地域資源との関わり

- 保育現場周辺の地域資源を把握しているか
- 地域資源とのつながりを大切にした保育を実践しているか
- 地域資源とのつながりを大切にした保育を実践する仲間や関係者を増やしているか

⑥生活技術

- 生活技術（食・火・刃物など）を身に付けているか
- 生活技術（食・火・刃物など）を活かした保育を実践しているか
- 生活技術（食・火・刃物など）を活かした保育を実践する仲間や関係者を増やしているか

⑦コミュニケーション

- コミュニケーション力やコーディネート力など人と関わる力を身に付けているか
- コミュニケーションを大切にした保育を実践しているか
- コミュニケーションを大切にした保育を実践する仲間や関係者を増やしているか

⑧自然保育の発信

- 自然保育の取組みをドキュメンテーションや通信を通して関係者に発信しているか
- 自然保育の意義を社会に発信しているか
- 自然保育の意義を社会に発信する仲間や関係者を増やしているか

⑨自然保育の計画と展開

- 地域資源とのつながりを大切にした自然保育を計画しているか
- 地域資源とのつながりを大切にした自然保育を展開しているか
- 地域資源とのつながりを大切にした自然保育を計画・展開する仲間や関係者を増やしているか

⑩安全教育（子どもが自ら安全行動をとれるようになる教育）

- 自然体験活動における安全教育の基本を身に付けているか
- 安全教育を踏まえて保育を実践しているか
- 安全教育を踏まえて保育を実践する仲間や関係者を増やしているか

⑪安全管理（保育者が子どもの安全を保障すること）

- 自然体験活動における安全管理の基本を身に付けているか
- 安全管理を踏まえて保育を管理しているか
- 安全管理を踏まえて保育を実践する仲間や関係者を増やしているか

自然保育者に求められるコンピテンシー Ver.1 (20230606現在)

哲学・考え方		自然保育の知識・技能			
	①自然への興味・関心	②自然保育、自然体験活動、環境教育	③環境観	④地域資源との関わり	⑤生活技術
目指す姿	自ら自然への興味・関心を持ち、子どもが自然への興味・関心を持つ保育実践をしようとする姿。	自然保育、自然体験活動、環境教育を活かした保育を実践しようとする姿	「持続可能な社会につながる環境観」を保育に活かそうとする姿	地域資源とのつながりを大切にして保育実践をしようとする姿	生活技術（食・火・刃物など）を活かした保育実践をしようとする姿
熟達度	6 必要となった時に熟達度6を設定する	必要となった時に熟達度6を設定する	必要となった時に熟達度6を設定する	必要となった時に熟達度6を設定する	必要となった時に熟達度6を設定する
5	保育現場周辺の興味ある自然について説明することができる。 保育者の自然への興味・関心の重要性について言語化でき、関係者への共有や指導ができる。 自身の現状を客観視できている。	自然保育や自然体験活動、環境教育を踏まえて保育実践ができる。 自然保育に関する考え方を言語化でき、関係者への共有や指導ができる。 自身の現状を客観視できている。	「持続可能な社会につながる環境観」に基づいて保育実践ができる。 「持続可能な社会につながる環境観」と保育のつながりについて言語化でき、関係者への共有や指導ができる。 自身の現状を客観視できている。	地域資源とのつながりを大切にした保育を実践できる。 保育と地域資源のつながりについて言語化でき、関係者への共有や指導ができる。 自身の現状を客観視できている。	生活技術（食・火・刃物など）を活かした保育実践ができる。 生活技術と保育のつながりを言語化でき、関係者への共有や指導ができる。 自身の現状を客観視できている。
4	保育現場周辺の興味ある自然について説明することができる。 保育者の自然への興味・関心の重要性について言語化でき、関係者への共有や指導ができる。	自然保育や自然体験活動、環境教育を踏まえて保育実践ができる。 自然保育に関する考え方を言語化でき、関係者への共有や指導ができる。	「持続可能な社会につながる環境観」に基づいて保育実践ができる。「持続可能な社会につながる環境観」と保育のつながりについて言語化でき、関係者への共有や指導ができる。	地域資源とのつながりを大切にした保育を実践できる。 保育と地域資源のつながりについて言語化でき、関係者への共有や指導ができる。	生活技術（食・火・刃物など）を活かした保育実践ができる。 生活技術と保育のつながりを言語化でき、関係者への共有や指導ができる。
3	保育現場周辺の興味ある自然について説明することができる。 保育者の自然への興味・関心の重要性について言語化できる。	自然保育や自然体験活動、環境教育を踏まえて保育実践ができる。 自然保育に関する考え方を言語化できる。	「持続可能な社会につながる環境観」に基づいて保育実践ができる。「持続可能な社会につながる環境観」と保育のつながりについて言語化できる。	地域資源とのつながりを大切にした保育を実践ができる。 保育と地域資源のつながりについて言語化できる。	生活技術（食・火・刃物など）を活かした保育実践ができる。 生活技術と保育のつながりを言語化できる。
2	保育現場周辺の興味ある自然について説明することができる。	自然保育や自然体験活動、環境教育を踏まえて保育実践ができる。	自身の保育観に基づいて保育実践ができる。	地域資源とのつながりを大切にした保育を実践ができる。自ら積極的に地域とつながる努力をしている。	生活技術（食・火・刃物など）を活かした保育実践ができる。
1	自然への興味・関心を持ち、日常的に自然体験をしている。	自然保育や自然体験活動、環境教育について体験したり学んだりしている。	自分なりの保育観を持っている。	保育における環境（資源）との関わり的重要性を説明できる。地域における保育の役割（地域の保護者や子育て家庭の支援）を説明できる。	保育における生活の重要性を説明できる。

保育者としての基本的なあり方（
保育者としてのあり方を常に見つめ直し

子ども主体の保育を大切にしている。／子どもを短期的な視点と長期的な視点で見つめている。／幼児期の終わりまでに育って欲
保育者の役割を理解した上で、子どもや保護者と

			自然保育の安全	
⑥コミュニケーション	⑦自然保育の発信	⑧自然保育の計画と展開	⑨安全教育（子どもが自ら安全行動をとれるようになる教育）	⑩安全管理（保育者が子どもの安全を保障すること）
コミュニケーションを大切にして保育実践をしようとする姿	自然保育の取組みを関係者と共有し、社会に発信しようとする姿	地域資源とのつながりを大切にした自然保育を計画し、展開しようとする姿	子どもが自ら安全行動をとれるような保育実践をしようとする姿	子どもが安心安全に活動できるような保育実践をしようとする姿
必要となった時に熟達度6を設定する	必要となった時に熟達度6を設定する	必要となった時に熟達度6を設定する	必要となった時に熟達度6を設定する	必要となった時に熟達度6を設定する
子どもや保護者、地域関係者と関わるためのコミュニケーション力やコーディネート力、人と関わる力を通して保育実践ができる。 自然保育におけるコミュニケーションの重要性を言語化でき、関係者への共有や指導ができる。 自身の現状を客観視できている。	自然保育の取組みをドキュメンテーションや通信を通して関係者に発信できる。 自然保育の発信の重要性を言語化でき、関係者への共有や指導ができる。 自身の現状を客観視できている。	子どもの姿や地域資源を踏まえて、自然保育に関する日の保育計画（日案）や週の保育計画（週案）、月、学期、年間の保育計画を作成でき、展開することができる。 保育計画や展開の要点を言語化でき、関係者への共有や指導ができる。 自身の現状を客観視できている。	自然体験活動における安全教育の基本を身に付けている。 安全教育を踏まえて保育実践ができています。 安全教育の重要性を言語化でき、関係者への共有や指導ができる。 自身の現状を客観視できている。	自然体験活動における安全管理の基本を身に付けている。 安全管理を踏まえて保育実践ができています。 安全管理の重要性を言語化でき、関係者への共有や指導ができる。 自身の現状を客観視できている。
子どもや保護者、地域関係者と関わるためのコミュニケーション力やコーディネート力、人と関わる力を通して保育実践ができる。 自然保育におけるコミュニケーションの重要性を言語化でき、関係者への共有や指導ができる。	自然保育の取組みをドキュメンテーションや通信を通して関係者に発信できる。 自然保育の発信の重要性を言語化でき、関係者への共有や指導ができる。	子どもの姿や地域資源を踏まえて、自然保育に関する日の保育計画（日案）や週の保育計画（週案）、月、学期、年間の保育計画を作成でき、展開することができる。 保育計画や展開の要点を言語化でき、関係者への共有や指導ができる。	自然体験活動における安全教育の基本を身に付けている。安全教育を踏まえて保育実践ができています。 安全教育の重要性を言語化でき、関係者への共有や指導ができる。	自然体験活動における安全管理の基本を身に付けている。 安全管理を踏まえて保育実践ができています。 安全管理の重要性を言語化でき、関係者への共有や指導ができる。
子どもや保護者、地域関係者と関わるためのコミュニケーション力やコーディネート力、人と関わる力を通して保育実践ができる。 自然保育におけるコミュニケーションの重要性を言語化できる。	自然保育の取組みをドキュメンテーションや通信を通して関係者に発信できる。 自然保育の発信の重要性を言語化できる。	子どもの姿や地域資源を踏まえて、自然保育に関する日の保育計画（日案）や週の保育計画（週案）、月、学期、年間の保育計画を作成でき、展開することができる。 保育計画や展開の要点を言語化できる。	自然体験活動における安全教育の基本を身に付けている。 安全教育を踏まえて保育実践ができています。安全教育の重要性を言語化できる。	自然体験活動における安全管理の基本を身に付けている。 安全管理を踏まえて保育実践ができています。 安全管理の重要性を言語化できる。
子どもや保護者、地域関係者と関わるためのコミュニケーション力やコーディネート力、人と関わる力を通して保育実践ができる。	自然保育の取組みをドキュメンテーションや通信を通して関係者に発信できる。	子どもの姿や地域資源を踏まえて、自然保育に関する日の保育計画（日案）や週の保育計画（週案）、月、学期、年間の保育計画を作成でき、展開することができる。	自然体験活動における安全教育の基本を身に付けている。 安全教育を踏まえて保育実践ができています。	自然体験活動における安全管理の基本を身に付けている。 安全管理を踏まえて保育実践ができています。
保育者に求められる子どもや保護者、地域関係者と関わるためのコミュニケーション力やコーディネート力、人と関わる力を学んでいる。	自身の保育観や保育で大切にしていることを周囲の人々に伝えている。	保育の計画や展開について基本的な考え方や作成上の基本事項、作成上の留意事項を学んでいる。	保育における安全教育の基本を学んでいる。	保育における安全管理の基本を学んでいる。

ユニバーサル・コンピテンシー）
、子どもを大切にした保育実践をする姿
しい姿を理解している。／保育のねらいと内容を理解している。／常に関係者と保育に関してコミュニケーションをしている。／
関わっている。／常に自己研鑽しようとしている。

認知症予防に向けた森林活用

一般社団法人 日本認知症予防学会

〒 805-0033 福岡県北九州市八幡東区山路松尾町 13-27

1. 活動の概要

「認知症施策推進大綱」等に位置付けられている森林空間などを活用した「認知症予防」を促進するため、その理論・方法論等を整理する研究会やシンポジウム等を開催する。

2. 活動の成果

ZOOMでのオンライン配信にて研究会を開催し、その後参加者へアンケートを行った。そのアンケート調査結果として、森林活用は十分に行き渡っていないので、森林環境利用を明確にし、林野庁へ今後の森林活用での対策を訴えていきたい。シンポジウムの開催により将来の研究の方向が見え、「認知症予防に向けた森林活用」の具体化を3年間の活動期間として、森林活用効果の確認を行う方向とする。また、シンポジウムで発表した内容をメタ解析して論文化し、世界に「認知症予防に向けた森林活用」をアピールできるようにしたい。

3. 参加者の声

森林活用を精神科デイケアでのプログラム行うことでの診療報酬の増加と地域貢献活動につながるのではないかと感じています。

自然の中で季節を感じる森林や植物との触れ合いは患者さんのメンタルヘルス（認知症予防も含め）にとっても効果があると感じています。

など、前向きな感想が聞けた。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容		令和4年 9月25日 シンポジウム	令和5年 4月21日 研究会	令和5年 5月26日 研究会	令和5年 9月17日 研究会	4回	
参加者数	県内	25人	3人	1人	20人	49人	
	県外	96人	37人	46人	57人	236人	
	計	121人	40人	47人	77人	285人	
実施場所		福岡県 福岡市	オンライン 配信	オンライン 配信	新潟県新潟市		

山の神祭事の継承と現代的意義に関する調査研究（要旨）

鹿児島大学 農学部 奥山 洋一郎

〒890-0064 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-24

1. 研究の目的

本研究では、林業経営体において実施されている「山の神」祭事に着目して、地域社会と林業との関わりを問い直すことを目的とする。林業経営体による「山の神」祭事は北海道から九州・沖縄まで全国各地で実施されているが、本研究は「山の神」祭事の地域社会との関係（あるいは分断）を実態調査から明らかにする。民俗学者の山田慎也は地域で伝承されてきた諸儀礼や習俗等について、近代化の過程で大きく変容して「地域のコンテクストからはずれ、均質化する傾向がみられる」としている。これが「山の神」祭事においてはどのように発現しているのか。林業・木材産業の分野では、農家林家による小規模生産から、雇用労働者による専門林業経営体へと担い手が変化してきている。この産業構造の変化を近代化とするならば、林業経営体の中でどの程度、地域独自の祭事が継承されているだろうか。本研究の目指すところは、林業の近代産業化の進展と地域社会における位置づけの変化を「山の神」祭事という観点から検証することである。現在に至るまで行われている「山の神」であるが、担い手の属性の変化に伴い様式や目的にも変化が起きていると考えられる。そこで本研究では、仕事と生活が密接であった山村民らの祭祀を『生業的「山の神」』、組織化された事業体で執り行われている祭祀を『職能的「山の神」』と定義し、職能的「山の神」の現状を定量的に明らかにするとともに、両者の相違点について定性的な考察をおこなうことを目的とする。

2. 調査方法

調査対象は、全国に設置されている森林組合・森林組合連合会の計 654 組合・連合会（以下、組合）とした。調査方法は、電話による聞き取り調査とした。回答方法は電話による聞き取りがほとんどであり、一部組合からは FAX やメールといった文書で回答を得た。調査内容は、「山の神」の有無、呼称、開催時期、始めた時期、当日の勤務状況、神饌、参加規模、禁忌、行う目的、ご神体、山の神の名前と性別、山の神の遣いについてである。また、林業経営体を訪問して実際の祭祀の様子を記録した。

3. 調査結果

「山の神」の開催割合は 4 割ほどであり、中部地方で最も高く、北海道地方で最も低い結果となった。「山の神」の呼称について分類すると、表-2 のとおりであった。最も回答数の多かった呼称は【山の神】で、149 組合で用いられていた。次に多かった呼称は【安全祈願祭】であり、31 組合で用いられていた。この呼称を用いる組合の多くで安全研修など、業務の安全向上のための啓発行事を併せて行っていた。「山の神」の開催時期について、最も多く開催されていたのは「1 月」で 138 組合であった。次点では「12 月」で 87 組合であった。地方ごとの開催月の特徴についてみると、西日本地域と関東地方では「1 月」開催の組合が多く、北海道、東北地方、中部地方では「12 月」開催の組合が多かった。「山の神」を始めた時期については、多くの組合から「不明だがかなり前」という回答を得た。合併により「山の神」を廃止する組合がある一方、少数ではあるが組合長の意向などで「山の神」を始めた組合も存在した。「安全祈願」や「心構えとして」といった理由で始めていることが多かった。

4. 考察と結論

本調査を通して、林業経営体で実施されている「山の神」祭祀は地域で伝統的に行われてきた「山の神」祭祀と共通する部分もあれば、独自の変容を遂げた要素が混在していた。そこで、前者

を生業的「山の神」、後者を職能的「山の神」と定義したい。顕著な特徴がみられたのは、「山の神」の開催時期であった。地方によって開催月が異なっていたほか、集中的に分布していることが明らかになった。先行研究のデータとの比較から、生業的「山の神」の開催時期と類似しており、各地方の様式と同一であることは間違いない。「山の神」の呼称についても、同じく地域との類似が確認できるが、職能的「山の神」では「安全祈願祭」という呼称を確認することができた。労働安全意識の向上といった部分が祭祀と同等もしくはそれ以上に重要視されている場合が多かった。

禁忌などについては、組合の方針によって対応が様々で、地理的な特徴よりも組合毎の事情が大きく表れた設問であった。遵守する組合がある一方、施業と禁忌の折衷を図る組合もみられた。生業的「山の神」では絶対であった禁忌であるが、組織としての生産活動を優先せざるをえない職能的「山の神」では禁忌と現実業務とのすり合わせともいえる回答を確認できた。山の神の特徴については、山の神像の曖昧な組合が多かった。組合や地域に伝わる山の神の特徴と、祭祀の際に参拝（もしくは招く）寺社にて祀られている山の神の特徴が混同した結果であると考えられる。

生業的「山の神」と職能的「山の神」とでは、祭行事の呼称や日取りといった祭祀の骨子となるような部分で多くの類似点を確認できた。一方で、禁忌や山の神の特徴といった、本来祭祀にあたっての重要事項については組合が裁量するようになったり対象が曖昧になったりといった違いが表れた。職能的「山の神」では生業的「山の神」で重要視された山の支配者、恵みの配分者としての山の神の存在が山村民らより希薄であるといえ、安全などに関する部分を重要視しているように思われる。職能的「山の神」は、山の神という存在そのものはすでに信仰しておらず、施業の安全や不慮の事故防止といった人命・安全の行事へとその本質を変えてきていることが示唆された。

活動基盤整備

森でコミュニケーションしよう「里山再生プロジェクト」

学校法人尚綱学院

〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4丁目10番1号

1. 活動の概要

学校法人尚綱学院はキャンパス周囲の山林を地域社会全員の公共財とし、約20万㎡の森を5区画（A～Eゾーン）に分け、5年周期で恒常的に整備し、「尚綱の森」として再生させるプロジェクトを2016年4月に立ち上げました。里山化し、地域社会の人々が日常的にそこに立ち入ることによって、自然を身体と心で体験しながら「自然との共生」の素晴らしさを感じ、地域社会が豊かなものになることを目的としています。

現在、「森でコミュニケーションしよう」をコンセプトに、NPOや市民ボランティア、地域住民、学生・生徒や教職員など、参加者のみなさまと活動しています。参加者でアイデアや意見を話し合い、森づくりを通じた交流・コミュニケーションを大事にしながら、毎月第2土曜日の定例活動としてA～Eゾーンの森林整備、広場づくりなどを行っています。

2. 活動の成果

今回の助成金では、主に森林の持続可能な管理及び維持の実施に向けた森林整備費などで活用させていただきました。森林整備事業では、引き続きの新型コロナウイルスの拡大防止対策等により、活動時間の短縮を余儀なくされ、一部作業の積み残しが生じましたが、万全なコロナ感染症対策を行いながら年間計15回の活動を行い、計169名の参加者がありました。森林視察事業については、外部への訪問が難しい状況だったこともあり、やむを得ず中止としましたが、アドバイザーによる中高生へのSDGs研修会を実施し、次世代による里山への関わりや活動を通して特にSDGsの目標15「陸の豊かさを守ろう」「つくる責任つかう責任」への理解を深め、学ぶ場を提供しました。また、担当者が里山を持つ大学との情報交換を行うなど、今後の視察事業に向けての準備期間となりました。さらに、5ヵ年計画策定については、昨年を引き続き、整備事業の中でA・Bゾーンを中心に「多様性の森づくり」として実施しているバリアフリーの道づくりの活動等を通し、学びの場・憩いの場などゾーニングを行う共に、今後の5ヵ年計画策定の検討を行うとともに、幼児から小中高生、学生、地域住民対象とした学習会等のイベントを実施し、計148名の参加があり、里山で多世代が森林づくりやSDGsについて学び、交流する機会を提供しました。（整備活動・イベント参加者総計：317名）

<これからの取り組み>

2023年度は、引き続き、地域の方々をより多く巻き込む形で事業を展開し、市民の皆さんに大いに力を発揮していただきながら、特に次世代の育成についての取り組みをこれまで以上に重視し、「多様な主体が参画する森づくり」を実践していきます。また、これからの「尚綱の森」の将来像をステークホルダーとともに考え、新しい5ヵ年計画をスタートし、持続可能な活動を目指します。

3. 参加者の声

- ・身近にこんなに自然を体験できる場所があると知って驚いた。
- ・子ども（家族）と参加することができ、楽しく貴重な体験をすることができた。
- ・過去に整備した場所について、久しぶりに視察すると改めて整備が必要となっている。未実施の部分も含めて「尚綱里山エリア」全体の整備計画の策定が必要と感じている。
- ・今回はイベント参加者として里山に来たが、自分も里山で子どもたちと関わりたい（教えたい）。
- ・チップロードは一応完成しているが、車いす利用者にとってはまだまだ安全とは言えない。

実績報告とりまとめ表 (2022年7月～2023年6月)

実施時期	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計	
事業内容	整備活動①	15	—	12	7	14	19	—	—	—	9	11	14	101人
	整備活動②	23	—	10	—	11	—	—	—	11	8	5	—	68人
	勉強会 (イベント) 報告会	—	43	—	72	—	—	—	—	—	—	17	3	135人
	体験会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	13	—	—	13人
合計													317人	
実施場所	宮城県名取市ゆりが丘4丁目10番1号													

ヤマアジサイの森の調査隊と山のボランティア育成講座

倉渕ヤマアジサイの会

〒379-0886 群馬県高崎市下大島町 36-2

1. 活動の概要

ヤマアジサイの森に親しみをもつことによって、森に興味を感じ、森の保護に参加するボランティアの育成を目指して企画。森までは遠いので、バスを借りて高崎市内から参加者を運ぶ。参加者の1/3がバスで参加。最初に、「森と人との関係について」の講演。他、「アジサイについて」「森と環境」について等

それから、森に移動してアジサイや山野草などを見学しながら、鎌や剪定ばさみにより簡単な作業体験をしてもらった。森には、アジサイが8種類自生していることを知り、比較してみた。そのうち、タマアジサイが少し残って咲いていたので見られてよかったと喜ばれた。

今回は、コロナ感染でスタッフ、参加者からキャンセルが8人だったが、参加スタッフ、参加者の協力で無事企画を終了することができた。皆さんに感謝したい。

2. 活動の成果

今回は、大学生や40代以下の方が参加者の半数だった。森に興味を感じた人が多かった。講師の石坂氏が森について興味を持てるようにと森の模型を作って森が機能的にできていることをわかりやすく指導してくれた。作業の際には鎌や剪定ばさみを積極的に持ち、森のボランティアは気軽にできることを感じてくれた。企画を続け、参加者を増やす中でボランティアに入る人もできた。若い人に活動が浸透していくのを感じている。

3. 参加者の声

- ◆地元で長く住んでいるが、この森にアジサイがたくさんあることを知らなかった。花の咲く時期に来たいと思う。
- ◆森のボランティアの体験をする機会がなかったので体験できてよかった。
- ◆森ははまゆう山荘に隣接しているので移動時間は少ないが、作業時間が短いのももう少し時間があってもよかった。
- ◆森に来られて、楽しい体験ができてよかった。(留学生)

実績報告とりまとめ表

実施時期		9月10日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森と人との関係（講演） 森の調査と見学作業体験			
参加者数	県内	40人	人	40人	
	県外	人	人	人	
	計	人	人	人	
実施場所		群馬県 高崎市 倉渕町			

大学生を対象とした森林環境教育プログラム

特定非営利活動法人 Peace Field Japan

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-40 豊明ビル301

1. 活動の概要

10月29-30日に、山梨県小菅村において、大学生、留学生が森林保全活動体験を通して森林の大切さを学び、中山間地の地域社会の生活や文化、直面している課題にふれ、自らの行動につながる環境教育プログラムを実施した。

1日目は、森林のサイクル、里山地域の価値や課題について学ぶ里山講座を行った。森に支えられてきた里山地域の暮らし、文化、そして抱える課題と課題解決への取り組みについて、プログラムの基礎となる知識を学んだ。次に、村民の案内で集落を歩き、森や自然と密接な暮らしの様子、森の荒廃や獣害などの課題にふれ、そばかりと脱穀も体験した。郷土料理作り体験では、ほうとうを打ち、堆肥で育てた採りたての野菜やきのこ、手作り味噌と一緒に料理し、里山の恵みを感じた。

2日目は、森の枝打ち作業と間伐を行い、森のサイクルと森林管理の必要性を学ぶと同時に、その大変さを実感した。講師から、森の持ち主が高齢になる中で後継者を見つけることに頭を痛めている現状についても話してもらい、森を維持していくことの難しさを実感すると同時に自分たちの問題であるとの気づきもあった。また、間伐材を使って伝統の箸作りを体験し、木を利用する文化、手仕事の技にもふれた。道の駅を視察、木を活用する特産品開発の様子や、村の取り組みのひとつであるタイニーハウスも見学した。最後のまとめでは、自分にとっての里山の森の意味をテーマに意見や感想を共有した。

2. 活動の成果

若者のSDGsへの意識の高まりもあり、参加者全員が、設定したテーマに高い関心を有し、積極的に体験活動に参加していた。また、留学生は、環境マネージメントや農業開発を専攻する大学院生が多く、日本での森林管理や農村集落のあり方などを学びたいという動機で参加していた。逆に、彼らの出身国の森林政策や持続可能な農業の取り組みなどについても共有してもらい、日本の大学生も、多角的な視点で考えることができた。

体験活動の基礎となる里山講座を、参加者のニーズに合わせて実施し、各体験活動での気づきをそれぞれが体系化することができた。村民とふれあいながら体験することによって、森や自然と共にある暮らし、関係性、恵みを得ているからこそ感謝し守ろうとする精神、育まれ受け継がれてきた文化や技にふれ、より深い学びを得ることができた。

自然に囲まれ、人々があたたかく、食が豊かな里山は、外から訪れた者を楽しませてくれるが、暮らしの拠り所である里山の森が、社会状況の変化の中で大きな課題に直面していること、都会の暮らしと密接に関わっていることを改めて認識できた。実際に管理作業を体験してその大変さを実感し、森の後継者問題の深刻な現状を、講師から生の声として聞くことができ、森林の問題を自分のこと化できたようだ。まとめの振り返りでも、里山や森林の意味を自分なりにとらえ、課題解決への提案も出された。事後のアンケートでは、全員が、里山の森林に対する理解がとて深まったとしている。またさらに森林管理作業を体験したいという声もあり、森林や里山への関心を高めることができた。

コロナの状況が落ち着いてきたこともあり、大学の国際センター、ボランティアセンター、教員を通して告知することができたが、各大学との連携も再構築することができ、次回への期待も寄せられている。

3. 参加者の声

- ・日本での森林管理の現場を体験することができて、とても有益だった。森や里山は、人間が必要とするものを与えてくれるもので、森林を管理することが必要だとわかった。
- ・森のサイクルはとても長く、世代をまたぐもの。そのスケールの大きさに感動した。
- ・小菅村の人たちは、東京都民に水を供給するために、森林保全に力をいれていた。参加しなければ、自分が普段飲んでいる水を守っている人たちがいることに気づけなかった。
- ・過疎高齢化で、森林の引き継ぎ手がないという現実を知った。同時に、小菅村の人たちの問題だけではなく、そこからの水を飲んでいる自分たちの問題だと思った。
- ・里山の森を取り巻く問題は、森の経済的価値の低下が一因だと知った。日本の木をもっと活用しないといけないと思った。
- ・初めて森を管理する作業を体験した。わずかな範囲だったのにも関わらず、とても疲れたが、きれいな森にすることに貢献できてうれしかった。森を管理することの大変さを実感した。
- ・地域で受け継がれてきた文化や伝統が引き継がれていくことが、里山や森が保たれていくことになると気づいた。
- ・森や里山を維持していきたいと強く思った。今後もこのような体験活動に参加して、もっと森のことについて知りたい。
- ・里山地域は、人間と自然の調和する相互関係があり、平和的な共存関係が成り立っている。小菅村の人たちは、森や文化を次の世代に引き継ごうと、過去と未来の橋渡しをしている。
- ・里山は自然と人間をつなぐ場所。その里山が崩壊すれば、自然を守れなくなる。小菅村の人口は660人しかいないが、みなさんが、里山の森を守ることが大事だと理解し、取り組んでいることがすごいと思った。
- ・その土地の環境があるからこそその伝統文化、食があることを実感した。
- ・今回郷土料理のほうとうを作る体験をしたが、ほうとうは、里山そのものだった。自然、文化、伝統、愛が一皿に詰まっている。手間暇かけて育てられた野菜、手作りの味噌は、自然が与えてくれる恵みで、一つに合わさり食べる人に幸せと栄養をもたらし、あたたかいコミュニティそのもの。最後の一滴まで汁をいただき、水を東京に供給している小菅村そのものだった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		10月29日	10月30日	計	備考
事業量 又は 事業内容		・里山講座 ・集落オリエンテーリング ・郷土料理作り体験	・森林保全活動 ・間伐材を使った箸作り体験 ・道の駅視察 ・まとめワークショップ		
参加者数	県内	人	人	人	
	県外	25人	25人	人	
	計	25人	25人	人	
実施場所		山梨県小菅村			

子ども樹木博士認定活動の活動支援の充実とネットワークの強化による 森林環境教育の推進実施

子ども樹木博士認定活動推進協議会

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル

(一社) 全国森林レクリエーション協会内

1. 活動の概要

子ども樹木博士認定活動を通じて森林環境教育の普及を図るため、本活動の実施状況や実施団体のデータの取りまとめ、活動の進め等の資料の提供、機関誌の発行・配布、ホームページの更新等を行った。

2. 活動の成果

(1) 子ども樹木博士認定活動の実施状況

実施団体からの報告から、延べの実施回数・参加者数は14回・約3.1百人、地域ごとでは9都道府県、11団体による実施となっている。

新型コロナウイルス感染症のため、子ども樹木博士認定活動の計画が引き続き少なく、子ども樹木博士認定活動を実施するには厳しい状況が継続し、当協議会が把握できた実施状況は少数に止まった。

(2) 子ども樹木博士認定活動の実施団体

平成12年度以降に実施報告のあった団体等は、累計で45都道府県・345団体となっている。

(3) 認定証等の配布・子ども樹木博士認定活動の開催案内等

認定証や樹木ガイド、その他の参考資料を配付するとともに、子ども樹木博士認定活動の開催の問い合わせに対しイベントの紹介等を行った。(認定証の配布:430枚(前年度478枚)、樹木ガイドの配布:157冊(前年度10冊))

新型コロナウイルス感染症のため、子ども樹木博士認定活動の開催が少数であったことから、認定証の配布は少数となった。

(4) 機関誌の発行・配布、ホームページの充実等

機関誌「子ども樹木博士ニュース」を年4回(9/1・12/1・3/1・6/1)発行(1回当たり約850～900部)し、会員や実施団体、都道府県、森林管理局・署、関係団体等に配布するとともに、ホームページの更新等を行った。

(5) 新たな実施団体の掘り起こし

ホームページや情報誌「子ども樹木博士ニュース」などを通じて照会のあった団体や資料請求のあった団体等に対して、冊子「認定活動の進め方」、パンフレット「子ども樹木博士のすすめ」などを配布し、実施団体の拡大に努めた。

安全で楽しい森林の保全・利用を指導できるリーダー養成講座

モリダス

〒194-0211 東京都町田市相原町 930-2

1. 活動の概要

安全で楽しい森林づくり活動を推進するためには、現場で小グループを率いることができるリーダーの養成が必要と考え、これまで3年間にわたり講座を実施してきた結果、今年度は研修プログラムをほぼ体系化できた。step1で「手道具（鋸・鉋・鎌・鋏）の扱い方」、step2で「ロープワークと牽引システム」「折れ曲り線とツルづくり（受け口・追い口）」、step3で「手道具とロープによる安全な伐木」を、のべ10日間をかけて段階的にレベルアップを図るという内容である。また、安全管理に関しては林業を仕事にしている人も森林ボランティアも変わりがないので、安全を最優先で活動を進めるべきであるという考えを広く定着させるために、林業のプロを相手に技術指導している講師を招いて、講演会「森林ボランティアの安全管理は甘すぎないか？」を開催した。さらに、森林ボランティアの安全管理に関わっている3団体を招いたフォーラム「現場の声をもとの考える里山・森林ボランティアの安全管理」も好評で、首都圏内の団体ネットワークの強化にも役立った。

一方、現場リーダーの養成には、安全に楽しく作業を進める技術のほかに、生物多様性の視点も必要である。そこで、座学と実習で学ぶ1日研修「生物多様性を豊かにする里山づくり」を開催したところ、定員を超える参加者を集めることができたほか、当日の研修の様子をもとに短い動画に編集してネット上にアップし、オンラインでも学べるように工夫した。

2. 活動の成果

手道具とロープによる森林づくりを体系的に学べるレベルアップ講座を実施して、安全で楽しい森林づくりを進める現場リーダーを養成したほか、講演会を通して森林づくりには安全が何よりも優先されるべきことも普及できた。また、里山づくりに生物多様性の視点が必要であることを、研修を通して発信したほか、動画を制作してオンラインでも学べるようにした。さらに、安全管理について現場の声を通して考えるフォーラムを開催し、首都圏の団体ネットワークを強化できた。

3. 参加者の声

「安全管理、リスク管理の重要性、危機感が伝わる事例を沢山教えて頂き、参加してよかったです。」
「効率や利益を求めないボランティアだからこそ、安全最優先で活動をしたいと改めて思いました。」

「合意形成が大事で、安全に関する事項については、会として最低限のルールを定める必要があるかもしれないと思いました。」

「森林ボランティア団体向け安全な作業のためのルール作りのようなワークショップができれば面白いかなと思いました。」

実績報告とりまとめ表

実施時期	事業内容	参加者数	実施場所
9/10-11	レベルアップ研修 Step1 「手道具の扱い方」	(6/1) 7	横浜市
11/3, 11/19, 12/17	レベルアップ研修 Step2a 「ロープワークと牽引システム」	(4/0) 4	〃
2/25, 3/4, 4/9	レベルアップ研修 Step2b 「折れ曲り線とツルづくり」	(5/0) 5	〃
10/30, 12/17, 12/18	レベルアップ研修 Step3 「手道具とロープによる安全な伐木」	(3/2) 5	〃
3/21	講演会 「森林ボランティアの安全管理は甘すぎないか？」	(37/12) 49	〃
6/3	研修 「生物多様性を豊かにする里山づくり」	(9/6) 15	多摩市
6/16, 6/28	「現場の声をもとに考える里山・森林ボランティアの安全管理」	(不明/不明) 51	渋谷区
計		(神奈川県 内 64/ 県 外 21/ 不明 51)	136

森のきほんを学ぶ講座

のいちご会

〒391-0211 茅野市湖東 3675

1. 活動の概要

森のようちえんに興味のある地域住民や保護者が、その意義を理解し自然の中で安全に楽しく子どもの活動をサポートできることを目的とし、講座等開催する。

①「森で生活する」

水や火のないフィールドを設定し「災害シミュレーションキャンプ」講座を実施した。

②「森から学ぶ」

コロナ禍で、行動や人との接触が制限がある中でこそ、悠然とした森を歩きながら発見する「森あるき」として講座実施した。マスクを外して深呼吸をしたり、五感を研ぎ澄まされる体験をしたりした。

③「森で遊ぶ」

森にあるものを活用して遊ぶにはアイデアが必要である。そんなアイデアを得るための基本的な関わり方を学ぶことで、森での遊びは充実したものとなる。そこで、「森のアクティビティ」として講座を計画し、焚き火パンや、森カフェで、さらに体験的に森を活用した時間を過ごした。

2. 活動の成果

- ・コロナ禍での生活の中で、心身ともに疲弊しがちな時期であったため、身近な自然にでかけることだけでも、メンタルヘルスにつながる時間になっていた。講座を通して、自然と関わることで育まれる子どもの様子、自然に感謝する気持ちを育むだけでなく、自然の営みやつながりの上に自分たちの命もあるということを学び、今後の指針とすることができた。
- ・森を歩きながら、小枝を拾い、簡易的な焚き火台で煮炊きを行った。小枝で火が焚け、食事が作れるという体験は、災害時にも生かせる森林資源の活用を学ぶ場になった。

3. 参加者の声

- ・森カフェで、パンを焼くという楽しみに娘も大喜びでした。
- ・子どもたちの通う学校では、黙食がまだ続いており、親としてのびのびさせてあげたいと心配に思っている中での講座参加でした。生き物としての生きる力が、自分たちにも備わっていることを思い出したような一日でした。普段の暮らしのなかで、少しでも森に足を運びたいなと思っています。
- ・日本各地で、頻繁に地震、大規模自然災害が起こっている。都市での洪水は、もはや雨が降ると怒る当たり前のようになってはいないだろうか。根本原因を、解決していかなければずっと不安は続く。
- ・自分たちの住む場所が、昔は湖だったと知り驚いた。移住してきて間もないが身近な環境にもっと関心をもちたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		7月16日	9月3日	9月24日	10月15日
事業量 又は 事業内容		森のきほんをまなぶ講座 森から学ぶ	森のきほんをまなぶ講座 森から学ぶ	森のきほんをまなぶ講座 森であそぶ	森のきほんをまなぶ講座 森からまなぶ
参加者数	県内	6人	11人	6人	6人
	県外	1人	0人	1人	1人
	計	7人	11人	7人	7人
実施場所		長野県茅野市または原村			

実施時期		11月5日	11月26日	1月16日	2月25日
事業量 又は 事業内容		森の基本をまなぶ講座 森であそぶ	森のきほんをまなぶ講座 森であそぶ	森のきほんをまなぶ講座 森からまなぶ	森のきほんをまなぶ講座 森であそぶ
参加者数	県内	6人	8人	6人	6人
	県外	1人	0人	1人	1人
	計	7人	8人	7人	7人
実施場所		長野県茅野市または原村			

実施時期		3月4日	3月12日	3月25日	計
事業量 又は 事業内容		森で生活する 災害シミュレーションキャンプ	森で生活する 災害シミュレーションキャンプ	森で生活する 災害シミュレーションキャンプ	
参加者数	県内	13人	12人	9人	89人
	県外	0人	0人	0人	6人
	計	13人	12人	9人	95人
実施場所		長野県茅野市または原村			

森のようちえん・プレーパークの活動サポート事業

ぎふ森 遊びと育ちネットワーク

〒501-0512 岐阜県揖斐郡大野町上秋 946-10

1. 活動の概要

県内の子どもの自然体験活動に携わる実践者が、強みを活かして学び合い、活動を始めた人やこれから活動を始めたい人たちをサポートすることで、森のようちえん・プレーパークの担い手を増やすことを目的とする。

2. 活動の成果

担い手養成講座では、自然の中で大人も子どもも遊ぶことを改めて考える機会を作ることができました。他の活動団体のフィールドを見学したり、木読講座を開催したり、実践的な学びの機会を作ることができました。

また、自然体験活動を行いたい及安全面等に不安がある団体に対して、出張相談会を開催することで、これから活動を始めたい団体をサポートしました。相談会の後には、実際に活動を始める団体、より活動が充実した団体があり、実りある相談会となりました。

県内の活動団体を紹介するマップを作成することで、活動の周知をしました。

3. 参加者の声

プレーパークをやる意義、子ども達を取り巻く環境変化を聞き、継続して取り組んでいくことのモチベーションとなりました。

人も森もニコニコになる前段として、森に関わる人と人がニコニコになれる関係性を築いていきたいと思いました。

実績報告とりまとめ表

実施時期	8月 28日	10月 25日	11月 6日	2月 27日	3月 2日	3月 19日	5月 13日	5月 13日	5月 20日	計	
事業量 又は 事業内容	担い手 養成 講座	相談会	担い手 養成 講座	相談会	担い手 養成 講座	相談会	担い手 養成 講座	相談会	担い手 養成 講座		
参加者数	県内	26	2	22	2	12	0	45	5	24	142
	県外	3	0	0	0	0	4	0	0	3	6
	計	29	2	22	2	12	4	45	5	27	148
実施場所	岐阜県 中津川市	岐阜市	中津川市	中津川市	中津川市	大垣市	美濃加 茂市	美濃加 茂市	美濃加 茂市		

陀羅尼助（だらにすけ）の郷で森林づくり in 天川村洞川 part3

奈良県森林ボランティア連絡協議会

〒634-0033 奈良県橿原市城殿町459番地

公益財団法人奈良県緑化推進協会内

1. 活動の概要

県内各地等で活動する森林ボランティア団体のリーダー養成・ネットワーク構築や、森林づくり活動を通じた農山村と都市住民との交流のために、奈良県天川村洞川温泉周辺にて、下記事業を実施する。

- ・令和3年3月及び11月に植樹したキハダの育林のため、下草刈り及び生育状況調査を行う。
- ・天川村バイオマス利用促進事業を視察、作業体験（伐採から薪利用まで）を行う。
- ・チェーンソーメンテナンス研修を行う。
- ・人工林の伐採を行い、伐倒技術（安全な伐倒手順）等を学ぶ。
- ・奈良県が制定した森林条例を理解するため、県職員の講演を実施する。

2. 活動の成果

- ・植樹したキハダを育林のため下草刈りを実施。生育状況調査は食害対策用柵の効果で鹿の食害もなく、また、樹により成長の差はあるが、全て枯れることなく生育していることを確認した。
- ・天川村バイオマス利用促進事業を視察・体験を実施。薪ボイラー及び生産供給施設を視察し、薪の玉切りを体験した。
- ・チェーンソーメンテナンス講習会を実施。
- ・人工林（桧林）で間伐、枝払い、玉切り、搬出までの作業を行いスキルアップが図れた。
- ・奈良県森林条例を学ぶことは、森林ボランティアとして森林保全を行う規範となる。
- ・森づくりを通じて森林ボランティア団体のリーダー養成とネットワーク造り、農山村と都市住民との交流が出来た。

3. 参加者の声

- ・放置人工林の施業を促進する天川村のシステムを学べた。
- ・チェーンソーで桧の伐採した時の迫力に感動した。また、安全な伐倒を学べた。
- ・実際の森林での作業は、傾斜や足場の悪さ等か、非常に疲れた。森林作業の大変さが解かった。
- ・間伐した原木が現地に放置されていることを聴き、利活用する方法を考えたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期		令和4年11月8日	令和5年3月18日	3月19日	合計
事業量 又は 事業内容		・令和3年3月及び11月植樹したキハダ林 他の下草刈り 約1000㎡	・天川村バイオマス供給事業視察 ・チェーンソー講習会 ・洞川天然記念物指定地自然観察	・桧林伐採、玉切、搬出桧21本約5㎡ ・キハダ生育状況確認 ・講演1話	
参加者数	県内	5人	21人	25人	51人
	県外	1人	3人	3人	7人
	計	6人	24人	28人	58人
実施場所	奈良県吉野郡天川村				

里山・自然体験リーダー・インストラクター人材育成@東広島

森林ボランティア団体もりゆう

〒739-0144 広島県東広島市八本松南 3-8-9

1. 活動の概要

森林を活用した自然体験活動を実施できる人材が増えることにより、森林環境教育がより多くの青少年に提供されて普及啓発に繋がる。また、人材ネットワークが形成されることにより情報交換や連携が図られ、自然体験やそれに際する森林利用における質の向上が期待できると考えた。令和4年度は特に、保育における自然体験活動を日常的に実施できる人材を保育士などにおいて育成することにより、裾野を広い形で広げ普及啓発に繋がると考え、自然保育体験研修シリーズとして広島各地において実施した。また、森林から海までの繋がりを感じる干潟観察会、自然共生型の環境整備の講習などを実施した。

2. 活動の成果

それぞれのフィールドに持ち帰って自分たちの活動に活かしたり、参加者同士で繋がって情報交換してその後も一緒に企画をしたりなどの連携が生まれていた。今後はさらに実施できる人材を育成して増やしていくことや、課題を共有したり学びあう連携の場をつくったり、支援したりする仕組みづくりができたかと考えている。

3. 参加者の声

(自然保育体験研修シリーズ) 自然について子ども達に保育の中でどう伝えれば良いかと言うことばかり考えてたが、環境があれば子ども達が自ら遊びを見つけて楽しむことができるんだと今日の研修を通して改めて感じた。子どもとの遊び、森のようちえんの環境づくりに活かせる実践的で応用範囲の広いロープワークを教わった。また、人とつながれるワークから始まり、和やかにみんなで教え合えた。

(ハチの干潟観察会) 干潟を守る大変さを知り、私たちの便利な生活と引き換えに失われる自然もあるのだと改めて考えさせられた。子どもが、埋立の計画や火力発電所の建設を止めるなんて、岡田さんたちはすごい!と言っていた。自身の育ってきた環境に根ざした様々な環境活動をされてきた岡田さんから、小さな生き物に思いを馳せつつ環境を残していくことについてのメッセージが聞けたのが良かった。

(むささびの森・沢の大地再生講座) 自分たちも自然も共に心地よく暮らしていくための働きかけの方法が分かって嬉しい。環境の変化を体感できた。

実績報告とりまとめ表

実施時期	2/19, 4/16, 5/28, 6/11	5/14, 6/16, 17, 25	6/3	計	備考
事業内容	自然保育体験研修シリーズ	むささびの森・沢の大地の再生	ハチの干潟観察会	8回	
参加者数	県内	112人	27人	のべ34人	173人
	県外	0人	0人	0人	0人
	計	のべ112人	のべ27人	のべ34人	のべ173人
実施場所	広島県東広島市志和町、広島市内各地、竹原市				

「やまの家」先人の知恵を未来につなぐ体験事業

山内自治振興区

〒729-6131 広島県庄原市山内町 813-4

1. 活動の概要

昔ながらの里山暮らしを再現し、森林の素晴らしさや大切さ、森林資源の様々な活用方法を学ぶ。季節季節に応じた様々な暮らしごとの体験を通じ、子どもも大人も年齢を問わず季節ならではの森林の環境、森林の役目、森林の素晴らしい可能性を感じるとともに、森林資源を活用し先人の尊い知恵を体験、再現する。その活動の拠点として森林に囲まれた築150年の古民家を活用する。

- ・里山の木は燃料・建築材だけではなく様々な暮らしの中で利用され活かされてきた。例えば木灰からのこんにゃく作り、染め物、畑の肥料などに利用したり、様々な暮らしの道具作りを再現したりするなど木が様々な生活に活かすことのできる持続可能な循環資源であることを体験する場所づくりを目指す。
- ・地元の山から椎茸原木を調達し、椎茸菌を植えつけから生産までの一連作業を専門家の指導により体験し、自から生産し収穫の喜びを味わう。
- ・里山の暮らしの体験を通じ、地域の人々だけでなく他地域・都市部からの関係人口の交流促進の一助にしたい。

- ・7月 ヒノキの間伐作業・皮むぎ
- ・9月 ヒノキのプランコ作りと間伐材の看板作り チェーンソー講習会
- ・10月 間伐材と竹ですべり台作りと間伐材や様々な木で鉛筆づくり
- ・11月 木や竹を使ったはで木作りと間伐材のきこりのろうそく作り（スウェーデントーチ）
- ・12月 草木灰を使ったこんにゃく作り
- ・1・2月 しいたけの植菌講習会と木の樽で味噌作りと柳の餅花づくり
- ・2月 しいたけの植菌ともみ殻燻炭と焚き木を使って飾り炭作り
- ・3月 間伐材や廃材を使った椅子作り
- ・4月 山菜採り（竹林整備たけのこ掘り）と野草茶作り
- ・5月 木材を使った木枠で豆腐作り
- ・6月 梅もぎと梅加工 昔の道具で作る柏餅づくり

2. 活動の成果

- ・昔の里山の暮らしごとを折々の季節ごとに再現する中で、先人の苦労や身の回りの素材を有効に利活用でき、知恵に触れ、更なる里山の魅力を感じ、次世代に除除につなぐいでいく大切さを学ぶことができた。
- ・長引くコロナ禍、他地域との交流は今一つ結果を残せませんでした。今後他地域・都市部への情報発信を細やかにし、里山、森林をベースにした暮らしの魅力を伝えていきたい。
- ・今後は更に森林資源を活用するプログラムを実践し、森林への関心や魅力を発信していきたい。石窯づくり・間伐材を利用したイス・遊具作り・道具作り。燻製用チップづくりなど。

3. 参加者の声

- ・捨てられていた間伐材からこんなに様々な物が作れることがすごい。
- ・子どもたちの発想ややってみみたいことが次々実現していく過程が見れて幸せ。
- ・里山は時間がゆっくり流れていて気持ちいい。
- ・昔の暮らしは大変だったかもしれないが、知恵の玉手箱だと思った。
- ・暮らせる山を持ちたくなった。
- ・道具作りや古民家を見て木が100年1000年と大切にすれば生き続けることに感動した。

実績報告とりまとめ表

実施場所 広島県庄原市平和町

実施時期		7月23日	9月22日	9月25日	10月22日	11月25日
事業量 又は 事業内容		第2回古民家 体験活動 ヒノキの間伐 作業・皮むぎ	チェーンソー 講習会 (講師ひろ森安 5名)	第3回古民家 体験活動 ヒノキのブラ ンコ作りと間 伐材の看板作 り	第4回古民家 体験活動 間伐材と竹で すべり台作り と間伐材や 様々な木で鉛 筆づくり	第5回古民家体験 活動 (コロナ蔓延スタッ フのみで) 木や竹を使ったは で木作りと間伐材 のきこりのろうそ く作り
参加者数	県内 県外 計	37人 人 37人	19人 人 19人	24人 人 24人	39人 2人 41人	12人 人 12人
実施時期		12月18日	1月31日	2月5日	2月23日	3月18日
事業量 又は 事業内容		第6回古民家 体験活動 草木灰を使っ たこんにゃく 作り	しいたけ原木 栽培講習会 栽培方法 木の種類など	第7回古民家 体験活動 木の樽に味噌 作りと柳の餅 花づくり	第8回古民家 体験活動 もみ殻燻炭と 焚き木を使っ て飾り炭作り	第9回古民家体験 活動 間伐材や廃材を 使った椅子作り
参加者数	県内 県外 計	24人 3人 27人	14人 人 14人	32人 人 32人	36人 人 36人	37人 3人 40人
実施時期		4月23日	5月14日	6月18日		
事業量 又は 事業内容		第10回古民 家体験活動 山菜採り(竹 林整備たけの こ掘り)と野 草茶作り	第11回古民 家体験活動 木材を使った 木枠で豆腐作 り	第12回古民 家体験活動 梅もぎと梅加 工 昔の道具で作 る柏餅づくり		合計
参加者数	県内 県外 計	23人 3人 26人	25人 8人 33人	41人 2人 43人		363人 21人 384人

徳島県森林づくりリーダー養成講座

とくしま森林づくり県民会議

〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地

1. 活動の概要

県民、企業・団体等の森林づくり活動に対して関心が高まり、活動の支援を行うため、県内に公募し、新たに森林づくりの指導者（森林づくりリーダー）を養成（認定）する講座を実施した。

さらに、これまでに森林づくりリーダーの認定者に対して、スキルアップ及び森林づくり活動の幅を広げるためのステップアップ講座も実施した。

2. 活動の成果

○森林づくりリーダー養成講座

9月10日から12月10日にかけて、基本講座8回を実施した。

受講生16名のうち、11名が認定基準（講座受講の7割受講）を満たし、令和3年度「徳島県森林づくりリーダー」として認定された。

今後は、養成した森林づくりリーダー資格者名簿を作成し、県内の学校関係や野外活動施設等に送付し、森林づくりリーダーとして活動を行う。

○森林づくりリーダー・ステップアップ講座

11月27日、12月11日、2月12日、3月9日の4日間、より専門性の高い講座を実施し、リーダー既認定者の29名がスキルアップを図った。

3. 参加者の声

- ・この講座は大切であると思う、いつまでも継続して開催して欲しい。
- ・自然の中で、子供たちには五感で自然を体感して欲しい。子供たちの成長を手伝いたい。
- ・森林環境の今を知り、何をすべきかを学んだ。これからの活動に活かしたい。
- ・自然体験を通して、心も身体も健康になるお手伝いをしていきたい。
- ・森林のことを伝える方法を深く学べて良かった。山の魅力を周囲に伝えていきたい。
- ・職場でも、指導者として山での楽しさを伝えて行きたい。

実績報告とりまとめ表

実施時期：令和4年9月10日～令和4年12月10日	計8日（基本講座）
：令和4年11月27日～令和5年3月9日	計4日（ステップアップ講座）
事業量	基本講座8回ステップアップ講座4回
参加者	県内16名 県外0名 計18名（リーダー養成講座：認定者数11名） 県内28名 県外0名 計28名（ステップアップ講座）
実施場所	徳島県 名西郡神山町、勝浦郡上勝町、徳島市入田町、美馬市美馬町、阿波市土成町

令和4年度 森林ボランティアリーダー養成講座

情報交流館ネットワーク

〒782-0078 高知県香美市土佐山田町大平 80 番地

1. 活動の概要

森林環境学習や自然体験活動の指導者の養成及び、森林ボランティアとして森林整備の第一線で活躍するリーダーを養成するとともに、木育や木使いなど木材利用を通して、森に親しみを持ち、森林環境の重要性を普及啓発することの出来る人材を育成する。そして、この事業で生まれた森林ボランティアリーダーのネットワークを活かし、国民参加の森づくり運動を推進する。

2. 活動の成果

参加者の中から新たにボランティアリーダーとして登録される方、参加した講座を主催するボランティア団体に興味を持ち、団体に加入する方が多くみられました。又、同じ講座に参加した方々で、新たな同好会を発足させて活動を継続する動きも見られました。

ボランティアリーダーのスキルアップや団体活動のサポートを継続して行い、国民参加の森林づくり運動の推進により貢献出来る様にしていきます。

3. 参加者の声

- 教えてもらったようにまっすぐ切れるように練習しようと思います。チェーンソー・斧の安全な使い方を知ることができました。
- 竹の切り出し作業からできて良かった。今後作るときに非常に参考になる講座でした。
- 初めて木工を習いましたが丁寧に楽しく教えて下さったので、毎日が楽しみでした。基本的な研ぐ、のみの使い方が大変勉強になりました。
- 馬に乗っての作業は慣れるまでに時間がかかりました。思ったように削れず時間がかかりました。
- 2日間ともに生きる知恵を教えてもらえるとても良い講座でした。炭づくりの工程から実際の火おこしまで体験できました。

実績報告とりまとめ表

実施時期		令和4年9月12日から令和4年3月20日まで							
事業内容	回数	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
刈り払い機初心者講座	1回	6名							6名
チェーンソー体験講座	6回		5名	9名	2名	6名	11名	9名	42名
竹細工講座	5回	7名							7名
大人のための木工教室	4回		8名						8名
竹のブランコづくり講座	1回		4名						4名
グリーンウッドワーク講座	3回		8名		6名			8名	22名
里山暮らし体験講座	2回						10名		10名
計	22回	13名	25名	9名	8名	6名	21名	17名	99名
実施場所	高知県立森林研修センター情報交流館、館内及び自然体験ゾーン								

宮崎県みどりの少年団総合研修大会

宮崎県みどりの少年団連盟

〒880-0804 宮崎市宮田町10番28号

1. 活動の概要

宮崎県みどりの少年団総合研修大会

みどりの少年団活動発表会や屋外での行事を通じて相互交流を図ることにより、緑や森林の重要性について理解を深め、自然を敬愛する情操豊かな青少年を育成するため、県内のみどりの少年団と育成会が一堂に会し、研修大会を実施した。

2. 活動の成果

活動発表会は、各少年団の特色ある活動についての情報交換の場になるとともに、キャンプファイヤーやグリーンアドベンチャーを通じて、各団との交流が図られた。

3. 参加者の声

- ・活動発表会は、他の団の活動内容を知ることができ参考になったし、活動発表者の話し方、発表態度、質問の受け応えがとても参考になった。
- ・キャンプファイヤーでは、演し物をただ発表するだけでなく、お互いの演し物に参加できたのが楽しかった。
- ・天候にも恵まれて、キャンプファイヤーを数年ぶりに実施でき、思い出に残る大会となりとてもよかった。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の中、感染対策を徹底して望んだことはよかったと思う。

実績報告とりまとめ表

実施時期	7月23日(土)～7月24日(日)	備考
事業内容	宮崎県みどりの少年団総合研修大会 参加少年団数 2団 活動発表会 2団 不参加の少年団2団の活動紹介 屋外では、キャンプファイヤー及びグリーンアドベンチャーの実施	
参加者数	少年団員 29名 育成会等 38名 スタッフ 22名 計 89名	
実施場所	小林市ひなもり台県民ふれあいの森	

産学協同で取り組む「こどものけんちくがっこう」

NPO 法人 こどものけんちくがっこう

〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-40

1. 活動の概要

令和4年度は、小学3年生から中学生までを対象に、森林から木材、木造建築に関する座学と実習を織り交ぜた対面（毎月）とオンライン（7月）による授業を通年で実施した。対面授業は、鹿児島の地方新聞や電車広告等を利用し公募を行い、47名（通年）の生徒が参加した。オンライン授業は、インターネットで全国から広く公募し、21名（年間合計）の生徒が参加した。対面授業では、木材を用いた家具の製作など、ものづくりを中心とした授業を行なった。オンライン授業では、昨年度同様、授業に用いる模型キット等を事前に郵送し、授業当日はZoomで教室と生徒の自宅をつなぎ、座学と工作を組み合わせた授業を行った。また、8月には鹿児島大学附属演習林との共催で夏期課外授業を実施し、9名の生徒を対象に森林の環境学習、製材の仕組みの学習、ツリーハウスの建設授業を行なった。

2. 活動の成果

コロナ禍以前の体制に戻り、対面授業(月2回)を計12回実施した。オンライン授業は6回実施し、県外（東京、神奈川、福岡）からの参加者を得た。模型等の製作や、自宅を教材とした授業により、オンラインでも対面と遜色のない授業を実施することができた。木育イベントや地域の街おこしイベントへの出展などを通して、活動を広く発信することができた。

3. 参加者の声

対面授業で得られる実感について大きな反響を得た。オンライン授業は昨年度同様、環境・建築に関する授業を自宅で気軽に受講できると好評で、参加者のリピート率が高かった。また、イベント出展によるワークショップ型の授業では、会場を訪れた子供たちが積極的に参加し、前向きな感想を得た。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業量 又は 事業内容	1) 対面定期授業	1) 7/3, 7/16, 8/27, 10/15, 11/19, 12/17, 1/21, 4/15, 4/29, 5/20, 6/3, 6/17		1) 12日間	
	2) オンライン定期授業	2) 7/27-29		2) 3日間	
	3) 夏期課外授業	3) 8/20-21		3) 3日間	
参加者数	県内	62人	13人	62人	
	県外	15人	人	15人	
	計	77人	人	77人	
実施場所		鹿児島県 鹿児島市			

国際交流

自然保育に関する公開シンポジウム及びユースセッション

日本自然保育学会第7回大会実行委員会

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地 上越教育大学大学院学校教育研究科
発達支援教育実践研究コース幼年教育領域内

1. 活動の概要

(1) 自然保育に関する国際シンポジウム

我が国の「自然保育」が森林ESDやSDGsの視点を取り入れるヒントを得るため、環境先進国であるスウェーデンのライラ・グスタフソン氏にオンラインで基調講演を行なっていただいた。基調講演を受けて、日本野外教育学会、日本環境教育学会、こども環境学会、日本自然保育学会の理事を務める研究者が登壇するシンポジウムをハイブリッド方式で開催した。

(2) ユースセッション

森のようちえん等において自然保育に携わる若手保育者3名を招き、各園の保育実践の様子と、森の中で子どもと育ち合うことの意義や効果を語ってもらい、若手保育者が働き続けられる持続可能な自然保育のあり方について考えるラウンドテーブルを行った。

2. 活動の成果

基調講演により、スウェーデンの「森のムッレ」教育が、幼児期からの森林環境の保全意識を高めることに重要な役割を果たしていることを知ることができ、日本の自然保育の実践への示唆を得た。また、子どもと自然環境に関わる4つの学術団体の研究者が、それぞれの取り組みについて報告を行い、理解を深めたことにより、今後、森林ESDを学術的に発展させていくための基盤ができた。ユースセッションでは、若手保育者の生の声を聞くことができ、森のようちえんの持続可能なあり方について議論を深めることができた。

3. 参加者の声

事後アンケートで、基調講演とシンポジウムについては「自然保育の活動がどのようにSDGsにつながるのかがわかった」「他学会をつなぐ貴重な機会となった」という感想が聞かれ、80%以上が「満足」と回答した。ユースセッションについては、「若手保育者の声が新鮮だった」という声が聞かれ、参加者の満足度が高かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		12月3日(土)	12月3日(土)	計	備考
事業量 又は 事業内容		自然保育に関する 国際シンポジウム	ユースセッション		
	県内	6人	4人	10人	
参加者数	県外	139人	51人	190人	
	計	145人	55人	200人	
実施場所		上越教育大学学校教育実践研究センター(オンライン併用)			

IUFRO OKINAWA 2022 : Progress in Small-scale Forestry beyond the pandemic and global climate change

国立大学法人 琉球大学

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

1. 活動の概要

IUFRO（国際森林研究機関連合）の小規模林業分科会と森林法・環境法分科会及び琉球大学が主催して、10月26日から31日の期間で森林・林業問題に関する国際研究会を開催した。同時に、公開シンポジウム「世界自然遺産やんばるの森林管理を考える」の開催と現地へのエクスカージョンを行った。

2. 活動の成果

日本の森林・林業の最新状況を諸外国の森林研究者に伝えることができた。また、ヨーロッパ・北アメリカ・アジア・オセアニア等の研究者との情報交換・意見交換により、世界的・地域的な森林・林業問題の相互理解が深まった。世界自然遺産やんばるの森林管理に関しては、琉球王朝時代からの森林利用の歴史やヨーロッパ諸国における貴重な森林環境の管理問題についての事例研究の講演をもとに、今後の保護と利用の在り方について理解を深めることができた。

3. 参加者の声

海外からの参加者の多くは、沖縄の自然の豊かさと森林管理の歴史について興味を示した。また、小規模な森林経営が中心である日本の林業の現状については、自伐林業や集約化施業といった諸外国には見られない方法による木材生産の効率化追求に関心が寄せられた。さらに、近年の日本の森林・林業関連法の充実ぶりにも注目が集まった。国内参加者からは、海外の一次情報に接する機会となり、また海外研究者との個人的交流が進んだことを評価する声が多かった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		月日	月日	計	備考
事業内容	国際研究会	10/26-31		4日	口頭報告：38件 ポスター報告：17件
	公開シンポジウム		10/29	1日	日英同時通訳付き 講演者4名 コメンテーター3名
参加者数	県内	10人	50人	60人	国際研究会と公開シンポジウムの参加者には重なりがある。
	県外	66人	30人	96人	
	計	76人	80人	156人	
実施場所		沖縄県 宜野湾市			

令和2・3年度・
事業期間延長分

ユネスコ遺産にも認定された「和食」における 「木づかい」についての調査・普及事業

木育全国生産者協議会

〒 399-6301 長野県塩尻市木曾長瀬 23047-2

1. 活動の概要

日本の食文化における“木づかい”についての調査を行い、調理師教育と連携して“和食”の中の“木の文化”を普及促進することを目的に木調理器具等の作り手、飲食店などの使い手、それらを普及し販売の窓口になる役割を担う機関へのヒアリング調査を行なった。

上記の調査からわかったことを、調理師教育の現場で若手が理解しやすいようにまとめ様々な場面（例えば出張事業や教育現場の産地見学の際）で利用ができるように教材（冊子）としてまとめた。

2. 活動の成果

どのような場面でも、誰が担当しても基本情報として伝えたいことが伝えられる教材（冊子）ができた。

また、ヒアリング調査の中で作り手と使い手が同じ場に同席して利点と使用に伴う懸念点を共有することで、「こうしたらその問題は解決できて、より使いやすくなるのでは？」という議論も生まれ、商品開発に至る。（漆塗りまな板、飯切）

ヒアリングと教材作成の取材という複数回を通して、生産者と使い手、広域での産地内での結びつきが強くなった。

3. 参加者の声

- ・ 未来の使い手に向けて、産地としてできることを協議できたことがよかった。
- ・ 作り手と使い手、売り手が意見交換する場がもてたことがよかった。
- ・ 議論の中から、新しい取り組みが生まれてよかった。
- ・ 若い世代が産地を知るきっかけになってくれることを期待している。

「FABとくしま」を活用した「緑のインフルエンサー」養成事業

公益社団法人 徳島森林づくり推進機構

〒770-0134 徳島県徳島市川内町平石住吉 209 番地 5

1. 活動の概要

地元の小学生や林業を学ぶ高校生が参加し、植栽作業と食害防止ネットの設置を実施。食害対策の新しい取り組みとして、苗木につけるネットを農業用の玉ねぎネットとダンボール等市販されている道具を使い作製と設置を行っている。価格面を抑えることで、設置に対しての問題解決に取り組んだ。作業前には植栽方法や食害についての森林学習を現地にて行い、実際に見てもらうことでより理解を深めることができた。作業の様子をSNSやHPにて発信を行うとともに、参加者に対してシェアをお願いし、幅広い年代に広がるように取り組んだ。

神山FABではホスト企業の方と園児が参加し、自らどんぐりから育てたクヌギの苗と広葉樹の植栽作業、枝打ち材を利用したアクセサリー作りを行った。作ったアクセサリーは持って帰っていただくことにより、参加していない一般の方の目に留まるようになり、イベント後も木の良さを発信できるように取り組んだ。また、SNS発信の他、地元ケーブルテレビの取材もあり、多くの一般の方に森林の様子を見てもらうことができた。

2. 活動の成果

食害対策の取り組みに関して、作製したネットで現在のところ被害を抑えることができおり、効果が得られている。引き続き苗木の成長や、資材の劣化などの経過観察を行い、今後の取り組みに生かしていく。

SNS等での発信や、ケーブルテレビでの放映もあり、今後森林活動に意欲的に取り組む人が増えることが期待できる。また、森林活動を目にすることで、取り組みを考える人が増え、緑の募金に対する関心が生まれたと感じる。今後も山の様子やイベントなど、情報や写真をSNSにて発信を続け、様々な人に森林の情報が届くように取り組んでいく。

3. 参加者の声

- ・鹿やウサギの被害が多いことに驚いた。
- ・植栽作業の大変さを知った。
- ・自分が大人になった時の森の成長が楽しみだ。
- ・枝打ちの木が、きれいなアクセサリーになっていくのが楽しかった。
- ・自分では関心を持って調べることがない植栽や食害被害の情報を、SNSにて知れるのは良いことと感じた。発信を続けてほしい。
- ・草の量に驚いた。下刈りの大変さを知った。

実績報告とりまとめ表

実施時期	5月28日	11月6日	11月16日	11月24日	12月4日	計	備考
事業量 又は 事業内容	1か所 植栽・木工 クラフト・里 山体験	1か所 下刈り	1か所 森林学習・ 植栽・食害 対策	1か所 森林学習・ 植栽・食害 対策	1か所 植栽・木工 クラフト		
参加者数	県内	36人	22人	40人	11人	50人	159人
	県外	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	計	36人	22人	40人	11人	50人	159人
実施場所	徳島市入田	阿波市土成	神山町上分	神山町上分	神山町神領		

「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・プログラム開発・効果検証

Momo 統合医療研究所

〒162-0816 東京都新宿区白銀町 2-1-406

1. 活動の概要

今年度はプログラム開発とその効果検証として2つのプログラムに取り組んだ。1つは、近場の自然環境における森林浴プログラム、もう1つは企業の従業員を対象とした従業員と組織の健康のための森林環境での保養プログラムである。近場の自然環境における森林浴は、東京都練馬区の石神井公園において実施し20名が参加し、その効果検証を行った。企業のプログラムは、長野県信濃町において1泊2日で同一企業の従業員20名が参加し、森林セラピーとホースセラピー、チームビルディングを含めた研修プログラムを行い、その効果調査を行った。

さらに、これらの自然環境における保養を実際の医療とむすびつけ、予防や健康増進に役立てていくことを推進、検討するために、医療職向けの森林医学を体験するプログラムも開催した。静岡県朝霧高原において2023年6月に開催し、朝霧高原診療所院長 山本竜隆医師による保養医療やオプティマルヘルスに関する講演も含めた保養プログラムに医師7名、保健師1名が参加した。

2. 活動の成果

東京都練馬区での森林浴の効果調査では、森林浴前後において、POMS2(Profile of mood status2)におけるネガティブ感情の軽減とポジティブ感情の向上がみられ、自律神経バランスは交感神経が静まり副交感神経が高まった状態となっており、近場の自然環境での森林浴も心身への影響がみられることが示唆された。企業プログラムでは、個々人の心身への効果にとどまらず、チームの人間関係の改善傾向も認められ、保養プログラムが企業研修として組織の健康にも貢献する可能性が示唆された。医療職向けプログラムに参加した医師や保健師からは保養プログラムによる自らの心身の変化への気づきの声が上がるとともに、各現場における導入に際する課題についてのディスカッションが行われた。

3. 参加者の声

- ・都内の公園での森林浴は五感が開かれ、いつもの散歩とは全く違った体験となった。
- ・職場の同僚のいつものとは違う笑顔を見られ、その後の人間関係に安心感が生じるようになった。

実績報告とりまとめ表

実施時期		2022年5月23日	2023年3月9-10日 2023年6月1-2日	2023年6月18-19日	計
事業量 又は 事業内容		ねりまの緑で森林浴 の効果調査	森林環境における企 業研修の効果調査	医療職向け森林医学 体験プログラム	
参加者数	県内	20人	0人	2人	22人
	県外	0人	20人	6人	26人
	計	20人	20人	8人	48人
実施場所		東京都練馬区	長野県信濃町	静岡県朝霧高原	

しんじゅくのいきものたんけん隊&惑星たんけん隊

一般社団法人キッカケスクエア

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目36番22号

1. 活動の概要

私たちは、都市部において、日常的に意識しなければ関わりの少ない自然に、幼少期から触れる・気づく環境を提供すると共に、子どもを取り巻く周囲への環境教育に対する理解を深めるため、新宿区内の公園で、複数回に渡って自然体験・環境教育イベントを行った。

実施するにあたって特に気を配ったところは、ただのイベントで終わらせず、可能な範囲で波及的効果が得られるよう、参加された子ども・保護者の方々に対して、目の前のものを「よく観て」「気づき」「感じる」ことに着目して、その瞬間を大事にできるような体制づくりに努めた。

2. 活動の成果

下記の「参加者の声」からも分かるように、自然や環境に対する意識等が異なる方々それぞれにとって満足感のあるイベントとなり、その後の意識の変化も見られる結果となった。

特に、今回家族単位での申し込みも可能としたことで、その場だけの「ただの楽しいイベント」で終わるのではなく、家庭に戻ってからも共通の体験があることで、そこから会話が生まれ、それぞれの意識を引き続き広げたり・深めたりする機会につながる第一歩を提供できたと考えている。

今回、新宿区内の公園という場所を中心にイベントを開催してみて、やはり身近な自然を活用することは、その土地に住んでいる人の愛着を強くすることにつながり、ひいては目の前の自然から環境問題等について「自分ごと」として考えられる人が育つのではないかと仮定し、今後も区内の身近な公園を活用したイベントを開催し、自然や環境への関心を深められるような場を提供したいと考える。

3. 参加者の声

いきものが大変苦手（嫌い）だった子どもが、イベント参加を通していきものへの興味が湧き、積極的に参加していたことに保護者の方が驚かれたり、逆に普段いきものが好きで、新宿ではなくもっと自然がたくさんあるところへ行きたいとお子さんに言われて郊外へ足を運んでばかりいたご家庭の方が、お子さんが「やっぱり戸山公園っていいな」と、身近な自然にもまた目を向けるようになり、保護者自身も、こんな身近に多様な自然があると気づかなかったと気持ちを伝えてくださった。

実績報告とりまとめ表

実施時期	4月10日-6月30日	月日	計	備考	
事業量 又は 事業内容	イベント9件 いきもの調査、観察、図鑑・標本づくり、 アート、鳥類標識調査解説、いきもの探 しを行う「いきものたんけん隊」と、地 球という惑星について学ぶ「惑星たんけ ん隊」を実施。				
参加者数	都内 都外 計	403人 0人 403人	人 人 人	403人 0人 403人	応募家族数 804組
実施場所	東京都新宿区				

「医師と歩く森林セラピーロード」

International Society of Nature and Forest Medicine (INFOM)
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-19-4

1. 活動の概要

本事業は、森林空間内滞在によるストレス緩和が、都市部と比べ有意になされると実験・証明された“森林セラピー基地[®]”の中から12ヶ所を選び森林医学に精通した医師同行で開催した事業である。医師は、森林の持つ予防医学的効果の講話とストレス度を含む検査の講評、ガイドは、森林全般の有用性、地元文化との接点等を解説し、森と木と人との共助及び各々の保健を促した。

2. 活動の成果

本活動の目的は、一義的には医学的・科学的実証に基づく森林環境の持つ癒し機能を参加者が体感し健康維持・増進に役立てる事であるので、豊かな森林が無ければこの活動は成立しない。今回はCOVID-19の影響で参加者の多くが近隣住民となった事で、近隣住民に森林環境の重要性が再認識されると共に、森林自身が有る事が地元経済の活動の活性化を促すことに気付かせた。一方、日本旅行作家協会のグループが、新しい旅の仕方体験を種々な形で広報したため、森林セラピー[®]の普及啓発の一助となった。今後の活動としては、地元の基地も気づかなかつた近隣への呼びかけと国内の各種団体への呼びかけに加え、インバウンドへの広報も視野に入れる事とした。

3. 参加者の声

イベント全体：森の中に滞在出来る機会は他になく、リラックスした、森を感じて歩けた。

各種測定：ただ歩くだけでなく自分の体調の変化に意識が向いた。普段ない測定チャンス。

セラピスト、セラピーガイドの対応：丁寧。樹木を熟知。ゆっくり歩行。

医師の対応：寝転ぶ、座る等を理由の説明付きでやらせてくれてよかった。医学的見地からの説明で森の緑が身体にしみ込んだ。リモートでの講評は医師が来なくて残念など不評。

DVD鑑賞：森の効果が解った。セラピー前後での変化を知ることができた。

セラピーロード：チップの香も有り森をゆっくり堪能できた。毎年来たい。四季折々行ってほしい。

行動時間：概ねゆったり行動でき、満足とあったが、もう少し歩きたかったとの意見もあり。

セラピー弁当：他にない食材、調理方法等で美味しい。弁当箱がかっこいい。

実績報告とりまとめ表（参加者数合計 140名）

実施時期	事業量	参加者数	実施場所	備考（ロード名/コース名）
R4年5月8日（日）	5時間	4	東京都奥多摩町	登計トレイル及び氷川溪谷
R4年5月28日（土）	3時間	13	東京都檜原村	セラピーロード大滝の路
R4年5月29日（日）	6時間	21	三重県美杉町	大洞山石畳コース
R4年6月25日（土）	5時間	13	群馬県上野村	中之沢源流域自然散策路
R4年6月26日（日）	6時間	26	岩手県岩手町	嵐山コース
R4年7月23日（土）	3.5時間	9	鳥取県智頭町	横瀬溪谷コース
R4年8月7日（日）	3.5時間	7	鳥取県智頭町	横瀬溪谷コース
R4年10月1日（土）	3時間	4	長野県山ノ内町	サンシャイントレールコース
R4年10月14日（金）	5時間	10	山形県小国町	温水平森林セラピー基地
R4年10月28日（金）	4時間	15	兵庫県宍粟市	フォレストステーション波賀
R4年11月20日（日）	4時間	13	群馬県甘楽町	稲含山登山口から夫婦ヶヤキへのコース
R5年5月21日（日）	3時間	5	長野県上松町	赤沢自然休養林セラピーロード

「つくって、つながる」木の魅力発見プログラム 2021

一般社団法人 TOBUSA

〒123-0862 東京都足立区皿沼二丁目23番7-505号
フォルティーン皿沼505

1. 活動の概要

木の加工、並びに木を使った創造活動に関わるワークショップや動画、シンポジウムを通して「木」の魅力、日本における木の文化の歴史と現在を伝えることを目的としています。

今年度は前年度行ったワークショップの開催に加え、木に関わる仕事でありつつ異業種の関わり、新たな木の産業になりえる可能性を探りました。高校生の新木場校外学習の企画、いろいろな木に関わる仕事をしている人たちが集まり日本における木の可能性や木の魅力を考えるシンポジウムの開催と冊子の作成。民間レベルで可能な教材の開発を行いました。

2. 活動の成果

イベントを行い、多くの人に関心を寄せてもらう仕事と同時に、さまざまな人と交流して今後の日本における木の文化の伝承をどのように伝えていくか考える機会を作ることの大切さが感じられました。

なかでも、金銭的な問題と人材育成の問題は早急に着手すべきだと感じました。そのことも踏まえ、今後地方の農家や施設等と連携を積極的に取り地方と都心の教育環境を繋ごうと思いました。専門家と小さな地方の声をつなぐことはこの時代だからできるグローバル化のひとつであり、日本における森林教育の底上げは地道な「木がつなぐ人と人とのつながり」だと実感しました。

3. 参加者の声

引率教員「これまで目にすることのなかった業界の話と森林の話に驚きました。理科の教師をしていても初めて聞く話があり面白かったです。」

WS参加の主婦「集中して何かを作るまとまった時間が生活の中ではありません。とても久しぶりに機会を得て専門的な話にも触れられてものすごくストレスが発散されるということに気づきました。」

シンポジウム参加者「これまで専門家や研究者、材木商、消費者が同じ地表で話せるシーンはありませんでした。非常に価値ある機会だと思いました。今後も互いに連絡を取りやりとりを継続させます。」

実績報告とりまとめ表

実施時期		2021年 11月26日	2022年 4月30日	2022年 3月～9月	2022年 11月27日	2023年 4月～6月	計	備考
事業量 又は 事業内容		高校生もの つくりゼミ 校外学習 新木場探索	大人と一緒に 鉋で作る 木のお皿WS シンポジウム 「木を扱う 様々な業種 からみた今 後の日本の 木の文化」	地方と都心 教育現場を 木でつなく、 産業プロ ジェクト	「バターナイ フをつくる」 樹種の違い と作ること	『木になる 話 - 木にひ かれるわた しの理由 -』 書籍刊行、 展示、 セミナー実 施報告書		
参加者数	県内 県外 計	19人 人 19人	25人 2人 27人	71人 3人 71人	15人 人 15人	88人 人 88人	218人 5人 223人	
実施場所	東京都 宮城県							

幼児のストレスに及ぼす森林環境の生理学的効果計測と自然保育啓発

仙台大学柴田研究室

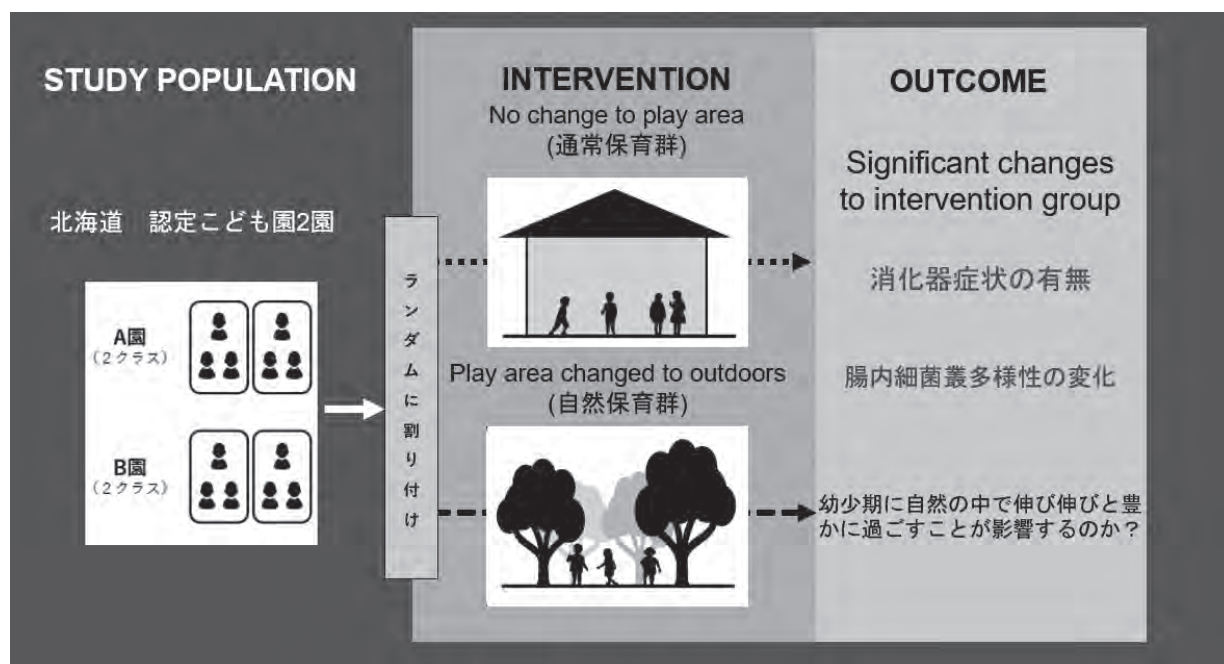
〒 989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南 2-2-18

1. 活動の概要

幼児のストレスに及ぼす森林環境の生理学的効果を計測するため、森林環境が幼児期の消化器症状に及ぼす影響に関する無作為化比較試験（A Randomized Controlled Trial on the Effect of Environmental Richness on Gastrointestinal Symptoms in Early Childhood）を実施した。

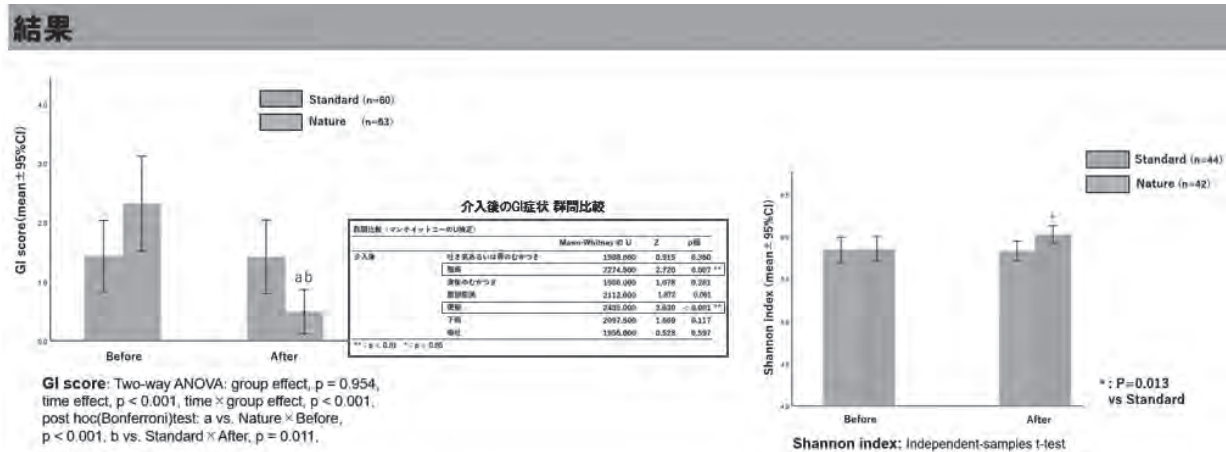
【目的】 幼少期ストレスは視床下部-下垂体-副腎皮質系の応答を異常化し、思春期以後のストレス関連疾患の発症率を増加させる。一方、自然の中で伸び伸びと豊かに過ごせるように生育環境を設定すれば、その逆の現象が生じることが予想される。しかし、これを実証する医学的データはなかった。本研究の目的は、幼少期ストレスによってもたらされる症状（消化器症状）が自然保育によって低下する、という仮説を検証することである。

【方法】 対象は北海道居住の認定こども園児である。倫理承認・同意後、自然保育群 64 名（男児 31 名、女児 33 名、 5.59 ± 0.50 歳）、通常保育群 60 名（男児 28 名、女児 32 名、 5.47 ± 0.50 歳）に無作為に割り付けた。通常保育は通常の保育環境のみ、自然保育群には一定期間自然散策を加えた。介入前後に Children's Somatization Inventory (CSI) により消化器症状を検出および腸内細菌叢の多様性計測を実施した。検出したデータおよび検体の値は、2 元配置分散分析により有意差を検証した。



2. 活動の成果

【結果】自然保育群の介入後の消化器症状は通常保育群よりも有意に低かった ($p < 0.001$)。中でも腹痛 ($p = 0.007$) および便秘 ($p < 0.001$) が有意に低かった。更に自然保育群でのみ介入前より介入後の消化器症状が有意に低下した ($p < 0.001$)。また、腸内細菌叢の多様性が増加するという結果がもたらされた。



【結論】幼少期に自然の中で伸び伸びと豊かに過ごすことが幼少期ストレス軽減効果をもたらすと考えられる。このことは、幼少期以降の心身症の予防に示唆を与える結果である。よって、自然環境を活かした保育実践である自然保育は、子どもの心身の健全な育成に効果があると考えられる。

3. 実施時の様子



「幼児期における学習環境としての森林の教育的効果に関する研究」

郡山女子大学短期大学部幼児教育学科 柴田 卓
〒963-8503 福島県郡山市開成 3-25-2

【背景と目的】

近年、我が国では自然を活かした保育や生活が非認知能力向上の観点から注目を集めている。一方、北欧フィンランドでは非認知能力の向上に加えて基礎的な科学や数学を学習する環境として自然が活用され、実験的かつ探求型のアプローチにより認知能力の基礎を育む学習環境としても広く認識されている。この流れは2013年頃よりアメリカを中心に欧米諸国で広がるSTEM/STEAM教育と共通する考えと言えよう。このSTEAM教育とは、地球上の課題や環境問題、21世紀型スキル等に焦点化した新たな教育で、科学(Science)、技術(Technology)、工学(Engineering)、数学(Mathematics)にアート(Art)を加えた頭文字からなり、簡易に表現すれば各教科を横断的かつ総合的に捉えた科学技術教育といえる。自然の中で遊ぶ子どもたちに目を向けると、実に様々な事象と遭遇し、創造し、自分なりの仮説を立て、調べ、表現し、協働するなど豊かな遊びの経験から繰り返し学びを深めており、自然環境における実体験を通じた探求型の取組みは、前述した課題や問題に関連した学びとの出会いであり、学びの芽と捉えることもできる。これらの背景から、本研究はSTEAM教育の視点から、幼児期における学習環境としての森林の教育的効果を探ることを目的とした。

【研究方法】

はじめに、幼児期における学習環境としての自然素材や活動の可能性を探るための「STEAM Outdoor Inspiration Card」とそれぞれの可能性を掘り下げるための教材「Reflection Card」を作成¹⁾した。次に、自然保育に関する実態調査を基に福島県内5つの保育施設にて計14回の現地調査を実施し、自然を活かした保育活動にて子どもたちが触れた、触れる可能性のある自然素材や教材および保育活動を収集した。次に、収集した自然素材や教材および保育活動を整理し、森林環境教育プログラムを提供する団体の指導者らと、STEAMの視点から教育的効果およびその可能性を検証した。検証した自然環境における素材や教材および活動は、自然保育を促すための教材事例集(図1)としてまとめた。

【結果と考察】

本研究で取り上げた事例は、筆者らが現地調査した自然保育活動中に遭遇した動植物や活動であり、ウルシやクマなど触れない、遭遇しないために取り上げているものもある。これらの事例をA.自然物、B.昆虫、C.生き物、D.地形・歴史・自然現象、E.保育活動・その他の5つの項目で整理し、43事例の検証を試みた。例えば、A.5(図2)の事例は2022年秋に実践した「森遊び」から「木の実」を取り上げており、科学の視点では、様々な木の実に動物や虫の食べた痕跡があり、その痕跡から食べた動物を推測し、その生き物の生態を探ることができる。技術の視点では、動物が固い殻をどのように割ったり剥いたりして食べ物を得るのかを探ることができ、工学の視点では人間の道具で代替できる物を実験しながら学ぶことができる。アートの視点では、食痕の形の面白さを何かに見立てて遊ぶ創造性や表現力を発揮し、数学の視点からは食痕の数・形・大きさを比較するなど、初期の数学的な学びに関連することが見えてきた。検証過程において、自然素材や自然遊びに焦点化したことで「技術」と「工学」を明確に区別できない、工学のイメージがわかりづらいなどの課題や限界も浮上しました。これらの点については、保育者の声かけや関わりによって学びの方向や広がりにも影響を及ぼす幼児教育の特性を考慮しながら学びの可能性を提示することとした。

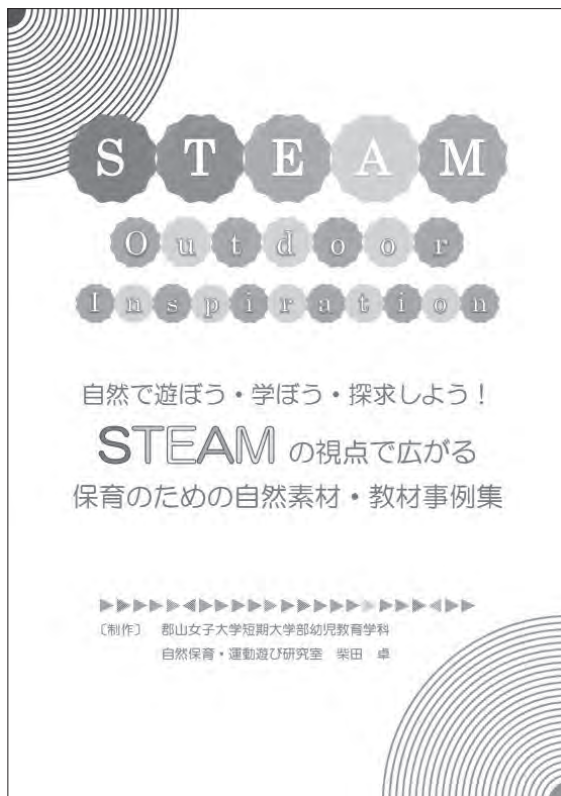


図1. 作成した事例集（表紙）

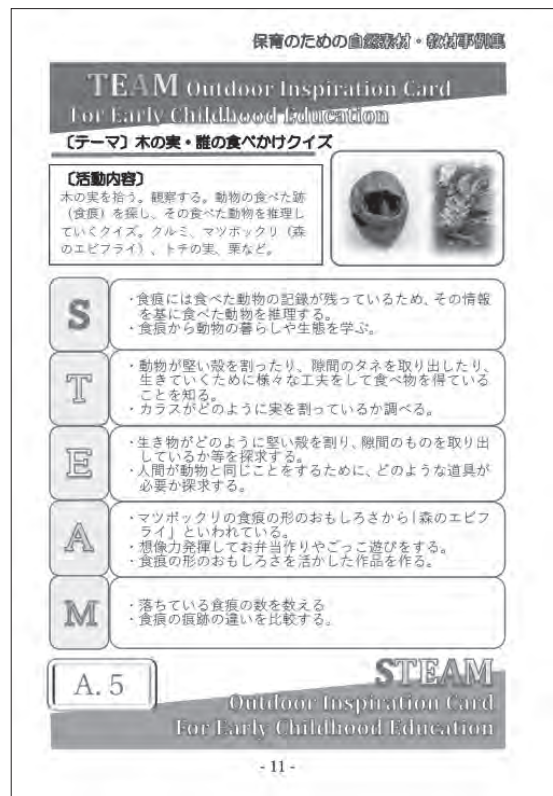


図2. 「木の実」の事例. P11

【課題と展望】

本教材事例集は、STEAMSTEAM教育の視点から自然環境下における素材や教材、保育活動の可能性に焦点化した。取り上げた事例はごく一部であるが、自然環境下での遊びは「不思議さ」や「創造性」に満ちあふれ、改めてSTEAMSTEAMの視点から捉え直すことで、多様な学びや発見があることに気づくことができた。こうした自然環境下での学びや発見は、プロジェクトや探求活動のテーマへと発展する可能性があることも見えてきた。また、自然環境下での遊びや学びが、その後の学習のどの分野に関連しているのかという視点にも繋がるが見えてきた。その一方で、それぞれの素材や教材をどのように保育活動に取り込むのか、子どもたちとの対話を通してどのように問いを立てるのかなど、保育の専門性に関わる新たな課題も浮き彫りとなった。これらの課題と丁寧に向き合いながら事例を積み重ね、その情報を発信していくことは、現場の保育者にとって自然を活かすための有効な手掛かりとなり得るのではないかと期待している。

最後に、「自然環境下は子どもたちの探究心を育む豊かな学習環境である」という認識が深まり、保育者と子どもたちがわくわくしながら自然の魅力を探求できる保育が、日本中に広がることを期待したい。

【本研究に係る主な成果】

- 1) 「自然を活かした保育活動を促す教材開発の試み—地域資源の活用とSTEAM教育に着目して—」 柴田卓・柴田千賀子、郡山女子大学紀要第59集 2023年3月
- 2) 「自然で遊ぼう、学ぼう、探求しよう！STEAMの視点で広がる保育のための自然素材・教材事例集」 郡山女子大学短期大学部 自然保育・運動遊び研究室 柴田卓 2023年8月発行. ほか

養成校と地域が連携した自然保育の人材育成・確保に向けた実証的研究

堤 裕美 (上田女子短期大学幼児教育学科)

助成年度 令和3年度〔活動期間 2021 (令和3) 年6月-2023 (令和5) 年6月〕

活動の流れ 一連の研究活動は以下のように実施された。

2021年9-11月 信州型自然保育認定制度特化型施設への視察

－対象：山の遊び舎はらぺこ (伊那市)、認定こども園ちいろばの杜 (佐久穂町)

2021年12-1月 地域が抱える保育課題及び自然保育等推進に係る基礎調査

－対象：長野県内77自治体

－企画・実施：堤裕美・多田幸子・酒井真由子・木俣知大

2022年1月 令和3年度自然保育実践報告会

－報告者：上田市すがだいら保育園、上田市室賀保育園、上田女子短期大学附属幼稚園

2022年9-11月 信州型自然保育認定制度普及型施設への視察

－対象：筑北村立筑北ひまわり保育園、上田市武石保育園、上田市室賀保育園、

上田市すがだいら保育園、伊那市立西箕輪保育園、伊那市立西箕輪南部保育園

2022年12月 上田女子短期大学学生による視察体験を報告・共有する会

－参加者：信州型自然保育認定制度普及型施設への視察に同行した 学生

2023年1月 信州保育情報交換会「今、『保育』でできること-環境の充実から考えよう-」

－企画・発表者 (堤裕美・多田幸子*)、モデレーター (関裕子*)

*いずれも所属は上田女子短期大学幼児教育学科

作成した報告一覧 別紙にて提出した資料は、以下のとおりである。

1) 信州型自然保育認定制度特化型施設への視察

－多田幸子・酒井真由子 (2022) 長野県における自然資源を活用した就学前の保育・幼児教育の実践事例に関する報告 上田女子短期大学学術研究所所報第1号, 107-119

2) 信州型自然保育認定制度普及型施設への視察

－多田幸子・堤裕美・関裕子 (2023) 長野県の公営保育所における自然資源を活用した保育実践の報告 上田女子短期大学学術研究所所報第2号, 87-110

3) 地域が抱える保育課題及び自然保育等推進に係る基礎調査

－堤裕美・多田幸子・関裕子 (2023) 地域が抱える保育課題及び自然を活用した保育に係る基礎調査の報告 上田女子短期大学附属図書館紀要第46号, 13-27

4) 養成校と地域が連携した自然保育の人材育成・確保に向けた実証的研究 (最終活動報告)

－堤裕美・多田幸子・関裕子 (2023) いま、保育でできること 長野：学校法人北野学園上田女子短期大学堤裕美研究室

視察事業の概要 2021年には、信州型自然保育の特化型の私立就学前施設 (2施設) における野外活動を重視した保育実践を参観した。両施設はそれぞれ、地域の特色である自然物・自然地を活かした保育を行うとともに、学齢期より先を見据えた長期的で継続的な発達支援の場としての自園の場としての自園の可能性可能性について示唆したり模索したりしていた。

また、2022年には、信州型自然保育の普及型の公立就学前施設 (保育所、6施設) における野外活動をデイリープログラムに取り込んだ保育実践を参観した。保護者や地域住民との協力関係の中で、山林での自由遊びや田畑での栽培・収穫活動、小動物の飼育活動などを実施しており、その過程で、子どもだけでなく保育者にも、自然物や自然地に関わる学びが経験されていた。また、施設によっては職員の異動に備えて、地域の自然とかがかわる遊び・活動の実績を引き継ぐ具体的手立てが検討されるなどしていた。

自治体向け自然保育推進に係る基礎調査の概要 2021年には、長野県の特徴といえる地域の自然資源を活用した保育や幼児教育の現状と、県内における保育・子育ての課題について、77自治体を対象とする質問紙調査を実施した。

39自治体（50.6%）から回答があり、まず、保育者確保状況に関する認識としては、39自治体の自治体の9割は保育者不足を認識しており、また公立施設の保育者の採用状況・応募状況はというと採用そのものは「正規」も「非正規」も「変わらない」又は「やや増えていく」との回答の方が多く、応募自体自体が減っていた。自治体が認識する保育行政の課題として、「とてもあてはまる」の回答に最も選ばれたのは「保育者の確保・定着」であり（回答の61.5%）、また、保育現場が認識する保育課題として、「とてもあてはまる」、「まああてはまる」の回答を合わせて最も選ばれた項目は「保育者の育成」であった（回答の92.3%）。

長野県では、2015年に「信州型自然保育」認定制度が施行されたこともあり、自然保育等の推進を通して取り組んでいること（回答の71.9%）、取り組みたいこと（回答の57.9%）のいずれにおいても「保育・幼児教育の質向上」が回答として選ばれていた。そのために、保育者に必要だと思われるスキルについて尋ねたところ、「地域資源への知識や興味関心」が回答の71.1%、「園外活動でのリスクマネジメントに関する知識」が回答の68.4%、「地域」、「地域の人と関わる力」が回答の回答の60.5%と、地域に開かれるために必要な知識や経験、コミュニケーション力などが注視されていることが窺がえた。

成果報告会の概要 2023年には、視察事業と自治体向け質問紙調査の成果を報告し、保育行政担当者や保育者との保育に関わる情報交換会を実施した。構成は、第一部で長野県内の77自治体を対象に行ったアンケート調査の結果報告、第二部で長野県内の6つの公立保育園への現地視察の結果報告、第三部でフォーラム『保育×環境（人・自然・時間・場所・しくみ）』であった。第三部では、モデレーターが参加者に、「保育環境で大切にしていることはなにか」、「人・自然・物的・地域・時間・しくみ等、保育環境で課題としていることはなにか」という問いを投げ、小グループごとに意見交換を求めた。また、長野県内の三自治体（上田市・伊那市・筑北村）の保育者に、地域の自然を活かす日常的な保育の一端を事例等を交えて紹介してもらい、最後に、先述の小グループ単位で、「環境の充実」にあたって、各保育者が今、なにを優先者に取り組んでいくべきかを議論し、結果を全体に報告することを求めた。議論の結果として、各グループからは、自分たちの日々の保育に関する発信力を高めること、職位の別なく話し合える対等な職員関係づくりの重要性などが報告された。

森のようちえん活動基盤の整備・推進事業

特定非営利活動法人 遠野エコネット

〒028-0661 岩手県遠野市附馬牛町上附馬牛 19-530

1. 活動の概要

本事業では未就学児を対象に森林や森林資源を活用した森のようちえんを開催し、発達段階に応じた遊びを通して、幼少期から豊かな自然と共に育つ環境をつくることを目指した。

まずは2021年度にフィールド整備やスタッフを中心としたプレ森のようちえん（モニター実施）を行い、2022年度から月に一度の森のようちえんの活動を定期開催した。プレ森のようちえんでは、次年度からの本格的な開催に向け、活動エリアの検討や安全管理の確認などを行った。また勉強会や視察を実施し、スタッフの指導力向上や、一般市民の関心の向上を図る取り組みを行った。2回実施した森のバザーでは、森のようちえんの活動の紹介と運営資金確保を図った。

2. 活動の成果

本事業を通して、森のようちえんを継続実施するためのスタッフ人材の確保・指導力の向上、活動フィールドの整備などの、活動基盤を整えることができた。2022年度から月に一度定期開催しており、今後も継続して実施をしていく。プログラムの組み立てなど、実施する中で課題も見つかっており、改善しながら取り組んでいきたい。また視察を実施できたことで、情報交換のネットワークができた。今後活動する中で、他団体とも連携をしながら進めていきたい。

3. 参加者の声

- ・季節の野菜を育てて収穫しその場で食べることに、森の中の散策、キノコ探し等、子供だけでなく親の私もワクワクしながら参加しておりました。
- ・今年参加させて頂き、活動の経験やスタッフの方の対応など非常にありがたいと感じておりました。特にスタッフの方々の子どもの自主性を大切にされた関わり方が非常に勉強になりました。
- ・一年を通して参加することで様々な体験をすることができ、親子共々大満足しています。

実績報告とりまとめ表

実施時期		2021年11月3日～ 2023年6月21日	2021年10月31日～ 2023年6月17日	計	備考
事業量 又は 事業内容		森のバザー：計2回開催 勉強会：計2回開催 視察：計2回開催	森のようちえん：計15回 開催		
参加者数	県内	92人	128人	220人	
	県外	0人	人	人	
	計	92人	128人	220人	
実施場所		岩手県 遠野市			

令和4年度「緑と水の森林ファンド」公募事業

普及啓発事業 69件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額	備考
A1	黒松内ぶなの森自然学 校運営協議会	添別ブナ林を活用した森林環境教育活動（森のようちえん）	北海道	250	82,000	
A2	沖館地域緑の募金推進協会	眺望山自然休養林を活用した健康増進活動	青森	200	200,000	
A3	青森県緑の少幼年団連盟	青少年への緑を通じた環境教育推進事業	青森	800	800,000	
A4	特定非営利活動法人 おどろ木ネットワーク	コロナに負けない里山 SDGs 活動	青森	700	700,000	
A5	岩手県立 大野高等学校	里山整備に若い力を～きのこプロジェクト～	岩手	350	275,029	
A6	特定非営利活動法人 遠野エコネット	森フェス 2022 in 遠野	岩手	750	750,000	
A7	特定非営利活動法人 水守の郷七ヶ宿	森はサステナブル、未来 にむけて学び、行動しよう！ ESD アクション for SDGS	宮城	300	300,000	
A8	特定非営利活動法人 SCR	自然にふれよう 山のがっこう	宮城	400	397,049	
A9	NPO 法人 角館里山再生プロジェクト	沈黙しないでピカピカ里山にしませんか	秋田	650	650,000	
A10	あきたグッド・トイ委員会	「木のおもちゃとあそび」木育推進プロジェクト	秋田	900	895,429	
A11	ガールスカウト 山形県連盟	フォレストサポート・2022	山形	250	250,000	
A12	置賜「地材地住」ネットワーク	地域材の利用拡大と木育の推進事業	山形	700	700,000	
A14	ヤサトジム	暮らしと森林のつながり発見事業	茨城	400	400,000	
A15	青年海外協力隊茨城県 OV 会	「協力隊の森」Y20	茨城	200	129,773	
A16	なか自然の会	荒廃している里山林（5ha）の再生と活用事業	茨城	350	350,000	
A17	くまの木里山応援団	高原山麓の森林の保全・再生活動と普及啓発	栃木	600	600,000	
A18	ぐま森林インストラクター会	森はともだち 楽しくまなぼう 森友 学校	群馬	300	300,000	
A19	ちば里山・バイオマス 協議会	竹林整備と竹炭づくり、竹炭を活用してヒサカキを栽培する	千葉	600	600,000	
A20	特定非営利活動法人 観照ボランティア協会	子どもと森をつなぐためのリーダー養成講座（第7回）	千葉	400	400,000	
A21	一般社団法人 産業環境管理協会	森林を巡る国内の動向等に関するシンポジウム 森林の利用等による SDGs 達成のための普及啓発活動	東京	500	435,205	
A22	International Society of Nature and Forest Medicine	「医師と歩く森林セラピーロード」	東京	700	700,000	
A23	公益財団法人 Save Earth Foundation	「森から学ぶ」森林の生多様性と生態系を考える	東京	900	899,715	
A24	「森づくり政策」市民研究会	森林と人との関わりから、持続可能な社会の実現を市民協働で考える連続講座・意見交換会	東京	850	850,000	
A25	NPO 法人 くにたち農園の会	身近な森林で自然遊びを体験し、森への関心を深めよう	東京	900	900,000	
A26	「森林・林業・山村問題を考える」シンポジウム実行委員会	シンポジウム「地域が育てる・地域を育てるー地方留学と農山漁村の未来ー」（普及啓発シンポジウム）	東京	900	900,000	
A27	NPO 法人 木育・木づかいネット	地域材利用を体験的に学ぶ教材及びデジタルコンテンツの制作	東京	800	800,000	
A28	一般社団法人 全国森の循環推進協議会	「水が繋ぐ地域と世代」促進事業 森と水のまつり・影祭り	神奈川	1,000	1,000,000	
A29	特定非営利活動法人 自然文化誌研究会	森林資源の実際的な活用と伝承と森林環境教育	東京	400	400,000	
A30	公益財団法人 オイスカ	「森林生態系など自然の力を活用した課題解決」（仮称）講演会の開催	東京	1,000	972,755	
A31	第6回全国木のまちサミット実行委員会	第6回全国木のまちサミット2022 in ひのほら	東京	1,000	1,000,000	
A32	一般社団法人 東京学芸大 Explayground 推進機構	参加体験型森林学習教材の開発と全国の緑の少幼年団等での学習支援事業	東京	900	755,054	
A33	森のようちえん 風のいろ	森で遊んで一緒に大きくなろう	福井	200	116,305	
A34	さとやま子育てコミュニティ いけだのそら	子どもも大人も、思いのままに自然とつながる体験活動	福井	200	200,000	
A35	森のようちえん富士山フォーラム実行委員会	第17回 森のようちえん全国交流フォーラム at 富士山	山梨	1,000	1,000,000	

A36	NPO 法人 調和の響き エコツーリズムネットワーク	「社会的共通資本」としての財産区および財産 区有林	長野	350	344,152	
A37	北アルプス広葉樹活用研究会	北アルプス地域の里山広葉樹活用のための都市 部こだわり層向け映像資料制作および普及啓発 事業	長野	750	745,243	
A38	(一社) いび森のようちえんこだぬき	森の輪ひろば	岐阜	350	316,633	
A39	「三重の木の椅子展」実行委員会	「三重の木の椅子展」開催事業	三重	600	600,000	
A40	社会福祉法人 森の風学舎	親子で里山で作物を育て、暮らす場を整え、里 山の暮らしを体感しよう	三重	500	500,000	
A41	特定非営利活動法人コミュニティねっとわーく 高島	小さな林業の暮らし方を学ぼう	滋賀	300	300,000	
A42	特定非営利活動法人 京都森林・木材塾	地域産木材利用促進啓発事業	京都	250	250,000	
A43	やまぐに (林業女子会@京都)	木育 森の恵み発信プロジェクト 森へのパ スポート	京都	500	500,000	
A44	一般社団法人 森のようちえんどろんこ園	森を楽しむワクワク育児! 『森のようちえん体 験会』と『おやこまつり』	京都	400	400,000	
A45	フィールドソサイエティー	寺林を守り育てる森林環境学習活動	京都	250	250,000	
A46	崇仁すくすくセンター実行委員会	挿し木を介した都市部の緑化に関する教育普及 と福祉の実践 (崇仁すくすくセンター挿し木プ ロジェクト)	京都	700	700,000	
A47	NPO 法人 サウンドウッズ	森とまちをつなぐ木材コーディネーターによる 「木づかい社会」 定着のための普及啓発活動	兵庫	1,000	1,000,000	
A48	奈良教育大学附属中学校裏山クラブ	森林生態系から身近な自然を考える ESD ワ ークショップ～子どもと親をつなぐ「親」林空間 の形成に向けて～	奈良	700	698,821	
A49	特定非営利活動法人 隠岐しぜんむら	森林を活用したプレーパーク活動	島根	200	200,000	
A50	公益社団法人 島根県緑化推進委員会	保育園・幼稚園等における森林環境教育の推進	島根	900	900,000	
A51	特定非営利活動法人 ひろしま自然学校	森のフリースクール	広島	500	420,429	
A53	ふくの森の会	コナラ・クスギの伐採後、萌芽を育てシカ害を 防ぐシカ柵の設置	山口	350	350,000	
A54	特定非営利活動法人 徳島県森の案内人ネット ワーク	少年少女里山マイスター養成講座	徳島	550	550,000	
A55	とくしま木づかい県民会議	「とくしま木づかいフェア 2022」の開催	徳島	800	800,000	
A56	ひょうたん島まちなか再生機構	まちの緑が輪づくりプロジェクト	徳島	700	700,000	
A58	NPO 法人 みんなダイスキ松山冒険遊び場	「由良野の森」の森のようちえん～親子自然体 験事業～	愛媛	400	400,000	
A59	環境ネットワーク「虹」	地域の生物多様性保全に向けた森林 ESD 推進 プロジェクト 2022	福岡	700	700,000	
A60	NPO 法人 九州森林ネットワーク	第 27 回九州森林フォーラム in 熊本県水保～ア フターコロナ社会における九州の森林づくり・ 家づくりの行方～	熊本	900	900,000	
A61	天草ヒノキプロジェクト	飲食店と連携して行う地域材利用の普及啓発 「天草の木づかい」キャンペーン	熊本	700	678,000	
A62	一般社団法人 NATURE&HUMNS JAPAN	母なる森に還る	熊本	500	499,920	
A63	大分川ダム周辺のつはる里山保全活動実行委員 会	みんなで作ろう里山自然教室	大分	450	450,000	
A64	NPO 法人 アシストパルオオイト	森の資産を活かす「農産物とバイオマス利用」 で地域創生へ。	大分	750	750,000	
A65	妙音山を守る会	妙音山森林自然公園を中心とした里山林保全活 動	大分	450	386,208	
A66	鹿児島県森林ボランティア連絡会	日本三大砂丘「吹上浜」の白砂青松再生事業～ 「森林ボランティアの日」森林づくり活動～	鹿児島	1,000	1,000,000	
A67	特定非営利活動法人 らんらんらん	森に親しみ、その大切さを理解、保存していく 事業	鹿児島	700	700,000	
A68	特定非営利活動法人 もりびと	山村地域の森の循環を学ぶ体験事業	鹿児島	550	550,000	
A69	NPO 法人 おおすみ 100 年の森	未来につなぐ大隅の森 100 年構想事業	鹿児島	350	226,000	

調査研究事業 10件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額	備考
B1	岩手大学	特別支援学校における森林環境教育とそのため の森林公園利用に関する調査研究	岩手	500	265,987	
B2	特定非営利活動法人 Support for Children	埼玉県における園庭や裏山等を活用した自然保 育に関する実証的研究	埼玉	350	179,873	
B3	独立行政法人 国立病院機構東京医療センター	森林医学に基づいた予防・健康づくりを担う医 師養成システムのあり方に関する実証的研究	東京	700	700,000	
B4	個人	健康経営における森林サービスの活用: ビジネ スパーソン向けの研修における森林の持つ複 合的な効果についての研究	東京	700	635,582	
B5	一般社団法人 全国森林レクリエーション協会	高齢化の進んだ山村の地域資源である森林空 間と有用植物の新たな活用に関する調査	東京	600	600,000	
B6	一般財団法人 林業経済研究所	住宅の温熱環境と木質材料の関わりについて の調査研究	東京	700	700,000	
B7	公益社団法人 森林・自然環境技術教育研究セ ンター	ECO-DRR による森林グリーンインフラ整備の 推進	東京	700	700,000	
B8	鶴見大学短期大学部	自然保育者に求められるコンピテンシーに関 する研究	神奈川	500	500,000	
B9	一般社団法人 日本認知症予防学会	認知症予防に向けた森林活用	福岡	800	800,000	実施期間 の変更
B10	鹿児島大学農学部	山の神祭事の継承と現代的意義に関する調査研究	鹿児島	600	599,858	

基盤整備事業 15件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額	備考
C1	学校法人 尚綱学院	森でコミュニケーションしよう「里山再生プロ ジェクト」	宮城	450	450,000	
C2	倉渕ヤマアジサイの会	ヤマアジサイの森の調査隊とボランティア育成	群馬	500	494,190	
C3	特定非営利活動法人 Peace Field Japan	大学生を対象とした森林環境教育プログラム	東京	300	300,000	
C4	子ども樹木博士認定活動推進協議会	子ども樹木博士認定活動の活動支援の充実と ネットワークの強化による森林環境教育の推進	東京	600	600,000	
C5	上智大学大学院 地球環境研究科	ソフィアの森の整備	東京	600	582,999	R5.2.17
C6	モリダス	安全で楽しい里山保全活動を指導できるリー ダー養成事業	東京	750	731,194	
C7	のいちご会	森林の活用方法を学び、健やかな持続可能な暮 らしを考える「森のきほんを学ぶ講座」開催事 業	長野	650	650,000	
C8	ぎふ森 遊びと育ちネットワーク	森のようちえん・プレーパークの活動サポート 事業	岐阜	400	397,164	
C9	奈良県森林ボランティア連絡協議会	陀羅尼助(だらにすけ)の郷で森林づくり in 天川村洞川 Part3	奈良	550	518,000	
C10	森林ボランティア団体 もりゆう	里山・自然体験リーダー・インストラクター人 材育成@東広島	広島	700	699,494	
C11	山内自治振興区	『森林資源を暮らしに活かす』先人の知恵を未 来につなぐ体験事業	広島	900	863,315	
C12	とくしま森林づくり県民会議	徳島県森林づくりリーダー養成講座	徳島	600	600,000	
C13	情報交流館ネットワーク	令和4年度 森林ボランティアリーダー養成講座	高知	600	599,709	
C14	宮崎県みどりの少年団連盟	宮崎県みどりの少年団総合研修大会	宮崎	600	600,000	2022/9/5
C15	NPO 法人 こどものけんちくがっこう	産学協同で取り組む「こどものけんちくがっこう」	鹿児島	1,000	1,000,000	

国際交流事業 2件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額	備考
D1	日本自然保育学会第7回 大会実行委員会	自然保育に関する公開シンポジウム及びユース セッション	新潟	650	650,000	
D2	国立大学法人 琉球大学	IUFRO OKINAWA 2022: Progress in Small-scale Forestry beyond the pandemic and global climate change	沖縄	800	800,000	

令和2年度「緑と水の森林ファンド」公募事業（事業期間延長分）

普及啓発事業 1件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額	備考
A41	木育全国生産者協議会	ユネスコ遺産にも認定された「和食」における「木づかい」についての調査・普及事業	長野	800	800,000	期間延長 1年

基盤整備事業 1件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額	備考
C11	公益社団法人 徳島森林づくり推進機構	「FAB とくしま」を活用した「緑のインフルエンサー」養成事業	徳島	1,000	1,000,000	期間延長 1年

令和3年度「緑と水の森林ファンド」公募事業（事業期間延長分）

普及啓発事業 3件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額	備考
A16	一般社団法人 キッカケスクエア	新宿区内における既存の環境を利用した森林環境教育および森のようちえん活動実施の基盤づくり	東京	850	992,484	2022/ 6/29
A18	International Society of Nature and Forest Medicine	「医師と歩く森林セラピーロード」	東京	1,000	825,272	2022/ 6/17
A22	一般社団法人 TOBUSA	「つくって、つながる」木の魅力発見プログラム2021	東京	500	500,000	2022/ 5/31

調査研究事業 4件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額	備考
B1	仙台大学 柴田研究室	幼児のストレスに及ぼす森林環境の生理学的効果 計測と自然保育啓発	宮城	1,000	1,000,000	2022/ 4/26
B2	郡山女子大学 短期大学部	幼児期における学習環境としての森林の教育的効果に関する研究	福島	1,000	831,268	2022/ 5/20
B5	Momo 統合医療研究所	「働き方改革実行計画」に合わせた、森林空間を活用したメンタルヘルス対策推進の仕組みづくり・プログラム開発・効果検証	東京	700	700,000	2022/ 6/30
B6	上田女子短期大学	養成校と地域が連携した自然保育の人材育成・確保に向けた実証的研究～農山村地域における幼児期からの森林環境教育の推進に向けて～	長野	1,000	985,782	2022/ 6/30 2023/ 4/24

基盤整備事業 1件

番号	申請者	事業名	都道府県	採択額 (千円)	実施額	備考
C2	特定非営利活動法人 遠野エコネット	森のようちえん活動基盤の整備・推進事業	岩手	550	550,000	2022/ 5/20

令和 4 年 度

「 緑と水の森林ファンド 」

公 募 事 業 募 集 要 領

公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館（B棟5F）

TEL 03-3262-8457 FAX 03-3264-3974

令和4年度「緑と水の森林ファンド」公募事業募集要領

はじめに

社会環境の変化に伴い、国民の森林・みどりに対する関心はますます高まっており、具体的な「国民参加の森林づくり運動」を一層推進することが課題となっています。

平成24年12月「国際森林デー」の制定、平成25年11月「国連持続可能な開発のための教育10年（ESD）」世界会議等の意義、平成27年9月の国連サミットで採択された17の国際目標（SDGs：持続可能な開発目標）、人生100年時代におけるライフステージに応じた健康・教育・観光等への森林空間利用の促進を念頭に、森林の重要性に対する理解の推進を図るとともに、森のようちえんなど新たな森林の利用や森林環境教育の推進を具体的に図っていくことが重要となっています。さらに、東日本大震災では海岸林が多大な被害を受け森林復興への支援が引き続き求められています。

このような中、公益社団法人国土緑化推進機構では、「緑と水の森林ファンド」の基本課題である森林資源の整備及びこれらを通じた水資源のかん養や森林の利用等に関する総合的な調査研究、普及啓発、基盤整備等の推進を図るため、幅広い民間団体の参加による国民運動として展開することを目的に、「緑と水の森林ファンド」公募事業を実施します。

以下に定める事項に基づき申請して下さい。

〔重点項目の設定〕

「緑と水の森林ファンド」公募事業による助成は、以下の重点項目に沿った4分野（普及啓発、調査研究、活動基盤の整備、国際交流）の事業に対し、重点的に助成を行うこととします。

≪重点項目≫

- 1 「森林環境教育（森のようちえんを含む）」、「震災復興支援」、「地域材の利用」、「地球温暖化防止と森林」、「森林と水」等の課題にポイントを置いた総合的・効率的な普及啓発
- 2 地域材、森林空間の利用促進等山村資源の有効活用等による山村地域の活性化
- 3 リーダーの養成等の森林ボランティア活動支援
- 4 学校林活動や緑の少年団活動の推進など森林環境教育（森のようちえんを含む）等による次世代の育成
- 5 森林の公益的機能、木質バイオマス、森林環境教育等に関する調査研究

〔1〕助成対象者

(1)民間の非営利団体（次の①又は②のいずれかに該当する団体や地域の自主的な活動組織）

①「特定非営利活動促進法」（平成10年法律第7号）に基づく特定非営利活動法人

②以下の要件を満たす団体等

ア 規約等により適正な運営が行われることが確実であると認められること。規約等には、名称、事務所、会員、役員構成、事業運営、会計年度等について規定されていること。

イ 営利を目的としないこと。

(2)非営利の法人

(3)個人（調査研究に限る。）

〔2〕助成対象事業

1 普及啓発

(1) 森林・緑・水に対する国民の認識を深めるための普及啓発

(2) 青少年を対象とする森林ESDの推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育の促進

- (3) 森林づくり活動や森林の総合的利用を通じた山村地域の活性化・地域づくり運動の推進
- (4) 地域材の利用・木材需要の拡大、古紙利用推進に関する普及啓発

2 調査研究

- (1) 森林の保全・公益的機能の増進等に関する調査研究
- (2) 青少年を対象とする森林ESDの推進（森のようちえんを含む）など森林環境教育に関する調査研究
- (3) 学校林や学校周辺林の教育的活用のための調査研究
- (4) 地域材・山村資源の有効活用等山村地域活性化に関する調査研究

3 活動基盤の整備

- (1) 森林ESD（森のようちえんを含む）や緑の少年団活動など森林を活用した環境教育等の青少年の育成に関するもの
- (2) 森林ボランティアリーダーの養成・ネットワーク構築等
- (3) 森林づくり活動を通じた農山村と都市住民等との交流促進

4 国際交流

- (1) 国内で開催される森林に関する国際会議への支援
- (2) 森林・林業に関する海外との情報交換

ただし、上記〔1〕、〔2〕に該当するものであっても次の各号に該当する場合は、助成の対象となりません。

- ① 専ら特定の事業者の利益のために行われるもの
- ② 他の団体等への資金の助成等を内容とするもの
- ③ 事業が申請者の負担において行うべきものと認められるもの
- ④ 事業内容が一般に広く波及効果があると認められないもの
- ⑤ 事業が自主的・組織的な活動と認められず、適切に完遂できると認められないもの

〔3〕事業期間

令和4年7月1日から令和5年6月30日まで

〔4〕助成対象経費

(1) 助成の対象となる経費は、次のとおりです。

項 目	区 分	摘 要
講師・指導者・学識経験者への謝金等	謝 金 等	外部からの招請者に限る。 (旅費：実費、宿泊費：ビジネスホテル程度。)
調 査 研 究 費	労 賃 等	外部の技術者等（旅費実費・宿泊費ビジネス）
会 場 費	借 上 料	設営費を含む。
事 務 費	用 品 費	
	印 刷 費	報告書・パンフ・チラシの作成
	通 信 費	
	そ の 他	
資 材 費	器具・用具代	購入（事業実施に必要な簡易なもの）、借上げ
森林づくり活動等のボランティア活動	受入れ施設費	公共施設等を宿舍として一括借上げる場合の宿泊費
	交 通 費	事業場所最寄り（公共交通の最終地点）の集合・解散場所から事業場所までの交通実費（チャーター料等）
	保 険 料	ボランティア等傷害保険料

(2) 助成の対象とならないもの

- ①食糧等飲食費。
- ②汎用性があり資産の形成につながる資材の購入。
- ③森林ボランティア活動の
ア 労賃
イ ホテル、旅館、厚生施設等の宿泊費
ウ 居住地から事業場所最寄り（公共交通の最終地点）の集合・解散場所までの交通費

[5] 助成金の限度

団体100万円、個人70万円

[6] 応募方法（助成申請書の提出）

申請者は、[様式1]「緑と水の森林ファンド」公募事業助成申請書を（公社）国土緑化推進機構へ郵送して下さい。

[送付先] 公益社団法人 国土緑化推進機構 基金業務部あて
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4 砂防会館別館（B棟5F）
TEL 03-3262-8457 FAX 03-3264-3974

[7] 募集期間

令和4年2月1日から令和4年3月15日まで（消印有効）とします。

[8] 助成申請書に対する採択・不採択の決定及び通知

助成申請書に対する採択・不採択については、森林ファンド業務検討会及び森林ファンド運営審議会の審議並びに当機構の理事会を経て決定します。

また、助成金額は、その適正な交付を行うため、当機構理事長が当該助成申請書を審査して決定し、7月上旬申請者に[様式2]により通知します。

[9] 実績報告書等の提出

事業採択を受けた申請者は、事業の開始前に「別紙1」のスケジュール表を提出して下さい。

また、事業完了後2ヶ月以内に[様式3]の「緑と水の森林ファンド」公募事業実績報告書と「別紙2：報告要旨」を当機構に提出して下さい。なお、[別紙2：報告要旨]は、報告集として取りまとめ公表致しますので、電子データでの提出もお願いする予定です。

[10] 領収書の添付

実績報告書の提出に当たっては、同報告書の2決算報告(2)の支出欄の森林ファンド助成金支出内訳の決算額に対する領収書（明細書を含む。）を添付して下さい。

[11] 助成金の交付

- (1) 助成金の交付は、事業実績報告書を助成申請書の事業計画等に即して審査を行い、適当と認めた経費を確定し、その旨を通知した後、指定の口座に送金します。
- (2) 事業着手後に助成金の一部が必要な場合は、助成交付決定額の1/2以内の額を[様式4]により、概算請求をすることができます。

[12] 事業計画に当たっての注意事項

事業の計画に当たっては、新型コロナウイルスに関する基本的なガイドライン（国土緑化推進機構）等を参考に予防対策等を十分に考慮して下さい。

「緑と水の森林ファンド」公募事業 報告集 Vol. 14

令和 6年 3月発行

発行 公益社団法人 国土緑化推進機構

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館

TEL.03-6362-8457 FAX.03-3264-3974

電子メールアドレス : info@green.or.jp

URL : <https://www.green.or.jp>



緑と水の森林ファンド



小さな林業の暮らし方を学ぼう
特定非営利活動法人コミュニティネットワーク高島（滋賀県）